

写真で演じるヴィジュアル・マガジン———隔月刊

演劇ぶっく

E N G E K I B O O K

第3号

500yen

利賀フェスティバル'86・リポート ——— 制作 第三エロチカ 川村毅

今秋青い鳥は青い実をたべる 5人の青い鳥に聞く
今注目の!? PIC UP 5 part 1

宝塚・星組 峰さを理 Interview パンプティ・井の頭劇場・ショーマ

遊・機械/全自動シアター・ちゃかぼこ調書

宝塚・星組

峰さを理 Interview 羽根の美学



Interview 野田秀樹・如月小春・山口小夜子・蜷川幸雄・土方巽・松本雄吉・合田佐和子

Stage photograph 大地真央・夢の遊眠社・マルセル マルソー・市川猿之助・ギリヤーク尼ヶ崎・コミック ギグ
内田春菊 and なんさん



演劇ぶっく

第3号

1986.9

表紙=「十二夜」より

photo・神村光洋

利賀フェスティバル'86+川村毅制作ノート 4

夢の遊眠社「走れメルス」野田秀樹インタビュー 10

いま注目の!? PIC UP 5 part 1

遊の機械/全自動シアター ちゃかぼこ調査 井ノ頭劇場

ランプティ・パンプティ ショーマ 14

市川猿之助「伊達の十役」 20

日本維新派「路地坂の祭り」 松本雄吉インタビュー 22

宝塚歌劇団星組「レビュー交響楽」峰さを理インタビュー 26

合田佐和子のエキゾシズム日本考1 土地の磁力 30

今秋青い鳥は青い実を食べる 青い鳥5人に聞く 32

劇団青い鳥 はばたくスターたちとおすすめ人 川崎徹 34



如月小春インタビュー 36

コミック ギグ 内田春菊ほか 37

朝倉摂ヴィジュアル・パフォーマンス 生きている劇場 38

山口小夜子インタビュー 「忘れな草」 40

大地真央 「十二夜」 42

パフォーマンス・ファイル「アクツ・フロム・アンダー・アンド・アバヴ」
マルセル・マルソー 44

発見の会韓国公演「河内音頭・堀川波鼓」 47

韓国演劇事情ひとかじり 48

ベルリン舞踏フェスティバル実況報告 50

月蝕歌劇団「帝国人形病院」俳優インタビュー 52

第三舞台大高洋夫 話題の人インタビュー

49・51・53

土方巽インタビュー 東北から裸体まで 54

吹けよ東風!! 俺はアジアの自閉症その2

蜷川幸雄インタビュー 57

NINAGAWA 少年少女鼓笛隊による
「血の婚礼」 59



フロムリーダーズ 74

Main Dish 上杉清文+田口智朗 梅本承平
河口仁 山崎哲+さらいまるこ 60

ギリヤーク尼ヶ崎 64

ランダム・アクセス 勅使川原三郎 そとばこまち ひとみ座
P プロジェクト・ナビ はみだし劇場 65

小劇場演劇の軌跡③ 境界を超えたラディカリズム 福田昭彦 68

プランニング・ニュース 身体が物語る、その感動 72

合掌造りの村が日本の演劇祭のメッカとなって五年目を迎えた。今年も七月二十九日から八月九日まで、富山県利賀村で「利賀フェスティバル'86」が開かれた。ギリシャ劇の古里デルフィ市と姉妹都市になり、また米カリフォルニア大学と共同で図書館の建設が始まり、さらに新しい劇場の建設と衛星中継スタジオの建設の話が進むなか、利賀村は、今や、世界の演劇が出会う場から新たな演劇の創造の場へと変身しつつある。



利賀フェスティバル'86 リポート

主催 国際舞台芸術研究所

7月29日↓8月9日 富山県東砺波郡利賀村

文・松本小四郎
写真・宮内 勝

アルス・シアター
パッコス信女 (ギリシャ)

イズマエル・イヴォ フェニックス (ブラジル)

ピック・アップ・カンパニー マイ・フォックス他 (アメリカ)

狂言「木六駄」(日本)

アメリカ、ブラジル、ギリシャ、日本から十一の劇団が参加した今回の利賀フェスティバルは、古典と現代の華々しい競演の十二日間であった。

そのなかで、ブラジルのダンサー、イズマエル・イヴォの『フェニックス』はじつに感動的な舞台だった。

ブラジル黒人の抑圧と虐待の歴史からの解放と永遠の飛翔を象徴するフェニックス神話を題材としたダンスは、音と肉体が過激となつて私たちの体の奥底でいつまでも共振し続けるような魔術的な魅力に溢れていた。

舞台を這い、野外劇場を駆け巡り、白いバラソルをかがけて踊る褐色の鋼のような肉体と、黒人の怒りと悲しみを奏でるエレキ・パイオリンのメタリックで透明な音楽と打楽器の激しいサンバのリズムがエキサイティングに競演する舞台に、観客は酔いしれていた。

このイヴォの天性の肉体が表現する神話の世界とほぼ対極をなす現代をテーマにしたのが、アメリカのダンスグループ「ピック・アップ・カンパニー」の舞台である。

ナイン・ライプス『ケー・ビース』『マイ・フォックス』の三つの作品からなる今回の舞台は、過去と現在と永遠をテーマにした、即興と偶然と遊戯を巧みに構成するアメリカ・ポスト・モダン・ダンスの豊かな才能を遺憾なく見せてくれた。

こうしたダンスの華麗な競演のなか、演劇もまた古典と現代との華麗な競演を繰り広げた。古典劇のもつ現代性が今回ほど魅力的に見えたことはなかった。

野村万作の『木六駄』とギリシャの『アルス・シアター』の『パッコス信女』はその最たるものといえる。

狂言がいかに豊かな現代性を秘めた演劇であるか、『木六駄』の冒頭の牛追いの場面や暗転による場面転換の演出などに鮮やかにでていた。野村万作の現代に対する演劇人としての姿勢ぬきには、今回の成果は生まれなかったといってもいいすぎでないほど素晴らしい舞台であった。

しかし、古典劇のもつ豊かな現代性が観客に深い衝撃を与えたとしたら、ギリシャの『パッコス信女』をあげなければならぬ。

五人の俳優によるこのギリシャ劇は、伝統的な解釈から果敢に逸脱を試みる新たな実験として高く評価しなければならないだろう。

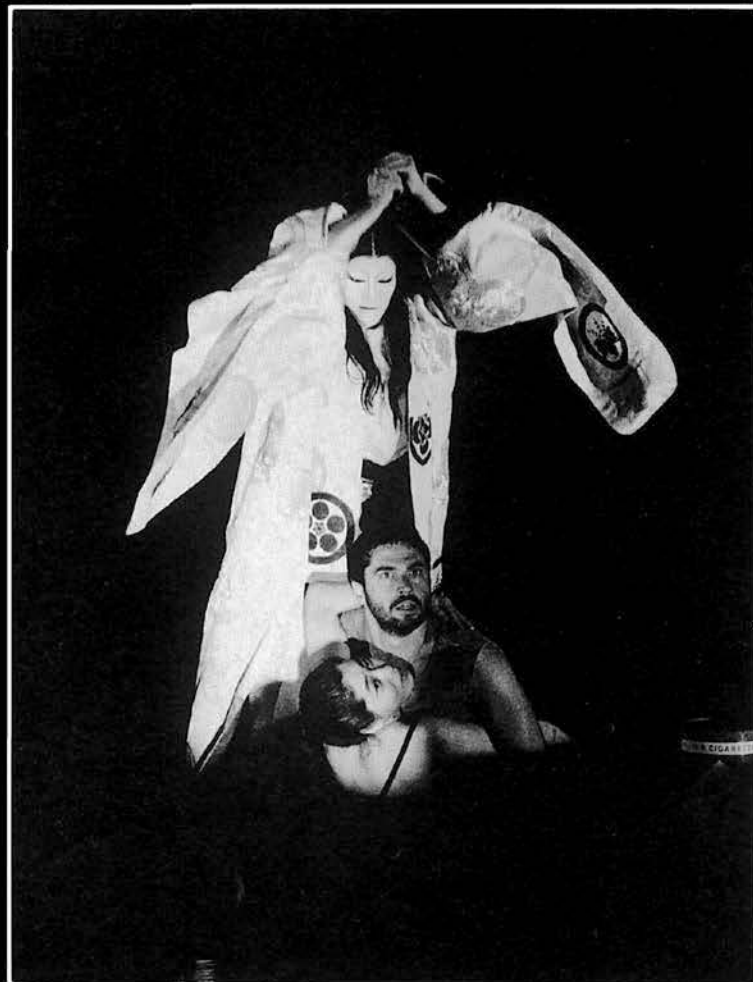
現代的なテーマに非常に富んでいた。

だが、この古典劇のもつ多様な現代性がそのまま現代劇の多様性と見事にドッキングしたのが、今回のフェスティバルの優れた成果の一つといえる。

劇団「D.A.M.」の『はれほれふらら 愛その2』は、へ即興という新しい視点から現代の男と女の愛の物語を描いた意欲的でも可能性を秘めた舞台であった。

また、岸田事務所+楽天団の『忍 其之武』は、東京下町の長屋に住む女たちと戦場から帰ってきた男たちが、戦争によって失われた自分を探すドラマであるが、岸田理生の戯曲と和田喜夫の演出は、男を待つ女の昭和史と





王妃クリテムネストラ

劇団SCOT(日本)

三人姉妹

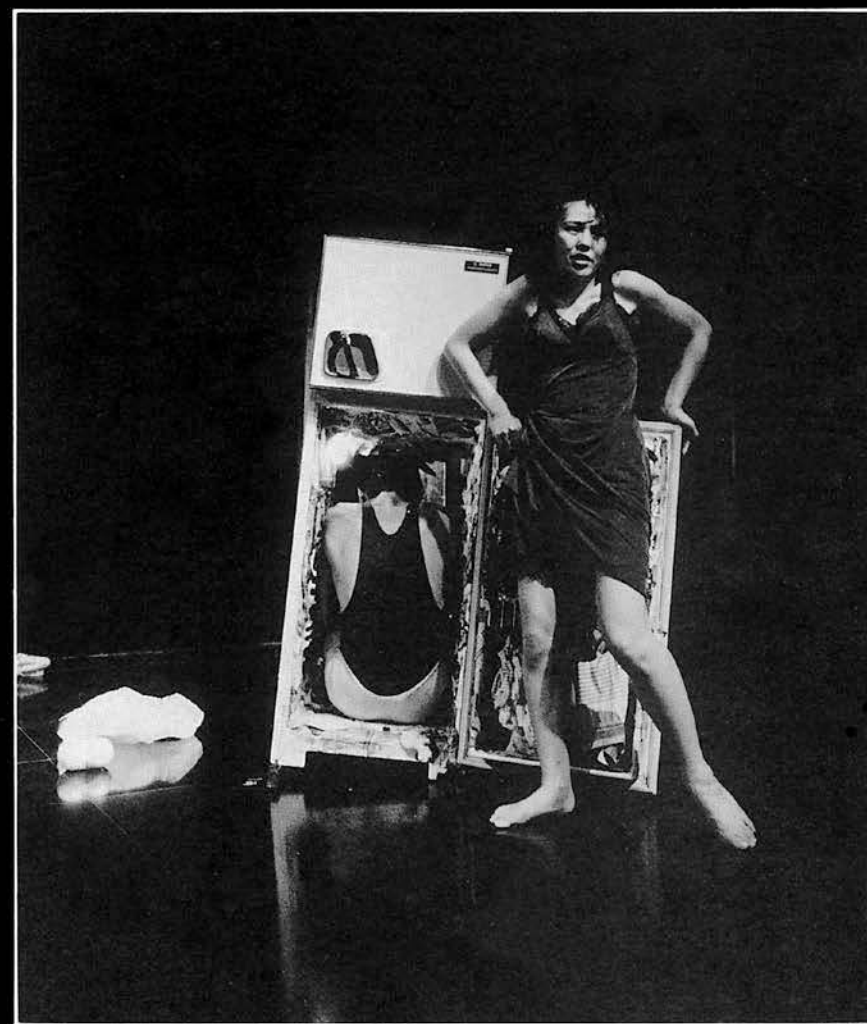
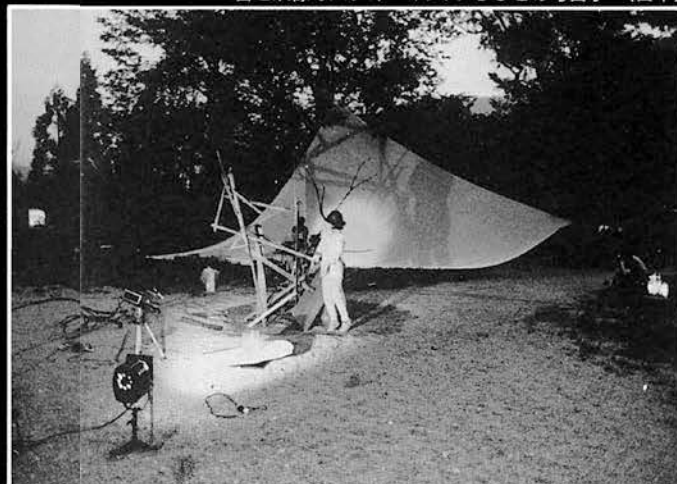


岸田事務所+楽天団 恋 其之貳 (日本)



『桜の園』

音と映像のパフォーマンス ひびきの考古学 (日本)



劇団DA・M はれ ほれ ふららー愛その2ー (日本)

のは、無国籍都市エフェメラから飛び立った若者たちの一人Rが、全頭脳スー・エレンに「あんたを壊すのがおれ達のビジョンだ」と叫び、スー・エレンが「そのビジョンがこの戦争だ」と答えて炎と煙のなかに崩れさっていく瞬間である。このとき、野外劇場は、一斉に打ち上げられる花火に明々と照らし出され、そして硝煙のたちこめるなか、廃墟と化した地上を見つめる若者たちの姿には、烈しくストイック個性が漂っていた。

過去の記憶を駆け巡った後の静寂のなかで、私たちは、舞台全体が、地上から監獄を掃くために新しい監獄をこしらえた」というアンドレイ・シヤフスキーの黙示録の世界と重なり合っていく瞬間をこのとき目撃したのである。

こうした若手劇団の意欲的な公演が新たな演劇の幕開けを告げるかのように、鈴木忠志もまた、古典と現代とをさらにラディカルな視点から舞台化していた。

『三人姉妹』と『桜の園』を一時間三十分にとめた『ザ・チェーホフ』は、来年さらに『イーノフ』を加えて完成をみるが、今回の舞台で圧巻だったのは、チェーホフの世界を見事なまでに簡潔に造形してみせた白石加代子をはじめとする劇団「SCOT」の俳優たちの厳密に抑制された演技だろう。

そのことは、野外劇場で公演された『王妃クリテムネストラ』も同様であった。オレス・テス伝説を、鈴木忠志は、過剰なほどヴィジュアルなイメージによって構成することで、母性と父性の葛藤のなかで崩れ去っていった家族の生々しい悲劇を見事に現代劇に仕立て上げていた。

しかし、今回の利賀フェスティバルでもっとも印象的であったのは、川村毅が八月八日のシンポジウムの席で、近い将来もう一度野外劇をやる発言したこと、鈴木忠志が記者会見で、利賀村を新しい演劇の工場にする発言していたことであった。

利賀村は、たしかに新たな演劇をつくる場になりつつあった。

が現代と多層的にオーバーラップするような幻想的で神秘的なハトスの世界を緻密につくりだしている。

そうした硬質でフラットな愛と幻想的で神秘的な恋が映し出す現代というハトスをより過激に舞台化したのが、劇団「第三エロチカ」の野外劇ニッホン・ウォーズであった。

八月六日、小雨の降る野外劇場は異様な雰囲気につつまれていた。もともと密室劇としてつくられた芝居がいったいどのような野外劇に変貌するのか、私たちは期待していた。

川村毅はその期待に充分にこたえた。

まさしく野外の夜空に鮮烈に飛び散っていく壮大なスヘクタクルであった。

そのなかで、なんといっても圧巻であった

制作ノート

利賀フェスティバル'86
野外劇

ニッポン・ウォーズ

第三エロチカ 川村 毅



●月△日

やはり芝居の稽古に入っていると、通常の精神状態ではいられないことだろう。前回の「ラスト・フランケンシュタイン」の自分の制作ノートを読むとそのあまりの暗さに気恥ずかしくなっていた。

それはまるで何かがつりついたかのような暗さだ。今回は明るめな感じがするが、どうなるだろうか。もともと「ニッポン・ウォーズ」というすでに二度の公演を行なっている舞台なわけで、新作ほどの苦労はないが、利賀村の野外劇場における公演ということで、周りは雲をつかむ思いである。



劇団第三エロチカ 野外劇ニッポン・ウォーズ (日本)

劇団員の中には、野外劇場というので、本当の野っバラでやるのかと思ひ込んでいる者もある。そう言えば、鈴木忠志氏のところへ打ち合わせに行った時、同行していた郷田和彦が鈴木氏に真顔で、「野外劇場には電気が通ってるとんですか」と尋ね、失笑を買っていた。後でみると、郷田は映画の「ベン・ハー」よろしく劇団員が劇場の地下で一斉に自転車こいで、自家発電を起こして電気を通していると本気で思っていたらしい。私は恥ずかしくなってしまう。

過疎の村、利賀ということで「便所はあるのか」とか「フロはあるのか」とか都会からおよそ一歩も離れたことのない我が劇団員は、まさしく未開の奥地に旅するつもりでいる。それらにいちいち説明するのも面倒臭いから、

「行きやあわかるよ」
の一言で済ます。

●月×日

稽古場が歩いて三分のところにあり、サンダルつかけてチャチャチャ行くのだが、銭湯に行くような気分が気合いが入らないことおびただしい。しかも梅雨が晴れてやたらと暑い。「ラスト・フランケンシュタイン」の際悪性のアセモが出てそれは今だに完治しない。頭にくる。まったく頭にくる。近所の飲み屋で酔っ払った劇団員が私の家へ押しかけ



劇団第三エロチカ 野外劇ニッポン・ウォーズ (日本)

てくるが、居留守を使って締め出す。まったく今だにこんなところの演劇サークルみたいな楽しみ方をして、喜んでいられるという精神構造がわからない。よほどヒマなのか。それともあふれる青春(ベツベツ)の置き場所がないとでもいうのか。まあ役者はそれでもいいだろうが、座長として存在する者はそう純粋に青春などやっつけられない。どこか老人でいなければならぬ。

アングラ、小劇場という言い草はどこか青春の匂いがして私には臭くてかわわない。

●月○日

どうも酒の飲み過ぎである。今日は干そうと思っていたが、稽古の途中でやたら気分が上向いて、焼肉と紹興酒をガンガンやってしまった。

●月□日

利賀村で「ニッポン・ウォーズ」の公演の翌々日にシンポジウムをやることが決まり、たのまれて断わりきれなかった。

まるで気分が乗らない。

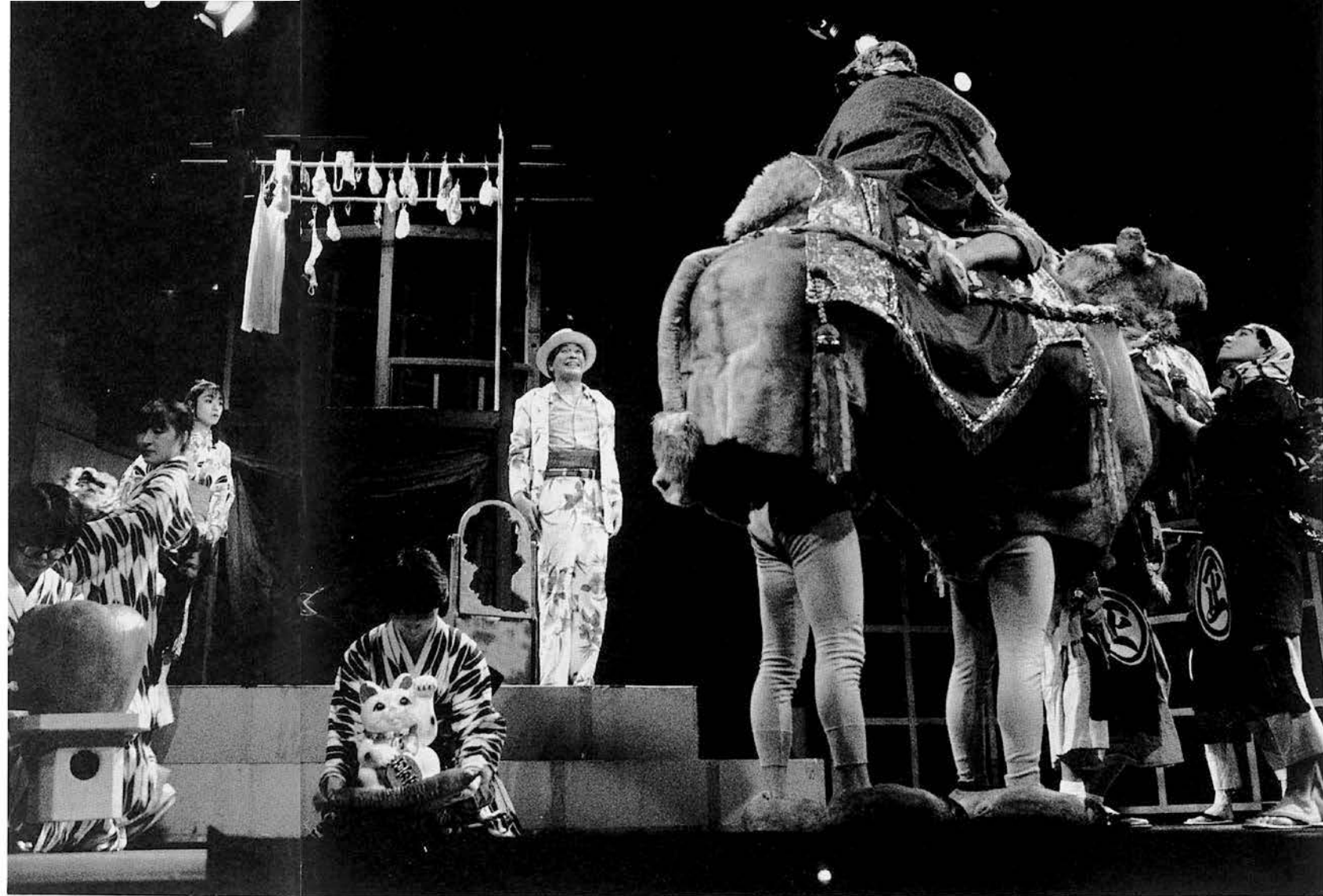
芝居のことなんかしゃべりたくもない。どっかの女といちゃつきながら海でのんびりしたい……。

芝居のことしか考えてない芝居屋などロクでもないものだろうと思う。とにかく今年も海へは行けそうにない。せめて都会のホテルのプールにでも行ってハイレグカットのねえちゃんのケツでもながめるか。



土井 芝居を見始めたのは、その頃ですか？
野田 そうですね。金を出して見始めたのはね。天井桟敷の「邪宗門」も渋谷の公会堂で見たしね。歴史的な舞台だったわけだけど、ぼくにはあんまり面白くなかった。「アングラはやだなあ」とか思ったね(笑)。迫力はあったけど、ただ、最近つまらないハフォー・マンズがやたらあるでしょう。ああいうのを見ると、「なんだ、ぜんぜん「邪宗門」の方がいいや」とか思うよね。
土井 他にはどんなものを見てました？
野田 そうね、別役さんのものもよく見に行ってたけど、いつもデッカイところで上演してたから、面白くなって、あんまり好きじゃなかったな。
土井 劇団を始めてからは？
野田 最初の頃はいろいろ見てたけど、最近は見えてないね。
土井 見てみたいと思います？
野田 うん、やっぱり同じくらいだね、若い人の面白さって評判のところなんかは、見ようと思うんだけど、なかなか見に行けないね。
土井 たとえば、どんなところ？
野田 第三舞台とかね。
——ここで同席の東宝宣伝部の曾田氏より、インタビューの土井さんが第三舞台の振付をしていたという説明が入る(編集部)——
土井 あそこはいつも野田さんのパロディが好きでやってますよ(笑)。第三エロチカは？
野田 あそこはあんまり見たいと思わない。なんか名前がね(笑)。というより、アングラは、ものすごく真面目にやっていた頃のものを知ってるからね。何か今さら、ということかんじ

photo・原田大三郎

劇団
夢の遊眠社
公演

走れメルス

少女の唇からは
ダイナマイト

作・演出 野田秀樹

●公演データ
7月3日・28日
本多劇場
8月2日・5日
近鉄劇場
●キャスト
松澤一之
段田安則
上杉祥三
田山涼成
山下容里枝
竹下明子
円城寺あや
松浦佐知子

取材・インタビュー 土井美和子
写真 太田善博



土井 ベストテンの応募はどれくらいハガキがきたんですか？
野田 五万通くらいきたらしいです。
土井 一位が「小指の思い出」だったってことは予想出来た？
野田 あれは予想出来たね。
土井 私は「センダ城の虜」(九位)が良かったって思ってた。「大脱走」が三位にきたのは、あれは名前通りだね。
野田 あれはよくもくるかと思ってたけど、やっぱりかなり前だからね。見てない人が多いのかなあ。
土井 「走れメルス」(二位)は、何度も上演しているからかしら。
野田 そうね。それにストーリーが明快でしょう。
土井 ところで、「十二夜」の時に、宝塚を見てたって話がありましたけど。
野田 ええ、見てましたよ。
土井 誰が好きなのスターがいたとか？
野田 別に、そういうのじゃなかった。
なにしてほくの好きな女の子が宝塚ファンで、そればかり行っていたの(笑)。
土井 意外というかなんかものを見てるんですね。野田 そうね。蛭川さんのものもよく見た。わりとつまらないのを見てる。「ノートルダム」のせむし男とかね(笑)。あれは途中で帰っちゃった。それだけですけどね、途中で帰ったのは。
土井 それは、蛭川さんを見てたのは、日本の演出家の中では注目してたということ？
野田 注目じゃないよね。蛭川さんのことから見ておこう、だね。それに、ぼくは十六歳の時に見るのね。例の「僕らが非情の大河を下る時」をアートシアターでね。その時、すぐに「いいなあ」と思った。あれは、僕の高校の演劇の友達か力やで出たの。それで見に来いって言われて行っちゃった。だからその後は、けっこう見ます。



円城寺あやや休演のため零子役に扮した野田(中央)



があるのね。違う苦労した方がいいんじゃないか、とか思っじゃない。

土井 違う苦労というのは？

野田 そんなに叫ばなくてもいいじゃない、とかさ。芝居か。

土井 テントの芝居なんかも見に行つてたわけですか？ 状況とかセンターとか。

野田 状況は見てましたよ。「蛇姫様」が最後かな。それで「このへんは乗り超えられるな」と、一番うしろの方で、ニンマリしながら見てたね(笑)。

土井 じゃあ、わりと最近ですね。

野田 二十二、三歳までかな。

土井 「第三舞台」なんかには、制作の高萩さんとか、役者の人も、上杉さんとか見に来てるみたいですね。

野田 マメですからね、高萩なんか笑。でも、うちの劇団は、ほかか他のところのを見に行つて、「あれは面白かったとかいうと、ビビるんだよね。だから、JACみたいなのを、「あそこはいいなあ」と。でも、この間も見て、久しぶりにいいと思った。

土井 どういうところがいいわけですか？

野田 よく動くからね。あれだけ動くと気持ちいいから。芝居としては成立してないけれども。

土井 ところで、「十二夜」に海眠社にいた治田敦さんが出てますね。

野田 昔、劇団にいた役者で帝劇とか大きい所に出てるのがいるんだよね。「十二夜」でもと海眠社にいた花添智之が、真夜中に電話かけてきて、「出してくれよなんて言ってきた。「おれはお前を落としたい」と言つてやつたけど(笑)。スケジュールの合わないから。

土井 「ON」っていうので主役をやつたんですね。

野田 あつて、あいつ面白いよ。あいつはやるなって言つたの。休団でいいからつて言つてやつたのに。好きてやめてつたんだから(笑)。決してやめさせたわけじゃない。

土井 ところで、最近、新人はとつてます？

野田 去年からとつてますよ。

土井 今、全部で五〇人くらいですか？

野田 まあ、手伝いとか入れて五〇人くらい。土井 平均年齢は、いくつくらいになりますか？



東宝の「十二夜、夢の遊眠社」の「走れメルス」の2本の舞台を演出した野田秀樹。その活躍ぶりを、ドキュメント風に追ってみる。

●7月2日、「走れメルス」の舞台稽古。遊眠社の舞台に役者として出演しないのは初めての体験。いつもの舞台稽古なら、演出席から楽屋に走り、メイクをして舞台に立つという忙しさ。ところが今回は、周囲の役者、スタッフ、それぞれに忙しく動き回っている中で、ロビーのいすにすわって手持ちぶさたの様子。「ここまで来ると、演出家ってヒマなんだね」と実感。

●7月5日、「十二夜」初日を迎える。「日生のお客さん、初めのうちはかなり戸惑つたよ。ただ、進むにつれて笑いも出て、最後にはのってくれたみたいだね。稽古場でつくっているときに、ここはきつとウケるだろうと思つたところは、ほとんどはずれることなくウケていたよ」。

●双方の公演がスタートし、日生劇場と本多劇場を往復する日が続く。そんなある日、日生劇場のマチネのあと、本多劇場に向かう途中、地下鉄の中で、おばさんが近づいてきて「サインして下さい」とたのまれる。さし出されたのは「十二夜」のプログラム。「これで遊眠社に新しい層のお客さんを開拓できるんじゃないかな」。

●7月9日午後、「走れメルス」に、零子役で出演中の円城寺あやが、急性盲腸で入院。手術するため休演。とりあえず、体があいていてだんまりもわかつているのは、野田しかいないということ。急きよ彼が代役をつとめることになる。さつそく、上杉梓三など相手役を集めて猛稽古。零子役はウエディングドレス姿で登場するのだが、円城寺のものではサイズが合わない。そこで大至急用意された衣裳は、なんと衣裳担当の人が自分の結婚式で着た本物。なにしろ突然の代役で、トチリもあるにはあったが、そこは御愛嬌。逆に周囲が食われてしまうようなところも多々あり、客席も大喜びで、無事幕が降りる。

●翌日、千秋楽まで野田が代役をすることに

決定。かねてから予定していたニューヨーク行き(12日から)をとりやめる。

●「十二夜」出演者一同という名で、野田あてにオルゴール付きの電報が届いた。文面は、「サヨウナラ、ニューヨーク、コンニチワ、ホンダゲキジョウ。マサカ・マイチ、テラノクコトハナイノデ、アンシンシテガンバッテクダサイ」というもの。

●代役の初日を終えた次の日から、野田は零子役の役づくりに励み始めた。「小指の思い出」でも女役をやるので、似てしまつてはいけないというわけだ。「小指」が妖艶な女であるのに対して、零子は、はすっぱで明るい感じを出したいという。そこで、カツラもおかつばから、フラッパヘアに変えた。

●遊眠社の中で、「十二夜」を観たいという人が続出。しかし、連日大入りの「十二夜」チケットが手に入りにくい上、出演中の役者たちは、公演が重なってない時間でないといく観に行けない。となると、演出家にたのめばOKだろうと、みんなが野田に申し出る。あまりにも、次から次へとたのまれるもので、彼はオレはチケット窓口じゃね」と言を上げた。

それでも、ふだんチケットなど扱ったことのない彼が「日生の楽屋に張つてある表」チケットがまだ少しはある日時を書いたものを、わざわざうつつして来たという。そんなわけで、公演中にもかかわらず、50人近くいる劇団員のほとんどが、「十二夜」を観劇。

●「十二夜」を観た劇団員の感想は、「いつも自分たちの舞台を観たことがないもので、外から観ると「あー、ウチの芝居ってこんな風に見えるんだ」と、あらためて思つた。みんなが、バツと走ってセリフをいったりして、面白かった。でも、ウチの方が、もつとはやいんじゃないかな」全般的に人気が高かったのは、橋爪功。

●7月28日、共に千秋楽。「十二夜」が、マチネのみ、「走れメルス」がソワレのみ。野田は「走れメルス」に出演のあと、大地真央主催のパーティーにとんで行き、また戻つてきて遊眠社の打ち上げにまにあつたという。双方の打ち上げにかけもちで出て、多忙をきわめた数ヶ月が終わつた。

●8月1日、野田秀樹はおよそ一ヶ月遅れて、ニューヨークへと旅立つた。

劇団夢の遊眠社公演予定
小指の思い出
作・演出 野田秀樹
9月5日～30日
東京・本多劇場
10月4日～10日
大阪・近鉄劇場
☎03-496-1051 劇団事務所

★ ★

遊●機械／全自動シアター

僕の時間の深呼吸

—ぼくは夜中に台所でこっそり懐中時計を呑みこんだ—より



「こんな時、オムライスが出てきたらなァ…」カギツ子のつぶやきとともに冷蔵庫からコックたちが舞い出てくる…

Photo 奥島基教

観ているだけなら罪はない どうせやるなら下剋上 どこまでゆけるか名御期待 演劇界の青田買い PIC UP 5/1—

PIC UP 5/1

Part 1

取材構成 落合星文

劇団代表 白井晃

テーマですか？役者自身が楽しく遊べればいいな、と言うことですね。今回の芝居も台本は無いんです。スタッフにも、きつかけをきめてあるだけで。役者自身が、今、やりたい役をもってくるわけですね。そこで演出家の登場となるわけですね。それを見ながら、「うーん、じゃ今回は時間の話にしよう」と、一つのシーンは初め三十分ぐらいあって、それを削って、議論しながら作っていくという、初めに役者在きと云うか。今はドラマが多様になっているから、もの

すごいドラマを起しても、やけに説明的になつたりするんじゃないかと、それより自分たちのイメージだけ、ポーンと与えておいて、あとはお客さんにふくらませてもらおうと。役者のエッセンスだけで。分担するより意外性がある、今のところ。むだな労力も多いんですが（笑）。

小劇場のライヴ感も好きですが、大劇場で大スケタクルもやってみたいですね。場所にとかわらず、臨機応変に、柔軟不断に、です（笑）。



白井晃

S三十二年京都市生まれ、その後大阪に移動。S四十九年 高校二年の時、突然、学校がいやになり、通学電車にのったまま学校へは行かず、大阪城によく登った。

S五十二年1浪後京都私大に入學。

S五十二年京都大学、西部講堂で見た、早稲田「新劇場（現D・A・M）」のお手をどうぞで芝居をやりたくなり、「早稲田に行こう」と、いきなり思う。

S五十七年演劇研究会では珍しく、早大を4年で卒業、某有名広告代理店入社、もう芝居はやめた！と思う。

S五十八年やっぱり芝居が好きだったので十二月、遊●機械／全自動シアターを結成！



Surong Atsuko TAKAIZUMI

遊●機械／全自動シアター

早稲田大学演劇研究会のOBを母体として82年12月に結成。84年3月「忘れ標識・誰が僕」で旗揚げ公演。11月「星のないうねねたりうむ」85年6月「凍てついた果ての夏」この作品より脚本を用いず、役者のエチュードからシーンを創作する手法をとる。10月「夜の地球★たち」85「気遣い仲間のお茶会」6月「僕」の時間の深呼吸



遊●機械／全自動シアター公演予定

題未定

11月下旬より

☎03-336-9460 白井

写真集

ザ・グラフィティ

いま演劇の異兄弟姉妹たち

定価2300円

「鴻上尚史」

デジャ・ヴュ'86

「定価1200円」

「北村 想」

機械仕掛けの林檎

「定価850円」

「山崎 哲」

異族の歌

（好色一代男）併載

「定価1800円」

新水社

〒102 東京都千代田区飯田橋1-6-8三友ビル302

☎03(261)8794 振替・東京5-36898

劇団演出 橋本裕志

北海道からこっち(東京)に出て来た時に面白い劇団って早稲田「新」劇場くらいしかなくて、がっかりしたんです。最近の芝居ってギャグで盛り上げているエンディングで落ち込ませて多いでしょう。煙に巻くというか、そんなに薄くないぞってアミはってね(笑)僕はそういうセオリ無視ですね。煙に巻くって客から見れば「金はらってんだぞ」ってね。表現なんだから相手に分らなければ意味ないですから。僕はできるだけ分りやすくやりたいです。

橋本裕志



Starting Osamu FUKUDA



井ノ頭劇場公演予定
タイトル未定
12月17日~21日
アートシアター新宿
作・演出 橋本裕志
☎0425-72-6804

井ノ頭劇場 ストラスビーズ

— 種の起源 — より



最近は大衆芸能と云うか、単純な悲喜劇をやってみたいですね。芸能って云うと日本では安っぽく見られがちですけど、芸術のほうで僕そだったたり(笑)。でも今、そういうのやってみないと、しょうがないんじゃないかと思えますね。

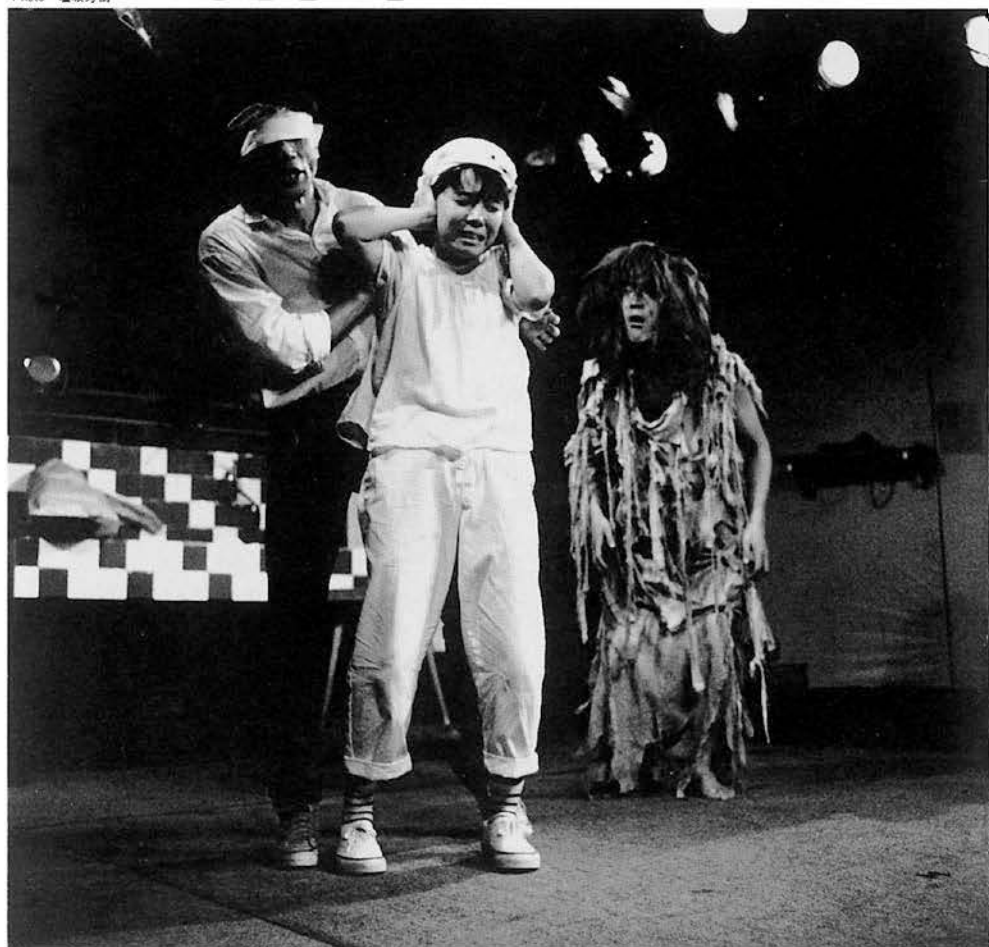
「ぴあ」に女優募集を出して、五人くらいハガキがきて、会ったのが三人、稽古に来たのが二人で、このたのがゼロ(笑)。今回も他の劇団から客演してもらってね。男優はいるんですが、女優募集って載せなくて下さい(笑)。

井ノ頭劇場
83年4月路上劇「結婚式」新宿歩行者天国で上演。83年5月渋谷駅前「天国」上演。83年8月杉並区善福寺公園にて鉄パイプ脚本を使い野外劇場を作り「からだのあかり」事業上の旗上げ公演。連日雨降り。84年7月8月福田理一人芝居「聖夜」東北12ヶ所で連続公演。85年10月「聖夜II」12月「聖夜III」その間9月10月にかけて全国10大都市連続公演「青空」上演。86年2月15月「聖夜」月に一度の連続公演。86年5月「ストラスビーズ」上演。作家、橋本裕志、デヴィュー。

劇団ちゃかぽこ調書 南の海で、僕の魂を呑みこんで

劇団ちゃかぽこ調書公演予定
狼は天使の匂い—再演—
87年1月
テアトロ・イン・キャンピング
☎0727-61-9674小町谷哲

Photo 塩坂芳樹



Starting Naome KURODA



洞口ゆずる



劇団代表 洞口ゆずる
僕らの先輩たちが、近代劇を乗り越えようとして、近代劇を解体し、反転し、組みかえて成果を挙げたけれど、そして、それは舞台における肉体的復讐にはかならないのだけれど、僕らの時代精神がピンとくるものは、意外と保守的な外見をもつものだと思うんです。つまり、こけおどしのな仕掛けとかわざとらしい誇張はかえって邪魔なんです。それよりも、気のきいたプロットと切れ味のいい役者としておきのテーマ……というようなオーソドックスな演劇。ただ、その中でさり気なく

いひとつの仕掛けの成否が芝居を左右するというような。その仕掛けがとっても難しいんですね。こんな風に言うともまるで料理自慢の種明かしみたいだけれど、やっぱり似ていると思うんです。オーソドックスなやり方を大切にするという点で。

なによりも気晴らしの時代であり、誰もが浮遊感覚を持ち、わたしはわたしであることの拡散に耐えているってのが今でしょ。ちょっとおかげさな。でも、そうした「今」の流れの中で、僕らのヒントになりうる作品を提出したいですね。

35年9月9日兵庫県生れ、本名大輪一博。54年大阪大学文学部入学、演劇学というところでもないものを専攻し、あの山崎正和の最低の生徒となる。4年の頃芝居に本気になり、5人の仲間と劇団を旗揚げ。56年頃に頼みこんでやっとなを卒業。

82年6月旗揚げ公演「こぞあど時の時」上演。82年11月「ママミラ」83年2月「花咲く都は何処のメリア」83年5月「Kitchen Waylauerの夢」83年9月「uglians Complete」不思議の胡桃の物語」84年3月「百鬼丸惨状」第3回カンパニ演劇祭スタッフ賞受賞。84年8月「イカロスの封印」85年3月「200Xのドンキホーテ」同月洞ロ、「イカロスの封印」で第3回カンパニ演劇祭賞佳作受賞。85年6月「スカトロジョー」初めての東京公演85年11月「最後の晩餐」2度目の東京公演。86年1月「イカロスの」改作「もげん翼は天使のシレン」86年3月「200X」の改作「狼は天使の匂い」で第1回テアトロ・イン・キャンピング戯曲賞受賞。86年7月「南の海で僕の魂を呑みこんで」で3回目の東京公演。

……その個性を
生かします!

専属女優 西井由規
NHK大河ドラマ
「春の波濤」・フジ
TV「もめん家族」
などに出演。

10月より、フジTV・昼帯ドラマ、
「あによめ」(月~
金曜13:30)出演
決定!



専属男優 水野ヒトシ
TBS「スクールウ
ォーズ」出演。
雑誌「HOT DOG
プレス」モデル。
その他多数出演。

新人タレント
役者 募集

着実に1人1人を育てあげます!

☆資格
18才~28才までの男女。
履歴書(写真貼付、全身上半身自己PR、返信用切手100円分同封の上郵送して下さい)。
☆オーディション
第1次書類審査の後、合格者のみ第2次オーディション日時を通知します。
オーディション合格後
ハセガワエージェンシー特設スタジオで短期レッスン、その後、当エージェンシーとタレント専属契約を致します。

HASEGAWA
エージェンシー

〒158 東京都世田谷区奥沢4-27-3-103
☎03(726)3277(代)
☎03(726)3288(タレント課)

観ているだけなら罪はない どうせやるなら下剋上 どこまでゆけるか乞御期待 演劇界の青田買い PIC UP 5/1

Part 1

Sharing Tachiyoshi KATO



Starting: 1 day before



高橋しさを

劇団シヨーマ ボクサ 特別公演

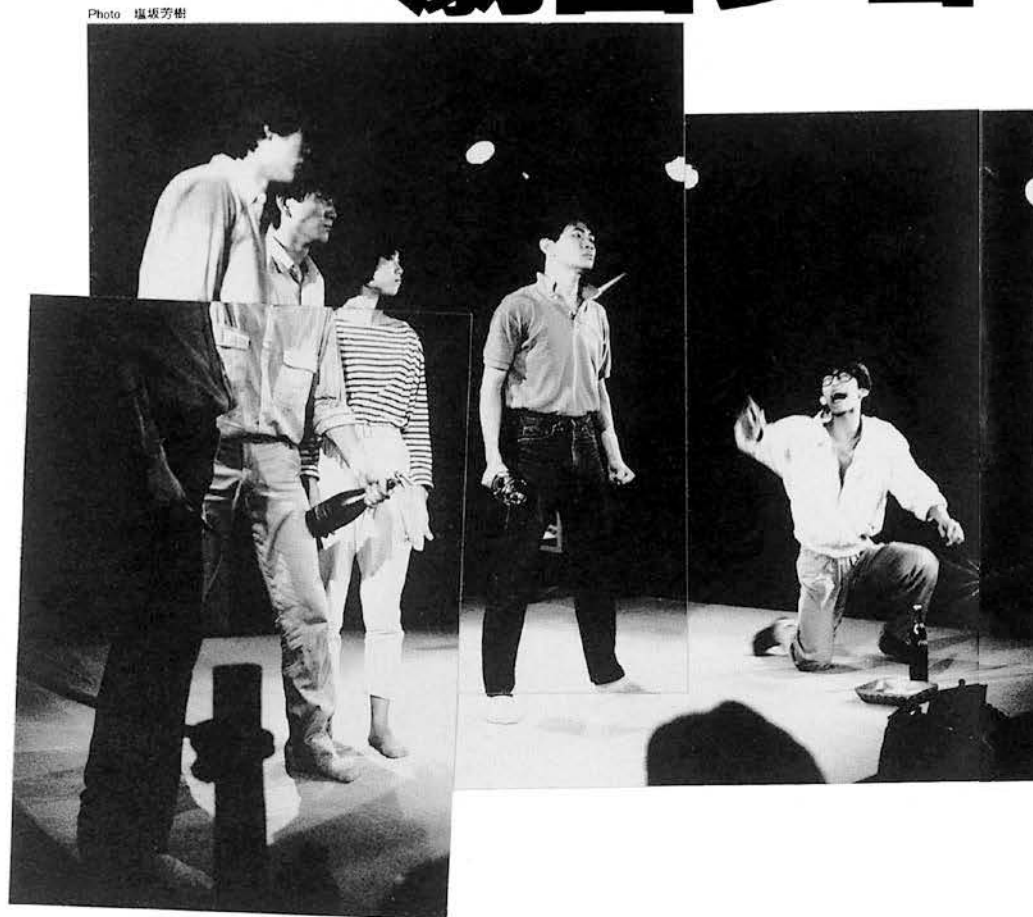


Photo 嵐坂芳樹

“夢”を演出

する！

●基本に著実、本格的俳優養成教育機関

●昼・本科へ俳優養成コースへ

一年（定員30名）

東京綜合芸術学院

〈渋谷教室〉
東京都渋谷区桜ヶ丘17-12館野ビル3F
〈世田谷教室〉
東京都世田谷区桜新町1-8-10

ランプティ・パンプティ **黄金狂時代**
 狂い咲きドルー・ザ・キッ

—狂い咲きビリー・ザ・キッド—

72 **Shoring** Megumi SINAZAKI



Starring: MEGHAN CLEGGAN

松本きょうじ

作家になろうと思ったが入った日大芸術学部で、芝居を知り「摩天楼」の創立に加わる。その後、緑川幸雄氏の投げた灰血をひろったリ(近代能楽集の演出助手しながら今日に至るが、心はいつもバンドマンドだった(ムチャクチャな俺は…))

現在、誰も誘ってくれないのでひとりさみしくフーリに誘って「女の過去と水着の関係さつぷるの終末感」について考えています。ある法則を発見したので後日発表する事にします。

ランブティ・パンフティ

84年2月「A Hノレンンシアターグリーン審査員特別賞受賞」84年6月「ビリーザキッド」84年10月「WELCOME」85年3月「Z・Z・Z」劇団3000に次ぐ、3回目のシアターグリーン大賞に輝く。85年6月「Z・Z・Z」改訂版。85年11月「ギリガン君 SOS」86年3月「モンキーズの樹の下で」86年7月「黄金狂時代 狂い咲きビリーザキッド」を上演「A Hノレンン」公演以前3年間程は、違うメンバーで、生バンドを入れたミュージカル色の強い作品を上演。以上すべての公演は松本さきよの作・演出。

バリケードを 吹きぬけた風

日大全共闘芸闘委の軌跡

橋本克彦・著

定価1,400円

四六判上製・328ページ

学生運動史上未曾有の大闘争となった日大闘争はいかにして生まれ、いかにして消えていったか。当時、芸闘委指導部の一員として闘いの渦中にあった著者が綴る、傷つき燃焼した青春——これは彼らが「怒れる若者」であり得た時代の壮大な挑戦の記録である。



朝日新聞社

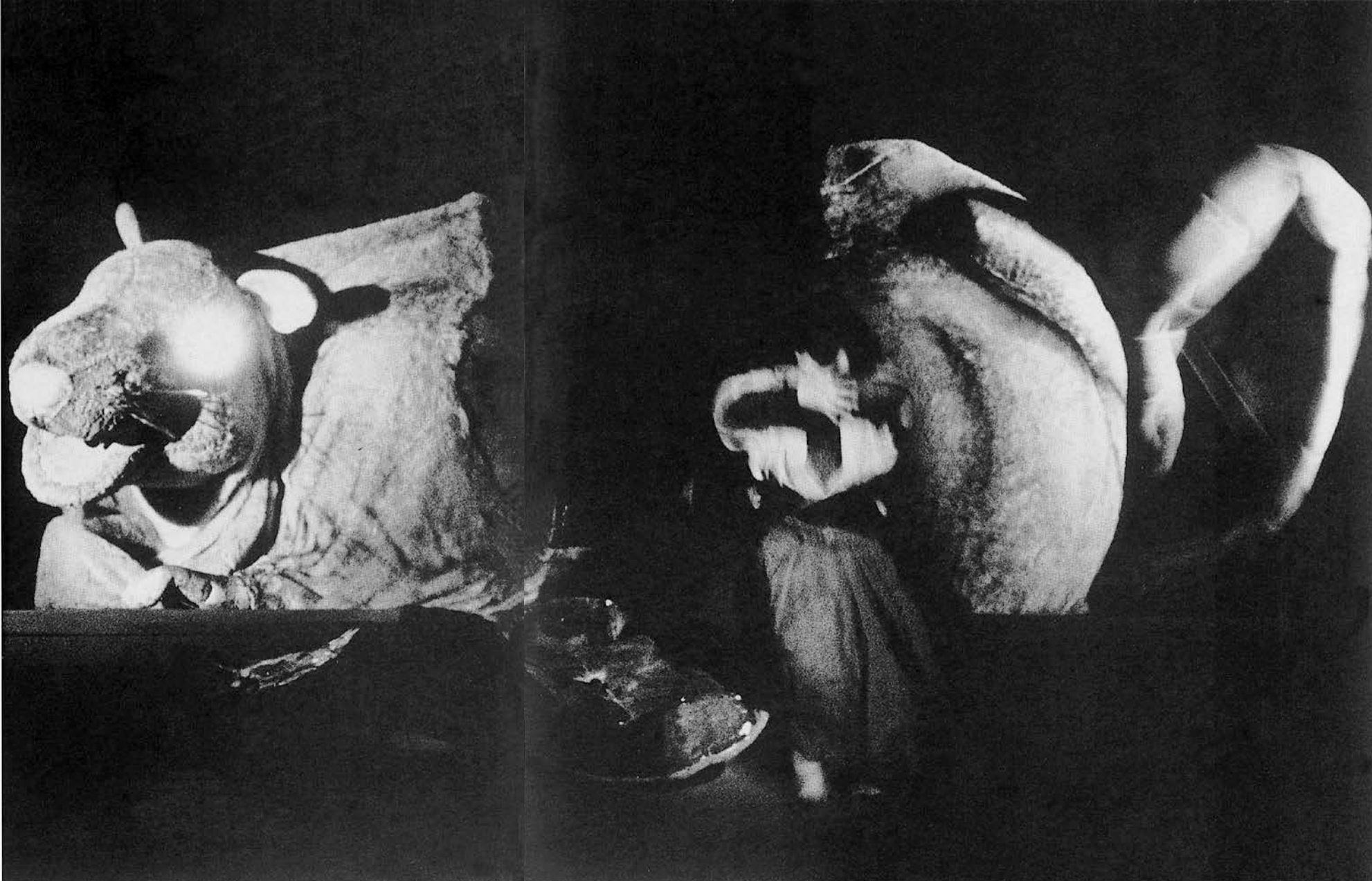


写真 高橋 理

■歌舞伎座公演・市川猿之助七月大歌舞伎

通し「慙紅葉汗顔見勢」

極付「伊達の十役」

じゅうやく

●「慙紅葉汗顔見勢」というこの外題、まさに市川猿之助の汗まみれの奮闘のためにつけられたように思えるが、じつは一八二五年七月の初演時に、七代目市川團十郎が、汗をかきかき真つ赤な顔で伊達騒動の十役を執演する、という意味です。つけられていたのだそうです。

四世鶴屋南北の原本はすでに失われ、資料もほとんど残っていない。この狂言の、趣

て見る観客には、何がなんだか分らない程早い。芝居が進むにつれて、あれは後姿だけだからニセモノ、その間に、着替えていつてらしいというふうに住掛けが分ってくる。それでも「ヤラレタ」と思わずにいられないのが、花道でのすれ違い早替りと、殺す役と殺される役の両方を演じる修羅場での早替りなのだ。花道での早替り

花道で反対の方角から来た二人がドンとぶつかると、傘がヒョイと動き、ゴザが二人にか

らんでどける間に、二人はそっくりそのま

ま相手の衣裳に変わってしまっているという

のだからびっくり。目にもとまらぬ早替りとは

このこと。

修羅場での早替り

これは花魁役の猿之助が、元武士の役の猿之助に殺されるという、あり得ないような場面なのだが、障子とびようぶの陰の死角とふきかえを利用して演じてしまふ。逃げまどう花魁の猿之助が障子に隠れて見えなくなると、別の障子の陰から、刀をふりかざした武士の猿之助が出てくる。入れ替り立ち替り現れる一役には、観客はすっかり目をくらまされてしまふことになる。

見せ場その二 宙乗り

猿之助といえは宙乗りだが、宙乗りといっても、ただ吊るされてるわけではなくて、毎回毎回、動きが違ふのだ。「ヤマトタケ



向の面白さを目をつけ、なんとか再現しようとした市川猿之助が、奈河影輔の脚本に自分のアイディアを盛り込み、復活上演の幕を上げたのが昭和五十四年四月。それ以来、「猿之助の伊達の十役」として、大当りの狂言となり、なんと七年の間に六度目の上演ということになった。

見せ場その一 早替り

猿之助の十役・五十回近い早替りは、初め

ルでは白鳥になって飛んでいったが、今回は、長巻のすそもしずすと、一歩一歩、まるでそこに廊下か階段でもあるかのように踏みしめながらの宙乗りである。口元に不気味な笑いを浮かべ、仁木弾正の妖しの気配を漂わせながらの引込みで、煙とともに天井の一隅へと消えてゆくのだ。

見せ場その三 大風と屋体くずし

仁木弾正は妖術で鼠を操る。ザワザワと動く鼠の群れが消えると、仁木の化けた大風の登場となる。屋根の上にとっかと居坐り口から赤い煙を吐く。しかし、悪の業えたためにはない、ということ、妖術もついに破られる時が来る。バラバラと四方に砕ける大風。屋体くずしのスペクタクルは、歌舞伎の仕掛けの醍醐味を味わわせてくれる。

この他にも、猿之助による十役の善玉悪玉の色分けと因果関係の説明口上があったり、有名な「伽羅先代秋」と同じ場、忠義の母子の悲劇で涙をさそったり、五時間四十分の長さを感じさせずに、文字通り汗もしたたる大奮闘公演の幕が下りた。

市川猿之助 次回公演
明治座
9月2日、26日
昼 御最前繁馬 夜 伊賀越道中双六
問合せ 03-660-3951

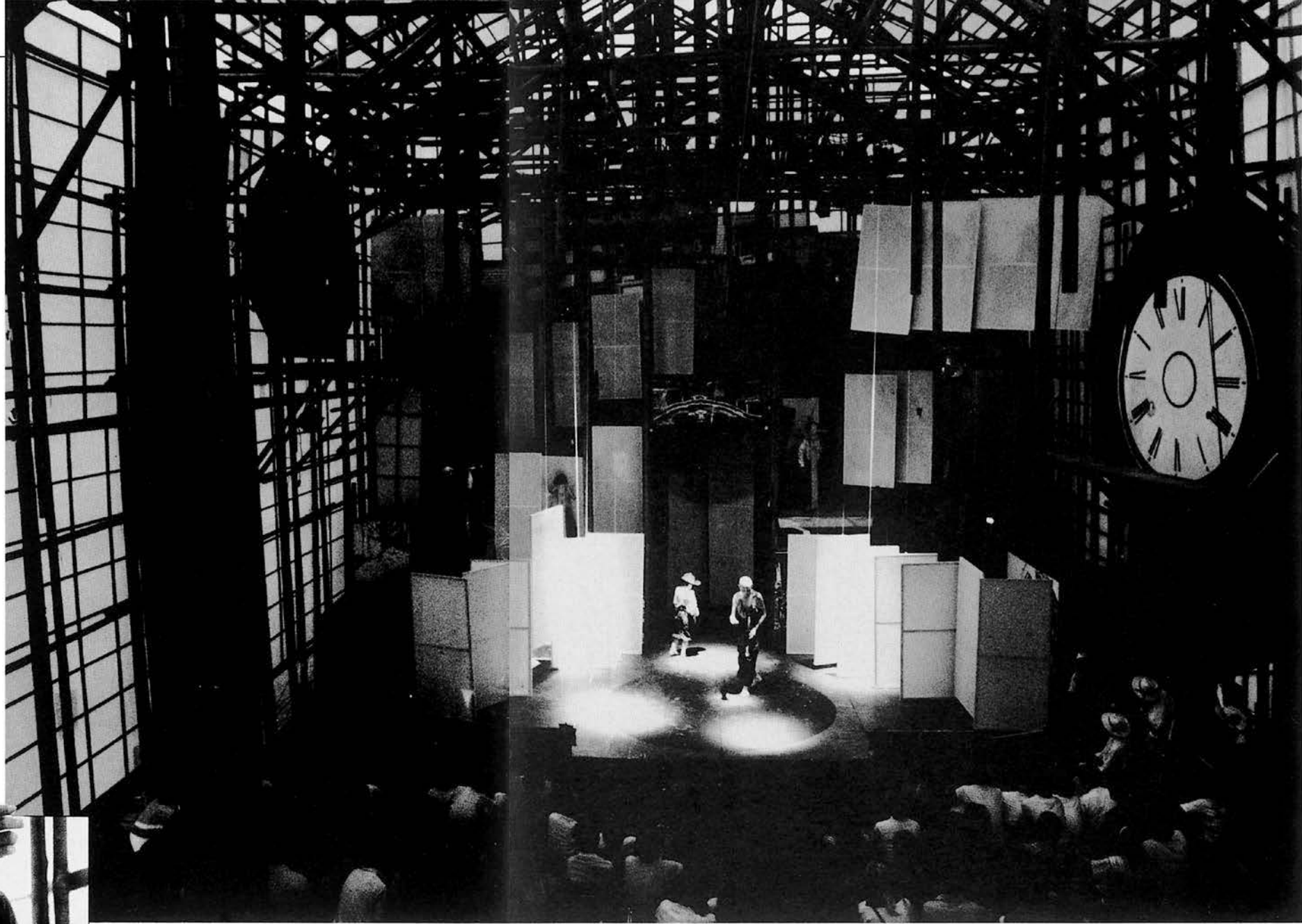
障子の野外劇場

路地坂の祭り

作・亀山孝治 演出・松本雄吉

インタビュー・構成 梅本承平

写真 上諸尚美



大阪国際演劇祭の皮切りとなった日本維新派の『路地坂の祭り』は7月26・27・28・29日の4日間、夕陽せまる生国魂神社の境内で行われた。

建築現場の足場に用いられる丸太を使って建てられた高さ10mにも達しようかという四角い演劇空間は知る人ぞ知る日本維新派のヴァリエーションだ。大黒柱となるような支柱は見当たらない、天井の一部と側壁は大きな障子でおおわれている。だが風となった空気が自由に出入りできるような大きな開口部もつくられている。夕焼けになれば大きな障子にそれが映し出されるのだろう。舞台には階段状に路地の坂道がこしらえられている。障子の野外劇場である。大阪と名がつけば日本維新派を欠くことは出来ない、これは誰もが認めるを得ないことになっている。障子の野外劇場は開演前から人々を圧していた。

始まりは不気味なまでに静かだ。左右にある大きな時計のネジをまき始める音が延々とこだまする。黒と白に統一された路地を黒い衣裳をまとった役者たちが、現代のテンポに背を向けるようにスローモーションに動き始める。至福の空間「路地」のオープニングだ。

約30分、夜の帷と共に松本雄吉氏が路地の異形であった人々の象徴として登場し、もつとも能くその異形と通じることの出来た7つ、8つの男の子との交感シーンが展開される。このシーンが絶品で、とくに二人がゆるり、ゆるりと衣裳をはずしてお尻を出し合い、そのお尻に子供の方の手が先に伸びてさわった時には、電気が走る程の感動があった。

松本雄吉氏の過去が、現在の氏の力によって見事な形を与えられた瞬間であった。子供が乞食が狐憑きかも知れない異形のお尻にさわったのだ。私たちは過去をさかのぼってやり残した事に何か美しい形を与えなければならぬ。それを未来へのメッセージとするために。

舞台はこのシーンを境に大きく動き始める。昭和30年代にこの路地でも見られたに違いない記憶の中の光景のその底深くに横たわっていた真実が異物として形を与えられ維新派の舞台空間に花ひらいてゆく。

超速度の復元力を備えた役者たちに微塵の乱れもない。ちんどん通信社のライブ演奏による音楽は終始見事なナレーションとなっている。フィナーレにあられる韓国創作舞踊の金一玉さんの舞いも見事に舞台を完結させていた。

公演の4日後、松本雄吉氏に異形、体、大阪などについて聞いてみた。

■言葉にならない体のなぞなど

松本 松本さんが芝居つくる時に、まず何を考えてつくるわけですか？

松本 まず自分が見たい風景をつくるという事が強烈にありますね。それから、ちゃんとした異物として見てほしい。今は何か共通点ばかり喋りすぎて、おれとお前はどこが違うんだというような事がありないうて、何ていうか動機的に出所不明というか、何てああい人間が生まれたのか、種明かしが効かない異形ね。そういうものが実際に人間立ちして生きているという新鮮なショックね。そういう異形を見た観客の反応というのは？

松本 異うものがあるっていうのは安心する

松本 ばくの場合、強烈です。でも、そういうことを喋ってみると、みんな同じような感覚があるみたいやね。ばくなんかから見たら肉体の黄金分割みたいな体を持つてる人が自分の異形さを感じてたりする。やっぱりみんな標準っていうか、租型というかそういうのに向いたいというのがあるらしい。

■記憶をつくって、みんな生きてきた

松本 松本さんにとって路地は幸せな世界という事になっていますね。

松本 ばくはそう思うんですけどね。いわゆる私物化に憧れた時代。一家に一台冷蔵庫とかね。その時にそういうことを拒絶する意味で、路地っていうのは、どこまでが私物か共有か分らないという場所でしょう。小さい頃なんか家で怒られて「出て行け」って言われ

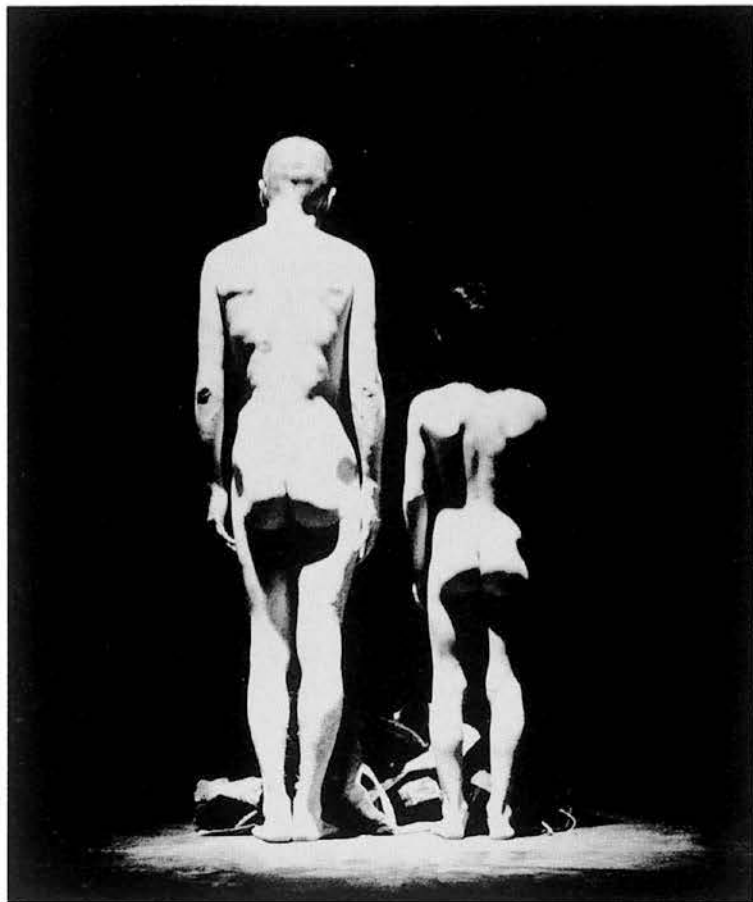
子供時代を喋ることは面白いですか？

松本 そうね、まあ、逆に言うなら、ばくら苦勞して、何かいっぱい嘘の記憶をつくって来たんじゃないか。みんな生きてるっていうのは、みんなが知っててそれをやって来たんじゃないか、って気がするのね。それを逆換証していくというのが、この年になるとできるんじゃないかなあと思つて。

松本 今まではジャズとか即興音楽みたいなものばかりやって、最近ではコンピュータ音楽もあつたけど、自分たちにとつて、あんまり異物じゃなかったのね。だから、今回みたく「やってみんな分らん」っていうのは楽しかったね。特に曲がね、記憶のルートの中でどういう位置を占めて、形になった場合どうなるかという面白さがある。

松本 まあ、どつちみ客をひつさうて、お互いに長生きしていくんやからさ。幅の広さも見せた、ということやね。

松本 まあ、どつちみ客をひつさうて、お互いに長生きしていくんやからさ。幅の広さも見せた、ということやね。



●キャスト

松本雄吉
藤佐虫丸
玉置裕
若浦宗八
丹羽純生
塚本修
久保井孝司
肥後徹 ほか

●協力
大阪造形センター

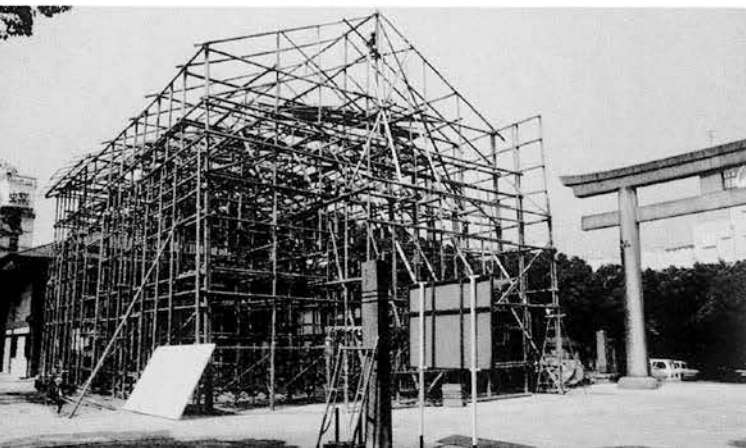


松本雄吉 プロフィール

日本維新派主宰。1946年生まれ。小二のとき天草から大阪へ。1970年に日本維新派を結成。飲み屋の経営、ストリップ劇場まわりなどで劇団を維持。(昭和58年の「月光のシャドウボール」では製作費が1000万円を超えたとか)大阪の知のモンスターだ。

ると嬉しかったからね。タタミよりもななく地面は気持ちいいのね。そこの方が自分のいる場所っていう感じがやね。

松本 難しいんですけどね。帰りたいというのがあるけど、時代的に引き返せというのとは、ちよつと違う。10年前ぐらいやつたら今みたいな形の芝居するのイヤでした。恥ずかしくてね、自分の少年時代のことなんか喋りたくなかった。今は、案外自分のことを喋っても面白いんだなあ、と思う。

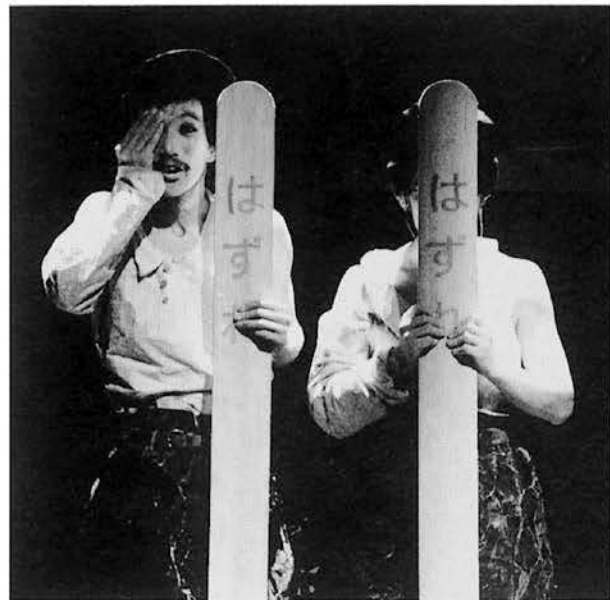


日本新劇史に残る不朽の雑誌完全復刻成る！

築地小劇場

総63冊十別冊1(解説・総目次・索引)
〔特別贈呈品〕ポスター・上演プログラム

大正十三年、小山内薫、土方与志の手で創設された築地小劇場は、日本の新劇の青春期を演出した。劇場五年間の「台本」ともいえるべき本誌を、全冊当時の姿そのままに復刻刊行！
●推薦 飯沢匡・千田是也・滝沢修他
●内容 大正十三年6月〜昭和5年2月
●解説 祖父江昭二(和光大学教授)
●揃定価 87,000円(分割払可)



「蟹殿下」より

ちりウオノメがでたり、てんぼでさうな世界で生きるとるわけだから、その辺でやつた方が正解や、思ってますね。

松本氏の文章の中にこんな言葉がある。

「ある激しい動きの後で、ついに落ちてしまふ瞬間だとか、客席の中に世別れた女を見つけたときだとか、乱れた衣裳を舞台の上で直したり、舞台上に落ちている釘とかガラスの破片に気付いてそれを拾うときとか、あるいは自分が舞台でやっていることを、ああ、夢で一度こういうことがあったなあと、つい思い出してしまう瞬間、といったおおよそ劇することの緊張にはほど遠く、また劇の構成にとつて必要なことではない、寧ろ、劇にとつて無くてしまいたいと考えられるような、そんなしぐさの瞬間、どれほど短い時間か分らないがそんな刻、ああ、役者をしていてよかった。」と見える。

「透明さだとか、崇高さだとか、劇的緊張さとかいうものにはほど遠い、もつとく低いところでの悦び、闇の中で文字を読むような興奮。」

↑注1 ちんどん通信社の音楽
使われた曲は「天然の美」フランス民謡「トキン娘」、映画主題歌「ファッシーネーション」、「ベルシヤの市場にて」など。

↑注2 てんぼ
おでこのこと



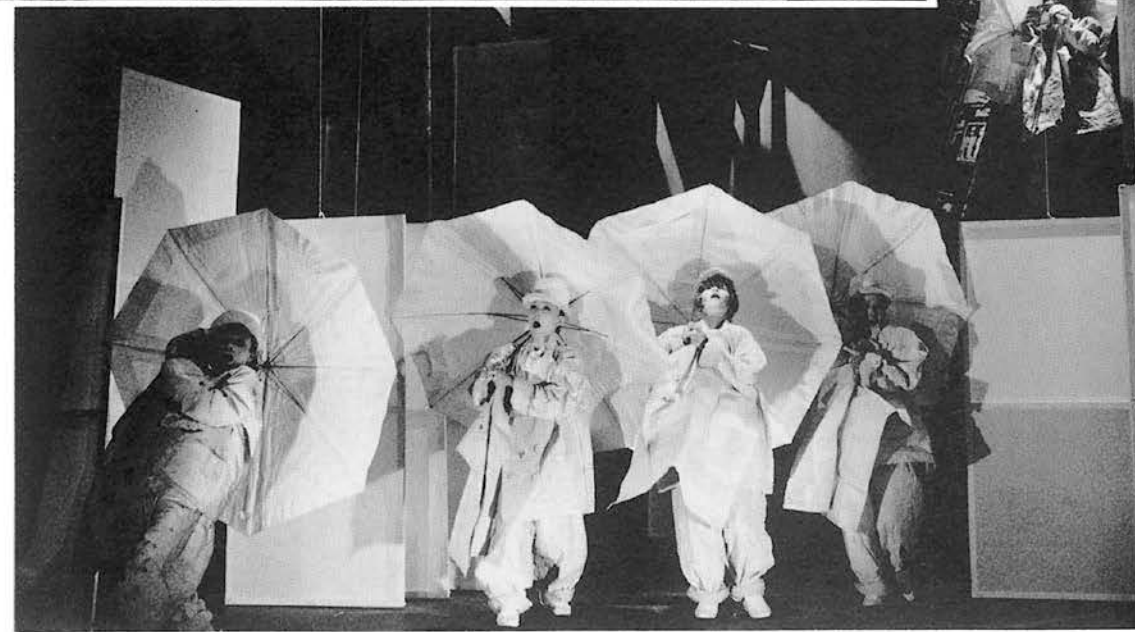
●ちんどん通信社
京都・立命館大学にて林幸次郎を中心に「ちんどん屋研究会」をつくり、卒業後、大阪のちんどん屋に住み込み三年後(84年)独立。今回の公演の音楽を担当(ペンタゴン)を演奏する。



■東京はまだ人間の力に幻想がある

東京にはないキャラクターの劇団でしよう。

松本 ないみたいですね。東京というところは、体をもたずにアトリエをもった世界だと思ふんですよ。だからつくろうと思つたらすぐやれるね。大阪は反対に、体あるけど、どないしてやつたらエエのか、チンパンカンパンしてしまう。だから、東京の劇団で、こつた変わった劇団があるっていうんで観に行つてもいいことも変わってない。ある程度うま



文化的な集積度は歴史的に言っても関西の方が高いはずですけど。

松本 やつと最近、大阪のお客も、ぼくらのやつてることを分つてくれてきたみたいですよ。今まで東京から来たものはかり観てたからね。うちの積古は始める時ね、全員裸にするんですよ。それでみんなの真ん中にレントゲン撮るみたいな格好で立たすわけですね。そうすると面白いことに、そいつよりそいつの先祖の体が見えてくる。それで、そいつに、「おじいちゃんが生きてるとしたら何するか考えろ、あんまり芝居すな」と。要するに歴史の文字面追うような世界でなく、きつ

松本 そういう意味では逆になんか必死でやつてるとい感じがするけどね。今だに演技術とかブレヒト論やつてるものもあるでしょうね。まあ、一番違うのはね、東京で芝居とかやつたら食えなくて当たり前やから、回りで助けてあげないかんいうのがあるでしょう。大阪やたら「そんなことやつたら食えなくても、アホしとんのやかしやあないやないか、当たり前や」。天井と維新派の芝居と同じレベルで考えるからねえ。だから肉体なんて言葉じゃなくてカラダ、体ですよ。

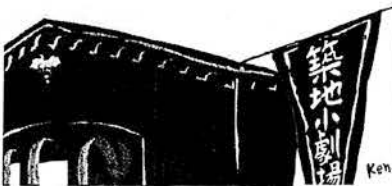
東京はあきらめてない？

松本 そういう意味では逆になんか必死でやつてるとい感じがするけどね。今だに演技術とかブレヒト論やつてるものもあるでしょうね。まあ、一番違うのはね、東京で芝居とかやつたら食えなくて当たり前やから、回りで助けてあげないかんいうのがあるでしょう。大阪やたら「そんなことやつたら食えなくても、アホしとんのやかしやあないやないか、当たり前や」。天井と維新派の芝居と同じレベルで考えるからねえ。だから肉体なんて言葉じゃなくてカラダ、体ですよ。

いし、全部ある程度のところへはいってんです。それに何となく、どれも自分でもてきまう感じがな。それで人が集まる。

維新派としては、東京からツアー組んで、観に来てもらわなアカン(笑)。

松本 そう、うちは人間大事にしない芝居というか、どつちかというセツトなんか大事にする芝居でしよう。それで「蟹殿下」の時にこつた月をブリキで作ったんですよ。そして、東京の野外劇で蜷川幸雄がクレインで月を作った上げてた話を聞いて、それがチンマイ、チンマイそうて、大きさが全然違うらしい。やつぱり、ちよつと実験するいうたら、向うはせこましいですよ。東京はまだ、人間の力で、役者の力何か出来るいう幻想をもつて。あそこは幻想の街ですよ。わしらは、もうどこかあきらめてるとあるんですよ。人間の力はもうしれてるといことがね。



発行 不二出版

東京都文京区本郷5-28-3-305
電話03(812)4433

発売 コーディック

〔柳原書店 月販事業部〕

東京都千代田区神田神保町1-47
大森ビル2F 電話03(292)8241

内容見本はコーディックあてご請求下さい

宝塚歌劇星組
峰さを理
特別インタビュー

宝塚歌劇7月星組東京公演『レビュー交響楽』(作・演出 植田紳爾)の舞台から

羽根の美学

Interview 土井美和子
Photograph 芦沢仁

この写真、宝塚星組公演『レビュー交響楽』のワン・シーンである。

トップスター峰さを理が、ジジ・イン・パラディスコを歌い踊る。その動きに合わせて、羽根扇を持った女たちが踊る。カラーでお見せできないのが残念だが、羽根はピンク、衣裳、バックは共に黒。顔や手先を除いて他の色は何もない。娘役のヘアスタイルまで、黒のおかっぱに統一するほどの徹底した演出。娘役のきれいなところが出演しているにもかかわらず、この場面は彼女たちより羽根扇の方がメインで、峰さを理を飾ることに徹している。実にぜいたくな使い方だ。その羽根たちは、ときには峰をとり囲み、ときには後ろに従い、様々な形に美しく変化する。羽根の持つ微妙なゆれの繊細さと、舞台いっぱい大きく動くダイナミックな豪華さが見事にとけ合うさまは、圧巻。粋にして華麗、まさにレビューの中のレビューという醍醐味がある。

この例をあげるまでもなく、宝塚の舞台に羽根はよく似合う。ことに、レビューにおいては、なくてはならない存在だ。

そこで、星組のトップスターであり、この作品の主役でもある峰さを理に、羽根にまつわるあれこれを聞いてみた。ときは、午前11時、場所は、東京宝塚劇場の舞台事務所。楽屋入りするタカラジェンヌたちが、「おはようございます!」と、元気に声をかけて通り過ぎていく。

——ピンクの羽根のシーン、素敵ですね。

「でも、私には見えないのよね(笑)。とにかく、あれだけ大きい羽根扇使うの、珍しいんじゃないかな。12人出てるんだけど、お稽古場では、小さい羽根扇で代用してたし、振を揃えることに一生懸命になってるでしょ。だから、舞台稽古の前に初めて実物持ったときは、大変だったみたい。羽根の先が曲がる方向があっち向きかこっち向きか——といった細かいことを揃えるのが難かしいのね」

——峰さんの方は、魅惑的でセクシーな男ぶ

りで(笑)、客席を魅了していますが、ああいう表情などは、いろいろと研究、工夫があるんじゃないかな。

「それが、特にはやってないの。私の顔って、その気になれば勝手に動くみたい(笑)。あそこは、最高にダンディで、最高にキザな男という気持ちになってやっています」

『レビュー交響楽』は、レビューの王様といわれたフローレンツ・ジグフェルドの半生を描く大作。レビューそのものをテーマにしているだけに、いつも以上に羽根がよく登場する。したがって、峰さを理が羽根をつけて出る場面も多い。プロローグ、珍しく女役で踊るロケット(ライナード)のシーン、そして、フィナーレ。

——フィナーレは、すごいですね。

「ビックリしました(笑)。わりと大きいの見慣れた私でも、何だコレは!」と思ったもの。横幅も後ろも、ケタはずれに大きい。色も、白、黒、金というなんなのが入ってるしね。さすがに重いです」

——動ける限界じゃないかって気もしますが、ふだんはどこに置いてあるんですか?

「ここは宝塚大劇場よりも裏が狭いから、場所がないらしくて、あそこ(舞台のその上を指さして)に吊ってあるの。フィナーレ近くになると、滑車で降ろすわけ。手でひもをこうやって(たくって)ね」

宝塚のフィナーレは、超豪華である。レビューやショーの場合はもちろん、それまでの舞台がたとえ悲劇であつたとしても、フィナーレでは、その登場人物たちがスター本来の姿に戻って、豪華な衣裳を身にまとい美しい羽根をつけて、大階段を降りてくる。そのとき、盛り上がりは最高潮に達し、舞台と客席は一種独特のムードに包まれる。

——ときに、あのフィナーレがないことがありますが、何かもの足りないんですかね。宝塚を観た気がなくて——。

「そうね。やっぱりそれが宝塚なのよ。私は

いいことだと思うな。もし、踊りだけで終わっちゃったりすると、何かダンスのカンパニーの公演みたいだね。まあ、演出上の問題でやらないこともあるわけだけど……」

フィナーレの衣裳の豪華さや羽根の有無は、スターの度合いに正確に比例する。大方の場合、羽根をつけるのは、トップスターとトップ娘役、多くても準トップクラスまで数人に限られる。そして、最高の羽根をつけて最後の大階段を降りてくるのが、トップスターなのである。

——羽根をつけるときの気持ちは?

「あのね、羽根が大きくなるにつれて、その羽根をつけてるだけの値打ちがあるの。考えてみるようになった。羽根を背負うとき、その日の舞台のでき、大丈夫だったかなと思うんですよ。何かがボシャッたら、羽根に負けちゃう。負けたら背負う価値がないわけですよ。だって、あれはあくまでも私がつけてるからいいというもので、羽根を見せるために入るんじゃないからね。それが羽根見せになっちゃってたら、しょうがないもの。」

この間、植田(紳爾)先生がおっしゃったんだけど、この舞台にかかわってる人は、のべにして700人いる。その700人が、ラストに私が羽根をつけて降りてくる、その瞬間のために働いてるようなものだって——」

——そういわれると、よけいにずっしりと重みを感じるんじゃないですか。実際の重さ以上に(笑)。でも、あれは気持ちのいいものでしょう。

「そりゃ、気持ちいいですよ。舞台やってよかったなあと思うし、もう最高です。私は一旦舞台に出てしまえば、ひたすらナルシストになりますから(笑)」

こんな風に、舞台では輝くトップスターの峰さを理だが、日常生活ではシンデレラなのだという。とはいっても、別にガラスの靴をはいているわけでも、毎日床みがきをしているわけでもない。彼女、東京公演では寮生活



あなたは聞きますか……アーペンリード
 女たちの夜の唄
 男たちは演じる 女の愛の心臓

女中たち

J・ジュネ 作
 竹邑類 演出



出演……田村連
 ビーター
 中丸新将

照明■勝柴次朗
 美術■斎木信太郎
 衣装■高橋きよみ
 音響デザイン■井口潤
 舞台監督■白田則夫
 制作■エヌ・エンタープライズ
 協力■ザ・スーパー・カムパニイ
 ■番衆プロ

11月1日(土) — 4日(火)

築地本願寺第一伝道会館

ブディストホール

□地下鉄日比谷線「築地」駅下車徒歩1分
 □都営浅草線「東銀座」駅下車徒歩5分

☎03(544)0551

9月10日前売開始

指定席4,000円

自由席3,000円

	1日(土)	2日(日)	3日(月)	4日(火)
PM 2:00		○	○	
PM 7:00	○	○	○	○

お問い合わせ

■エヌ・エンタープライズ

☎03(402)4775

チケット前売所

■エヌ・エンタープライズ

☎03(402)4775

■ザ・スーパー・カムパニイ

☎03(816)0157

■チケットぴあ

☎03(237)9999

『レビュー交響楽』の舞台から

ジョングラ、
 金、粋な着ななし
 で舞う峰。(振付 黒瀬月紀モ)

★峰さを理

をしているため、門限(一)が12時なのだ。
 峰さんみたいなスターでも察ですか？
 「それは人によっていろいろだけどね。私は
 ひとりでの好きじゃないの。淋しがりだ
 から。寮にいて、みんないろいろなことを
 話したりするし、とても面白いのよ」
 でも、門限が12時というのは大変でしょ。
 「そうでもない。本当に遅くなるときは外泊
 ができるから。週1回ぐらいは、深夜1時の
 日もあるし。だけど私は、いつも12時には帰
 ってる。1時に帰って来ても、お風呂に入っ
 たり、何だかんだやっていると、寝るのは2時
 半、3時になる。それでも、次の日マチネが
 あれば、起きる時間は同じでしょ。結局、睡
 眠時間が短くなってしまう。だから、私の辞
 書に門限1時はない」と決めているの。それで、
 どんな席でも11時半ごろになると『シンデレ
 ラは帰ります。馬車呼んで下さい』とかいっ
 て(笑)、ちゃんと帰るようにしてます。やっ
 ぱり、最低8時間は寝ないとね」

宝塚の舞台は、歌あり、踊りあり、芝居
 ありで、とてもハードですからね。

「それも、歌だけ、踊りだけというのと違っ
 て、パーツと踊ってすぐ歌わなきゃいけない
 ことが多いでしょ。私、昔に比べて丈夫にな
 ったと思う。心臓も強くなったみたいだし、

肺活量も、測ったことないけど(笑)、ふえた
 んじゃないかな」
 東京公演では、1時、5時半の2回公演が
 ほとんどで、それが約1ヶ月続く。連日エネ
 ルギッシュな舞台をつとめるためには、かな
 りの体力と気力を要する。トップスターとも
 なれば、なおのことだ。峰さを理の「私はシ
 ンデレラ」ということばには、トップとして
 の気構えといったものが感じとれる。責任あ
 る立場」とか「健康管理」という力強い表現
 を使わず、ユーモアをまじえて気負わずに話
 すところが、いかにも彼女らしい。
 今後、峰さを理は、どんな羽根をつけるの
 だろうか。その羽根は、さらに大きくさらに
 豪華になるのかもしれない。

●峰さを理(みねさをり)

昭和47年初舞台。星組。新人公演で風蘭の
 役をたびたび演じ、早くから注目される。58
 年、瀬戸内美八のあとをうけて、『アルジェの
 男』で星組のトップに。代表作は『我が愛は
 山の彼方に』など。

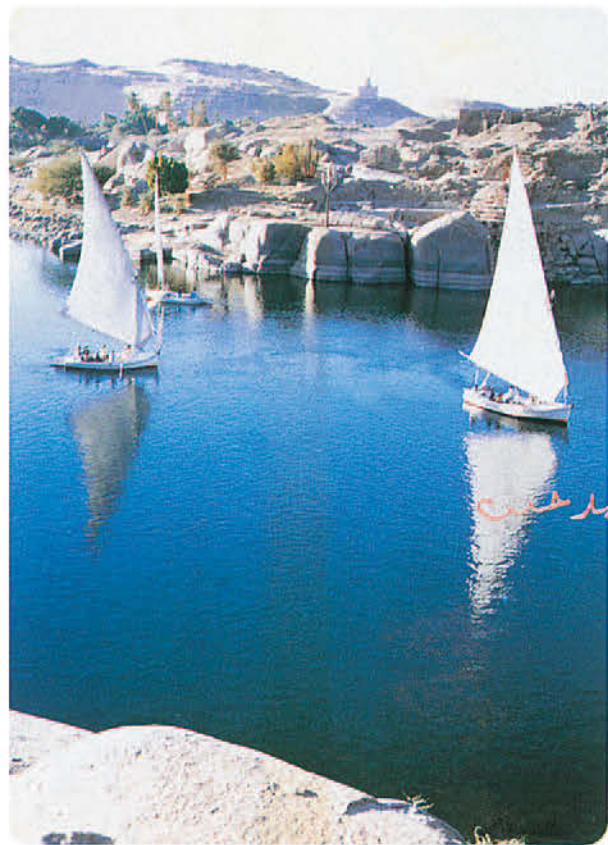
★湖条れいか
 この舞台を最後に
 宝塚を退団した。

今、星組の
 トップ娘役！

★南風まい

★日向薫

次期トップを競う
 二枚目女子組！



ナイルに浮ぶファルーカ(帆船)

ヌビア人(イド・アーメル)の描いた絵



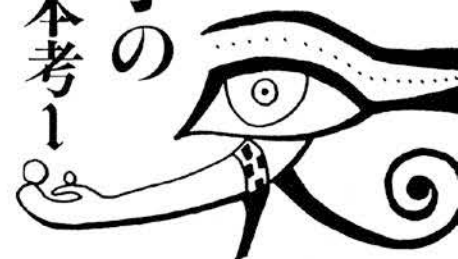
部屋の入口の絵 手型は魔よけです



民家に描かれたメッカ巡礼の絵



合田佐和子の エキゾシズム日本考！ 土地の磁力



合田佐和子は、その独得な油彩、オブジェ、エッチング等で知られている現代美術家であるが、同時に、彼女は秀れた舞台美術家である。70年代前半、唐十郎率いる劇団状況劇場のポスター等を、その後、寺山修司が亡くなるまで天井桟敷の舞台美術や映画の美術までもを手掛けていた。

その彼女が、昨年、日本からエジプトへ移住したのである。時代の趨勢や自身に内在するものを本能的に捕えることに鋭敏な芸術家である彼女がエジプトを選んだというのは、何かを象徴しているようだった。合田佐和子の行為は、同時に現代日本を映し出す鏡にもなるのではないか、そんなほのかな思いを持ちながら、第一回目のインタビューは始まった。

(山口猛)

奇妙な路地

あたしが住んでいるジャバルタゴーク村は、エジプト最南端の街アスワンのはずれにあるヌビア人の部落なんだけれども、村の入口にカラブシャホテルというのがあってね。そこから、ファルーカ(帆船)に乗るため、ナイル川に降りてゆく石段があるの。そこに降りていくところの路地が、つまり、よく知っている場所だった。とても奇妙な感じだったの。勿論初めての場所だったけれども、たまたま、知っている、見たことがあるというのではなくてね。かつて住んだことがあるという位にね。それが、何度行ってもそうなの。で、78年に行った最初の時から「ああ、ここに移住するわ」と言っていたんだけど、石ころだらけのつまらない路地なのに、妙に心に残って。そこを降りていくと、ナイルが広がってすばらしい眺めなんだけど、ちよつと手前の路地で気が付いたわけ。「あれっ」と思って。

その内、住んでみたら、いろいろ思い当たることがあったけれども、最初は路地だったの。しかも、知り合いも誰もいないのに、もう移住しようと思った。あたしは、決めるのすぐ実行に移そうとするじゃない。でも、その時は子供も小さかったし、無理だったけど、5年間の空白があつてその後四、五回行ったかしらね。

住んでいるのはジャバルタゴークという村で、あたしのいる一画は、昔あるおじいさんが来て、小屋を建てて、お祈りをしていたら、遊牧民が集まって、作り出されたらしい。で、そこだけは、アルシーハ・ディヤブという、そのおじいさんの名前のついた特殊な地帯だった。

びようがない。何てこんなことになってしまったんだろうか。っていうのが、今の私のテーマかもしれない。子供までひき連れて何してるんだろう。

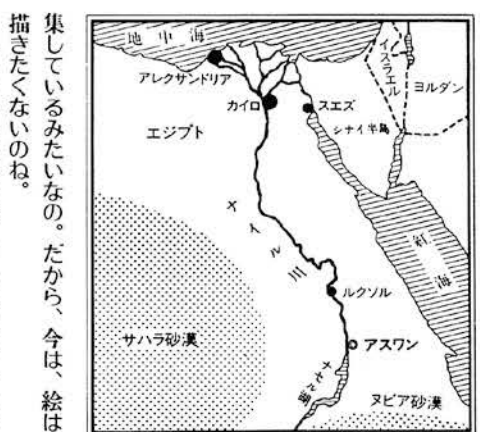
懐かしいと言ったけれども、そこは、違和感がないのね。最初からスツと、入っていきける。よく分かるのよ。物事が。だから、あたしにとっては、却って日本の方がエキゾチックなの。異国情調というのがね。日本にいるときは、いつも、どこにいても、落ち着かないというか、居心地が悪かった、下宿人が居候みたいな気分。今、体はこっぴにいるけれども、とにかく、あそこが故郷みたい。故郷というより、何なのかなあ。「風と共に去りぬ」のスカレットがタララによって立ち直ったことや、風ヶ丘のヒースクリフとキヤサリンが亡霊となつても風ヶ丘でたわもれていたわけも、今はよく分かるのね。インタナショナルと言われることが時々あるけど、違うのね。外国に行くのは、大嫌い。言葉も不自由だし、色々大変でしょう。ただ、その一画だけなの。心が落ち着くのは。

エジプトは、周りがリビアとスーダンとエチオピアで、いつ危くなるか分からないけれども、そういうことも含めて気に入っている。戦火に囲まれているという。もしも戦争が起った時、たまたま日本にいて向こうに行けなくなるのがこわい。あたしが向こうに行ける時、なにかが起きて、日本に帰れなくなるという方がむしろ望ましいくらいよ。

記憶の収集

もの心ついたら周りが焼跡で、色々拾って歩き、オブジェをつくり、その内、古い写真のコレクションを始め、それを絵にするようになったでしょう。まあ、いつてみれば、収集癖があるわけね。

それが、今度は、何と、形があるものではなくて、記憶とか、思い当たることとか、何か言葉で引く掛かるもの。そういうものを収



集しているみたいなの。だから、今は、絵は描きたくないのね。

外人の一人も住んだことのない村で、結婚もしないで、民家に住んで、しかも、二人も子供を連れて、絵描きというのに、絵を描いているのを誰も見たことない。絵具もない、なんというの警察にとっては大変怪しかったらしい。

何故絵を描かないかと言うと、とっても恥しかったから。家の中にも、外にも絵があるの。すごく素朴で、可愛いのが。エジプトの古い道跡や絵画なんかは、一種の匿名性になって高められているじゃない。勿論、サインがあるなしにかかわらず。あたしは、そういう無名性まで行きたいけど、とうてい辿りつけそうもない。一方ヌビア人たちは子供みたいに自由で、のびのびと楽しい。しかも、芸術家とは思っていないしね。

私はそのどちらにもならない中からりんがいやらしいところにいるのよ。絵描きたとハレたら、描いてみる、といわれるでしょう。自分の顔とか。あたしは、写真を見て、ジックリと描かないと駄目なタイプだから。現物を見て、描いて、となると具合が悪いし、黙っていたの。

それで、いざ、具体的に住むとなると、大騒動だったんだけど、それは、次回に……。

が間に合います。自分」が提議した。●新人募集 「自分の感覚をベースに」出すんだと面白くない。その意味は、年々というスタンスをやっているというそれがない。お互いの人間との関わりや密着度を大切にしたい。その居るというのからオーディションで選ぶというシステムがとれない。青い鳥には教えて下さないと、という言葉は、自分がどうにかなくてはならない。●空間 青田町影射劇場ならその空間に合わせた居場所を。大きな空間は毛毯い「自分のセリフがどこまで届いているのかつかめない不安がある。そうすると要となることをやり出す。近鉄小劇場(定員五百)はつかめられなかった。●「よあ、何はとあれは」劇場ではあられさせない笑」●「二〇才の頃」 菅川さんは年をすっとなつたその頃、テレビの青春ドラマのレギュラーだった。それが親戚、同知らされて、どの人だったか覚えていない。●「出ていって」に「立派になつて」と言われていた。

COMIC GIG

— 7月10日後楽園アイスパレス特設舞台 —

劇団WA・HA・HA。はなびら
MDERNHIP しりあがり男
AVECS

— AVECS —

内田 春 菊



Photo: Hoshitani Ochiai

— レコーディングの予定とかあります。内田 まだあやまらん、企画物みたいな、マシナ家が歌ってます。みたいな、ライヴにも来ていって話をあがったんだけど、あんまり良くないと思うので、そういう話は自然と消えちやうし。

— 前は劇団に入ってたんですけど、内田 高級芸術協会の劇団の部だとかいうので、上杉清文さんとか、みな面白い人ばっかりいる劇団だと思ってたので、その時はそーゆー人達のそばに行きたかったんですけど、お芝居は興味あるけどあまり上手くないです。私、笑わない練習とかするのね、巻上さんが、でもすぐ笑っちゃう。その時、役ももってたんですけど、マンガで週刊誌の連載をいいたいで、それでマンガに専念することになった。機会があれば又やってみたいです。(内田春菊)



©内田春菊

AVECS

9月4日

TAKE OFF 7

☎476-5297

内田春菊サイン会

9月13日2時～

書泉ブックマート

☎294-0011



再結成(笑)された、はなびら

— はなびら —
サンプラザ中野— MODERN HIP —
久住 昌之

如月小春インタビュー

●如月さんは東京新聞の夕刊の「放射線」にエッセイをのせています。毎火曜、今年いっぱいです。



Photo: 黒田康夫

■ 同世代の感覚
えーとですね、音をライブにしたってこととか、ビデオやその他のも含めて、色々なジャンルがあるのを同一平面で考えて、そのなかで作られてゆく演劇っていうのかな。同世代のものを作っている人間の感覚を芝居のなかに取り込みたいわけです。だから、自由に意見を言ってもらいますしね。そのなかで、直接、俳優と話して、なんかこういうことも、できるんじゃないかって、やってもらったりしてるんです。それは私もすごく刺激ありますね。やっぱり、ほかのジャンルのことっていうのは、トップクラスの人たちの情報は入っても、そういうのって、浅いですがね(笑)。イキイキ、今、模索しているところの情報は現場にいる人からじゃないとわからないから。

■ ワカす芝居、ワカさない芝居
うーん。とくに自分でこうしようみたいにしてやっていると、なんかいいんですけど、私も前の劇団のときは、随分ギヤグも書きましたしね。なんというのかな、ワカすことによってお客さんの方も、それから作ってる方も一瞬の快楽で見失なっちゃうものがある、今、すごく多いような気がするの。つまり、そのワカせるってことが武器になった時代はあったけれど、今は逆に、それは常套手段みたいな感じになりつつある。で、常套手段っていうのは、やっぱり、その時代にはマッチするかもしれないけれど、明らかに甘えになっちゃう場合っていうのはあると思うんです。

私、ほかの人たちの芝居、面白いと思うのも、面白くないと思うのも、もちろんあるけれど、あんなに若いうちにね、自分の方法論を見つけることができたっていうのが、私には信じられないんです。私はとにかく、一作、一作、成長していききたいし、その自分の変り方を作品に反映させたい。それは

方法論自体から練り上げていきたいんで、もしかしたら、何十年後にか、やっと思ってるものができたっていうふうかも知れない。そういった自分との戦いと、時代との戦いと、わりと同時にあるってことはありますね。

■ 明るいケイコ・暗い芝居
私の舞台では、ちょっと静かな神経症みたいな感じのところっていうのがよく出てくるんだけど、こう、役者とか回りにいる人たちにまかせて作っていくんですよ。役者が変なことしたり、なんかできたもののなかから、私がいいなというものを選んで振振ってという形でやっちゃうんです。それで、うちの劇団の人たち、「明るいケイコ・暗い芝居」って言ってんですけれどね(笑)。そういうような劇なんです。うちは、ものすごくケイコ、明るいんですよ。

なんていうのかな、作っている側のある種のブラック・ユーモアみたいなものが客席に伝わるようになれば、お客とのコミュニケーション、成功だ。でもまだ、そこまでいかない、どっかかっていうと暗くみえちゃうところがある、まだみんな集団が若いっていうせいかって思います。

NOISE公演 作・演出 如月小春 「SAMSA」 FM東京ホール



劇団WA・HA・HA本舗

凱旋公演

9月23日～24日

はなびら本ホテル

☎476-5297



「藪原検校」 PARCO劇場



「トーチソング・トリロジー」 PARCO劇場



「機械じかけのピアノのための未完成の戯曲」

●朝倉 舞台空間のすべて

舞台美術が、舞台の上だけをデコールする時代は終わった。朝倉 自作「にこり江」「恐怖時代」「ヤマトタケル」等の発想から、歌舞伎の舞台空間への視点、現代におけるスペクタクル、劇場の問題まで、現代舞台美術の最前線を書き下す。

PARCO出版より近日刊行 2,500円



状況劇場「糸姫」 大久保・ロケット工場跡

役割だったと思うし、あたし自身考えてきたことだけ。実は、清水邦夫の「署名人」も、別役実作・鈴木忠志演出「門」も、あたしが美術をしていた。具体的に仕事として、客席と舞台を考えたのは、唐十郎さんの「糸姫」、唐版薄の白糸、でしょう。

既成の劇場の場合、自由な空間ではないけれども、それを逆用した時もある。バルコ劇場があるでしょう。あそこは、設計する時、ステージの高さを初めて叩きと低くした。普通は90cm以上あります。低くすることによって、客席と交わる可能性を見出そうとしたのね。それで、見下ろすことを生かした美術が井上ひさし作「藪原検校」。あれは、バルコから面白い。美術というのは、その劇場の持

つ特性を生かさないとね。タンゴ冬の終わりににしても、舞台が勾配になっていて、谷間のように面白いです。

劇場ってというのは、私にとっては生きているのよ。だから、劇場の形相が悪いと、機械の悪いセッになるの。

それと、芝居の質にも関わってくる。ギリシャ悲劇は何千人という野外で始まっているし、シェイクスピアは始めは、セッとなして上演しています。その意味で、あたしは、今チエホフとか、近代演劇に興味があるし、あれをニキータ・ミハルコフ監督の「機械じかけのピアノのための未完成の戯曲」みたいにやってみたいですね。

(インタビュ：構成 山口猛)



朝倉 撰 Visual Performance 3

生きている劇場

「フル・フォア・ラブ」出演・根津甚八
「トーチソング・トリロジー」出演・鹿賀丈史

バルコ・スペース・パート3というのは、面白い空間でね。「フル・フォア・ラブ」もそうだけど、「埋められた子供」にしても、客席をも含めてレイアウトをするというのは、大変に興味があります。

向こうの劇場では、比較的そういうのが多くて、リチャード・シェクナー率いる「ザ・パフォーマンス・グループ」のガラージ・シアターは、本当に倉庫です。天井が高く、コンクリートが打ちっ放しで、空間は広いし、外から見ても、劇場だとは思わない。それで、レイアウトと言っても、日本のように大袈裟にはやらないのね。何か、その辺の木を持ってきて、コリコリ切ったりして、手作りやっっているわけ。それが非常に面白い。あたしにお金があったら、ああいう倉庫が欲しいわ。それで、二階の自分の好きなところに寝泊まりして、ちょこちょこ降りてきて、その下でパフォーマンスをしたり、自分のいらなくなったホロボを下げたりね。

日本では、スペース・パート3、ベニサンピットが、その点素晴らしい。でも、日本でこうしたことが出来てきたのは、つい最近だから、十五年は遅れていますね。

もっとも、寺山修司さんは、最初から、そうした発想があって、それが、やがて市街劇に発展していくことにもなったんでしょう。だから、寺山さんが亡くなったことは、いわゆるエクスペリメントの芝居の頓挫であり、途切れてしまったことにもなりますね。海外輸出にしてもそう。だから、寺山さんは、本当に惜しかった。

こうしたことは、小劇場の果たした大きな



photo・神村光洋

「フル・フォア・ラブ」スペースパート3

「忘れな草」・山口小夜子 ……ベデキント「ルル」による……………

作・岸田理生 演出・佐藤信

6月21日～7月6日 スパイラルホール

インタビュー・構成 白鳥 皓
写真 黒田康夫



「太極拳をなさってるって聞いたんですけど、太極拳も習ってました。あと、山海塾の人たちから、舞踏のようなものなんですけれど、山海塾の体の動かし方を習ったりは、ずっと2年位しているんですけど、日本に帰ってらっしゃったときに、私もちやうど、日本にいたりしたときに教えていただいたりしてるんです。それと、韓国のチャンゴ(長鼓)っていう楽器があるんですね。それを韓国の先生に教えていただいたりするところもあります。

——チャンゴっていうのはサムルノリの人たちが使っていたあれですか

そう。チャンゴ舞っていうのがあって、それは女の人やるんです。国立劇場で韓国の人がきて、踊ったのを見たとき、すごく美しかったんですね。女の人が太鼓を打つので、あんなに美しいのがあるのは知らなかったし、殆んど女の人の太鼓ってないみたいですね。世界中で、だけど、チャンゴ舞っていうのは、女の人の強さ、弱さ、やさしさ、優雅さみたいなものが、ぜんぶある舞なのね。それで、ぜひ習いたいって思って、日本で先生を調べて、いい先生に巡りあって、それを習っています。

——ファッション・ショーについて

歩くってこと。服をきて、ステージの上を往復して、そして服を見せていくってことですね。それだけだと思ふ。

あと、デザイナーの方が、求めている、この服でどういうことを表わしたいとか、どういう女性像を考えてるかっていうことで、歩き方も、色々変わってくるし、ライトとか、曲のイメージで、どんな服の、歩き方の感じが変って、服が違いうように見えてゆくってことでもありますけれど。

モデルクラブでは歩き方の訓練っていうのがあるんで

すけれど、私は訓練してなかったんです。だから、もし正しい歩き方っていうのがあれば、あまり正しい歩き方はできないかなって思っています。

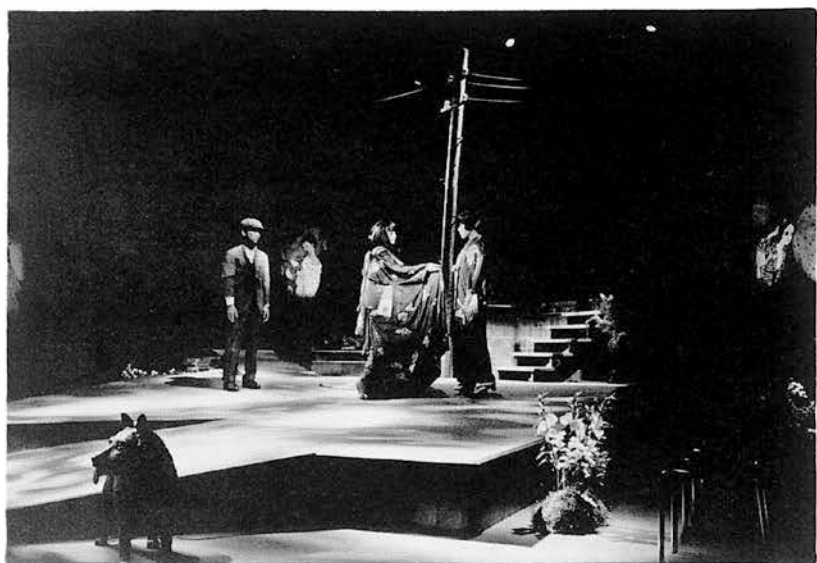
——最初に見た芝居は

子供のころは、宝塚とか、帝劇とかね。両親に連れられてね。

そして、自分で見ようになつて、最初にびっくりしたのは寺山さんの「時代はサーカスの象にのつて」でしたね。ぜんぜん違うっていう感じで、衝撃をうけましたね。この前、ギリヤーク・ニヶ崎さん、見たんです。渋谷のバルコの前でやってらっしゃるの。あの方、着替からみんなの見てる前でやって、ぜんぶ見えるのね。気持ち悪いっていう人と、すごいっていう人といいたけれど、私、ずっと見てました。それでカセットのボタンを押すところから、踊りがはじまるのね。

白虎社の人たちも面白いですね。私、ベルリンまで行ったんですよ。見に。日本でも一度見て、パリにいるとき、ベルリンでやってたので。山海塾とはまた対極で、ぜんぜん明るい舞踏だから。

お神楽が好きだったのね。今でも好きですけど。お祭るとき、近所の神社で、おじさんがお面つけて踊るんですけど、それを見ていると、両親が帰ろう、帰ろうっていても絶対動かなくて、ふつう、子供はああいうのは見ないのね。大人が見て、子供は遊んじやうなだけと、やっていると毎日行つて、最初から最後まで見てたの。どこに引かれたのか子供なのについて思っています。5才から中学生のはじめくらいまでの、夏祭にお神楽を見るっていうのが、あたしの、自分ひとりだけの楽しかったこと、わけのわからないものが、すごく不思議で、すごく神秘的にみえたの。



◎山口さんは来年1月中旬、PARCO劇場に出演の予定です。問い合わせ=406・0765

役者には旅がいい

●創立十一年●

全国小・中学校巡回公演

出演俳優募集!!

民話芸術座は、北は北海道から南は九州・沖縄まで全国各地で約800ステージほどの巡回公演を行なっています。又、民話劇にとらわれず、年3回の東京公演では劇団員の演技力の発表の場としていろんなジャンルの芝居にチャレンジしています。いっしょにいい芝居作りを目指しませんか!!

劇団員・準劇団員同時募集

出演料等詳細は劇団事務所まで

担当 宮沢 正



民話劇「かんじんの笛」

劇団 民話芸術座

〒171 豊島区雑司が谷3-8-3シルバーパレス目白B1

03 (988) 7111

東宝特別公演

十二夜

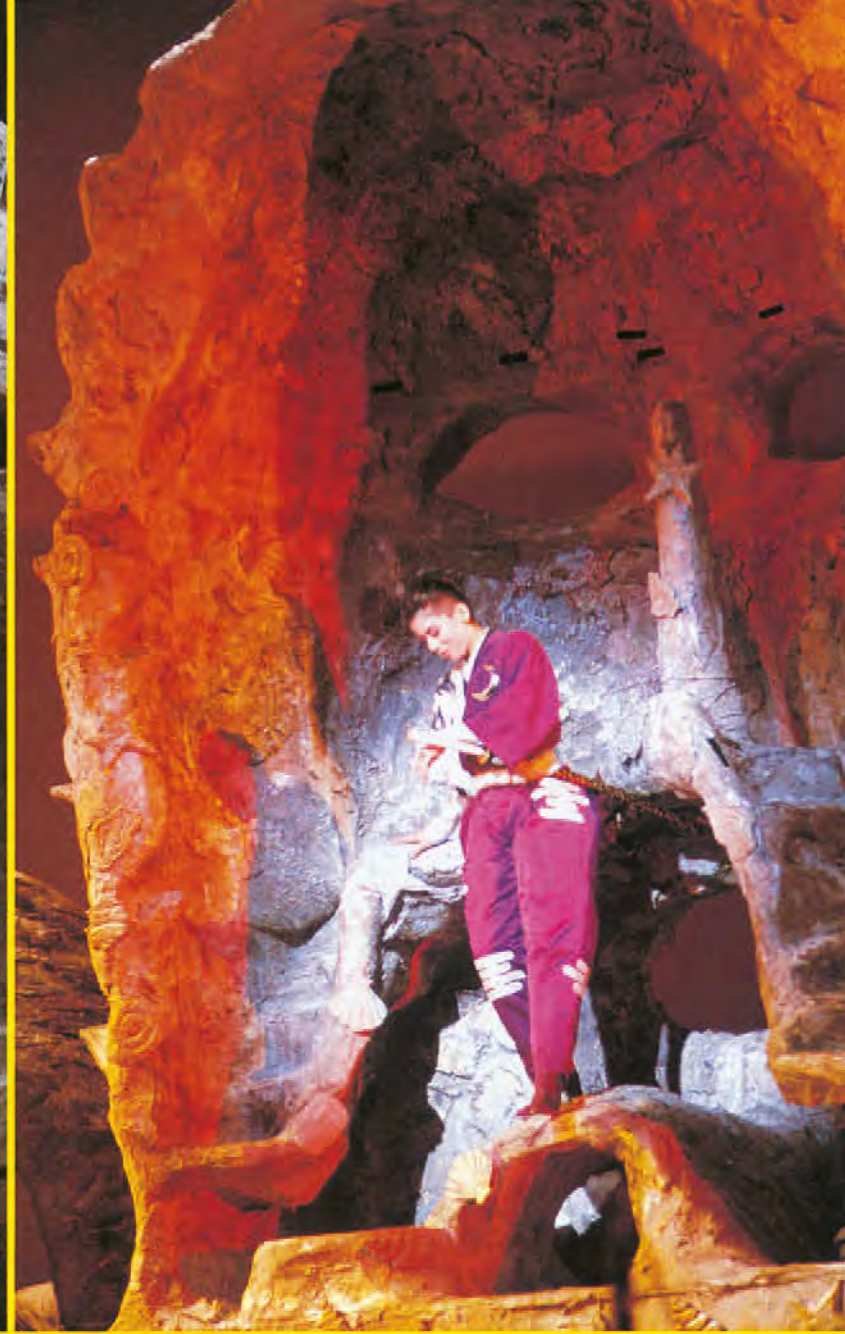
作・W・シェイクスピア
訳・小田島雄志
演出・野田秀樹

●公演データ
7月5日・28日
東京・日生劇場

●キャスト
大地真央 寺田実
梅田淳子 橋爪功
ほか

写真 神村光洋

誤解のままが美しいのなら、もつれた糸を
解がすにしよう。それと知らずとり違えたこ
との中に、決して望みのまぎれ込んでいない
などと、誰にも言えないのだから。





演 劇
ふれんど

三善化粧品

TV 映画 演劇

日舞 洋舞 花嫁化粧品
東京都文京区小石川3-6-14

株式会社 三善
TEL 03-814-3721
FAX 03-814-7640



photo by Bob Shamis

第二部は永年共演してきたメンバーの一人ラニー・ハリソンとのデュエットで、バックにピアノなどでナリット・ティルズがさりげなくからむ。表面的には一組のレスピアン、日常のスケッチといったところだが、ニューヨークの街の雰囲気やユーモラスに折り込み、人と人とのふれ合い、友情、愛、怒り、悲しみといった人間関係の機微をコミカルに描いていく。二人の声のデュエットやキーボードの鏡演、特に二人の顔の表情の豊かさは圧巻だった。

モンクの作品のすこしは時間、空間のスケールを自由に超えていく発想であり、幼女から老人まで自在に演じきる表現力である。この作品は小品ながら軽やかでモンクらしい雰囲気、満ちたもので、最後にモンクとハリソンがまとっていた大きな布をたくし上げると、二人の足元にニューヨークの街のミニチュアが現われた。粋なエンディングであった。

この作品は「一部からなり第一部はモンクのソロである。観客が中へ入っていくと、黒いドレスに身を包んだモンクが舞台奥のテーブルに座り、アルバムをめくっている。客席が暗くなり、小さなライトに導かれてモンクは空間の見える壁をたどるように舞台の前に歩み出、突然ギターを弾くような格好をして「デイギ、デイギ、デイギ」と歌い出した。それから左奥に歩き、立ち止まって上半身のムーヴメントを見せ、今度は右手前のピアノの所に来て、「ナナナナン」と抜けるような高い声で歌う。モンクの発声法は独得で、体の様々な場所を共鳴器として使い、ややメランコリックなシンパルなメロディをミニマル音楽的にくり返して、モンク独自の音の世界を作り出す。彼女はさらに舞台の上を移動し大きな箱を開けてモデルを歌い、「ハロー、ハロー」と声をかけながらさまよい、人間の様々な深層心理を表現していく。

もともとはダンサーとしてキャリアを始めたモンクはポストモダン・ダンスの母胎となったジャドソン・チャーチの第二世代に当る。しかし豊かな音楽性とスペースに対する鋭い感覚によって独自の世界を開拓し、グッゲンハイム美術館などを使った「ジュース」、「ヴェッセル」、「少女教育」、ピン・チョンとの共作「パリ」やホロコーストを扱った「クオオリイ」などすぐれた作品を作り出してきた。

そのモンクの今年の新作が「アクト・フロム・アングダー・アバヴ」でニューヨークのラ・ママで公演された。

アクト・フロム アングダー！ アインド・アバヴ



Meredith Monk (right)
Lanny Harrison (left)
Photo by Tom Brazil

ヘメレディス・モンク by 田上節朗

カーネギー・ホールでコンサートを開き、LPを何枚も発表し、オペラ・カンパニーに作品を作り、フィルムを作り、そして自分のパフォーミング・グループ、ザ・ハウスの公演にはいつも人がつめかける。六十年代の終りにはもう「ミックスド・メディア・キッド」と呼ばれていたヘメレディス・モンクはまさに奇才である。



Photo 青木司

発見の会・韓国公演

河内音頭・堀川波鼓

原作／近松門左衛門 脚色・構成／佐々木守

演出／瓜生良介・立川好治

●7月4・6日 東京・スーパーロフト
●7月11・15日 ソウル・パタンコ劇場



マルセル・マルソー

元祖パフォーマー “空飛ぶマイミスト”

マルソーは、空飛ぶマイミスト。といわれるほど、世界を股にかけて活躍している。その活躍ぶりは、「探検隊がアマソンの奥地を突き進んで行ったら、そこにマルソーのポスターが貼ってあった」という笑い話があるほどだから、筋金入りのパフォーマーだといえるだろう。

●約25年ほど前、マルセル・マルソーは初めて日本にやって来て、当時の演劇志向の青年たちに強烈な感銘を与えた。マルソーの舞台に、パリの華やかで、ちよつと哀愁を帯び、エスプリのきいた新しい風を感じた人は少なくなかった。マルソーは新しさの象徴だった。マルソーの舞台には、花の都パリのほいがした。

●あらゆる演技の基礎がパントマイムにあるといわれている。パントマイムには、目に見えないものを見えるようにし、抽象的なものを具象化し、生命をもたないものにいのちを吹き込む力がある。

●パントマイムといえはマルセル・マルソー、マルソーといえはパントマイムと、互いがそれぞれの代名詞であるかのように、この二つの言葉から受けるイメージは密接にからみ合っている。パントマイムの王様、パントマイムの神様と呼ばれるゆえんである。

●「昨日、しきりとパフォーマンズ」という言葉が巷に氾濫しているが、パフォーマンズの元祖がこのマルセル・マルソーなのである。

マルソーは、今も世界中を飛び回り、演じるたびに見るものの心に優しさを灯しつつけてきた。それが、彼が世界中の人々に愛されてきた理由なのである。

梅雨時、ソウル（京城）市の気候はほぼ東京と変わらない。150人程度収容できる5階建ビルの地下劇場で、5日間10回上演、約千人の観客を集めた。30年前の近松作品を河内音頭で脚色・構成という初めての試みと姦通・妻敵討ちの内容がはたして観客にどの位、通じるのかの疑問は、発見の会諸氏の純情可憐一途の熱情で………全員無事帰国。

インタビュー① 京響新聞記者27才



●単語と単語しかわからなくて、よく聞き取れませんでした。音楽はリズムがあつてすばらしく良かったです。感動しました。

インタビュー② ソウル大学・韓国語学科留学生27才



●アジアに興味があります。ストーリーは30%くらいはわかりました。とてもおもしろかったです。楽器もいろいろ使ってるし。今回で2回目です。

インタビュー③ 劇団演出家

●アンサンブルがとても良かったですね。シリアスな語り、軽快な音楽の転換が良いリズムを作り出していて、すばしかったです。近松の物語りの人情も良く理解できました。

マルソーの至芸は、昨今のパフォーマー・グループの中でも、特に目を見開かされるに充分な威力をもっている。たくさんの方のパフォーマーに接してきた人にも、マルソーの舞台は新鮮な驚きを与えてくれるに違いない。

●マルソーのパントマイムは、一過性の「パフォーマンズ」とは違い、永遠の輝きをもっている。

昔の演劇青年であるお父さんを誘って、しばしその輝きに心を奪われてみるのも一興なのではあるまいか。

簡易保険ホール（五反田）		10月16日（木）		愛知文化講堂（Bプロ）	
10月9日（木）	6:30（Aプロ）	17日（金）	6:30	長野市民会館（〃）	19日（日）
10日（祝）	1:30（〃）	19日（日）	6:30	伊勢市民会館（〃）	21日（火）
10日（祝）	6:30（〃）	21日（火）	6:30	青森市民会館（〃）	23日（木）
11日（土）	6:30（〃）	23日（木）	6:30	富山市民会館（〃）	26日（日）
		26日（日）	1:30	大阪近鉄劇場（Aプロ）	27日（月）
		27日（月）	6:30	〃（Bプロ）	28日（火）
		28日（火）	6:30	奈良県橿原文化会館（Bプロ）	29日（水）
		29日（水）	6:30	神奈川県民ホール（Bプロ）	31日（金）
		31日（金）	6:30	山梨県民会館（Aプロ）	

●お問い合わせ・電話予約 03-723-2356代
財団法人 日本舞台芸術振興会

マルセル・マルソー上演予定
プログラムA
船頭（初演）、鏡（初演）、サムライの刀（初演）、流石、スリの悪夢、ビップの恋する仕立屋、ビップの手品師（初演）、仮面づくり、その他。
プログラムB
ピラ貼り職人（初演）、射手（初演）、夢想（初演）、公園、船旅に出るビップ、ドン・ファンを夢見るビップ、狂歌狩りをするビップ、その他。



ソウル・パタンコ劇場

徐淵美（演劇評論家） 自己文化への真摯な接近

韓国に於て、日本の演劇人達が劇場を建て公演を始めたのは、19世紀末である。いつの間にか90年余りが過ぎた。その間に公演された数多い日本の作品は、両国間の不幸な過去と共に私達の胸へ、多方面にわたる深い障と傷痕、微妙な想いを残していた。今回の日本「発見の会」公演（11・15日）に対する私達の錯雑とした心境は、このような過去演劇の先入観によるものではないかと思う。

——中略——

今回の公演が過去の日本演劇に対する、私達観客の歪んだ印象や間違った先入観を払拭するために、少なからず寄与したという点に於ても、一抹の意義を持つとする。

韓国日報 一九八六・七・二六

（翻訳・金美順）

話題の人・ インタビュー 大高 洋夫 (第三舞台) その 1

○今度の舞台は新劇だそうですが。
そうです。出演者4人のうち3人までが新劇の方です。だから話が来た時、ばくでいいのかなと思いましたが、でもプロデューサーがばくの芝居を見たいことだということで。○いわゆる大学の学生演劇出身ですね。
そう、基礎がない(笑)。
○そのことは気になりますか？
別に、そういうことは気にならない。しよせん役者ですから、違いはないでしょう。
○稽古に入って第三舞台と違うところは？
まだ本読みですけど、まずじっくり本を読むというのが初めてですね。劇団ではすぐに立稽古に入るから。
○どんな役を？
姉弟がいて、ばくは弟です。それでペンションをやっているわけですけど、二匹ネコが出てきます。そのネコも人間がやります。面白いですよ。

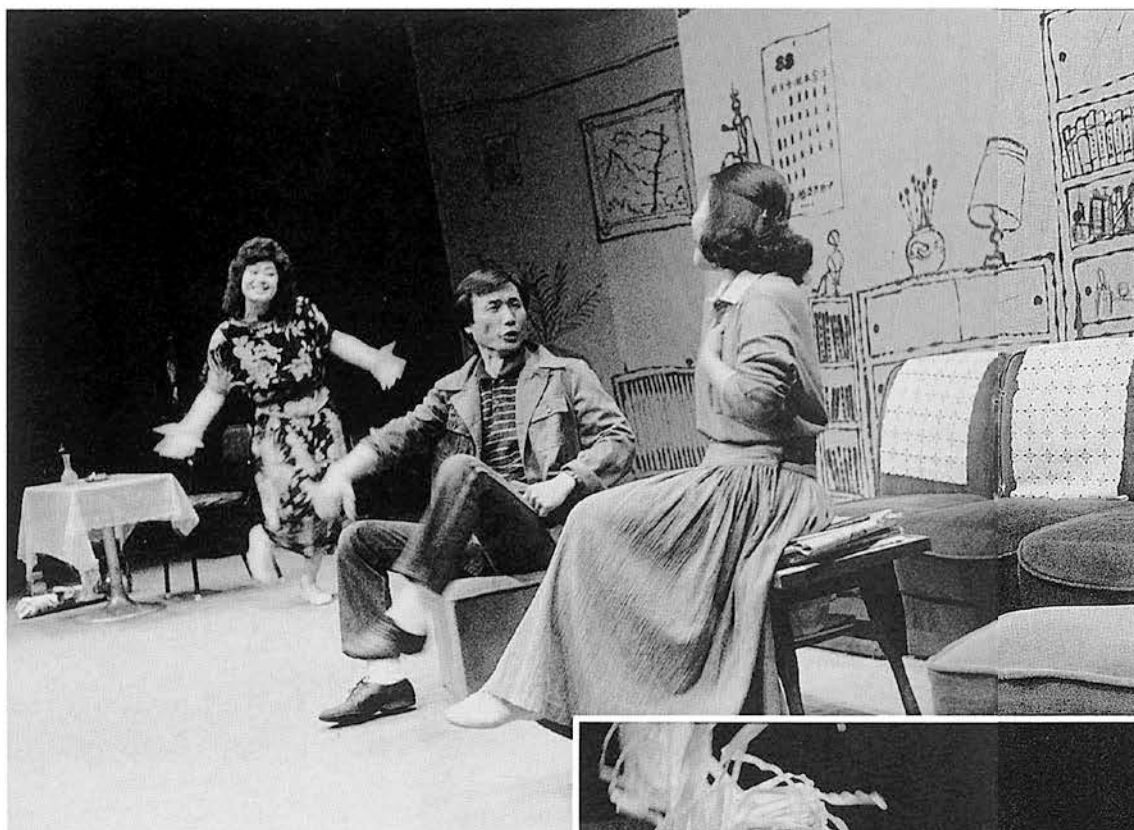


メモ

大高さんはフェミニストだ。テレコの電池の入れ方が分らずにオロオロしていたら、さっと取ってパッパッとセットしてくれた。

○ところで、最近タップダンスを始めたとか。
まだ半年ですけどね。実は映画の「巴里のアメリカ人」と「雨に唄えば」を見まして、すぐあと「マイワンエンドオンリー」を見たら、あれは裸足で水の中でタップを踊るシーンがあるんですよ。もう、感動しちゃって、絶対タップをやろうと思って始めた。
○タップはかなりハードでしょう？
疲れますね。走っているのと同じですよ。でも音がなくても、できちゃうから、そこが魅力ですね。

○じゃあ、歌って踊って芝居して、ですね。
いや、歌って、はないですよ。苦手だから。
○第三舞台で歌ったことなかったですか？
あったとしても、ほとんどしやれませんでした。
○いつごろから演劇の方に？
兄貴の友達が早大の演劇研究会にいて、すごく影響を受けたんです。面白そうだった。それでその人と一語にやるつもりで早大に入ろうとがんばったんですけど、ばくが演劇研究会に入ったら、その人はもうやめてた(笑)。



③

①演友舞台「チルスとマンス」若者の圧倒的支持で2度目のアンコール公演となった。2人のペンキ塗り職人の気ばらしのやりとりが、ふとしたはずみに事件を引き起こす。軍や記者達はその騒ぎに拍車をかけてしまう。客も巻き込んだ軽妙なやりとりがたのしいが、はっきり言って言葉はほとんどわからなかったのが残念。

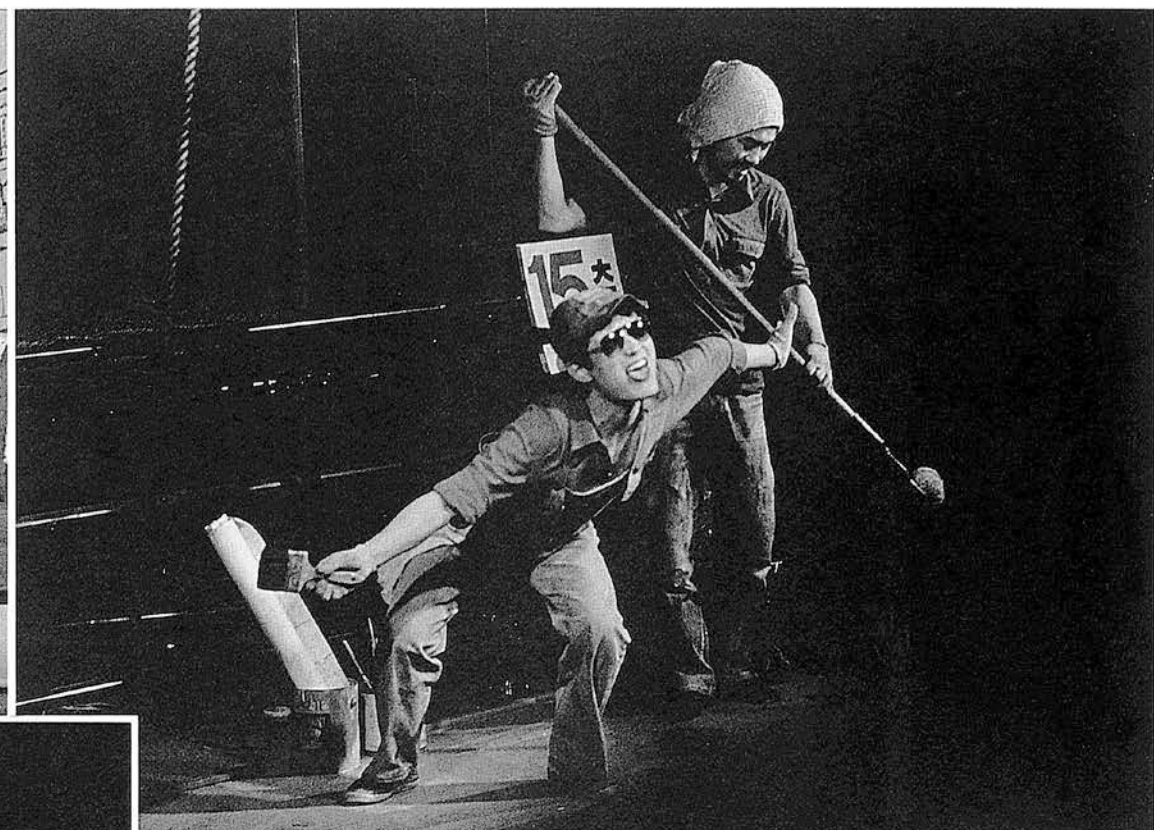
②劇団76「観客冒険」こちらはシリアスに演劇行為を対象化した芝居。すでに500回の公演をこなし、この公演で資金を作っては、自分たちのやりたいほうだいの実験劇をして散財してしまう、といういわく付きの公演。次回はベケットの「ゴドーを待ちながら」

③劇団民芸劇場「夢を食べ水を飲み」民芸劇場の座標は演劇を通した人間性回復と民族伝統芸術の現代的調和である。という実力派の劇団。83年に日本で「ソウル・マルトウギ」の公演をしたこともある。この公演は、軽いタッチで進むラブ・オペレッタ。次回は「ムルトリドン(河回洞)」という、古い村を舞台にしたものを上演するという。

④劇団広場・大衆劇場「巫女図」原作は韓国では夏休みの課題図書にもなるという有名なもの。キリスト教徒の息子と巫女の母のあらしいの果てに、母は神かかりの状態で息子を殺してしまうが……。今やキリスト教徒が大半という状況を考えると、彼らにとっては切実な問題なのだろうが、僕らにはついてゆくのがちょっとしんどい。



④



①



②

「韓国」というと「ああ、日本の50年代、60年代とちやうど同じなんですよ」と言う人がよくいる。こういう素朴な偏見って困るんだよね。今、韓国のアートの各現場では私たちの予想以上に様々な試みがスパークしている。韓国の人々の熱気のなかで体験してきた現代韓国演劇事情、まずは第一弾をお届けしよう。



写真・青木司
文・大島みどり

●観劇の手引き

もしも韓国を訪れるチャンスがあったら、もちろん演劇ファンの読者諸氏ならば、ここで芝居をみない手はない。そこで右も左もわからなくとも、お好みの芝居をみるハワッ。

ステップ① ハンゲルがまったくわからない人。とりあえず大まかのホテルへ行き、今週のソウル」という観光客用のフリーペーパーをもらう。英語と日本語で編纂されていて演劇欄があるのでタイトルで目ぼしをつける。また英字新聞「コリアンヘラルド」もけっこう詳しい。

ステップ② いちおうハンゲルを音読みすることはできる人。

このことは地名、劇団名くらいはなんとかなるね。大きな本屋などに置いてある「世宗文化」というパンフレットをもらってこよう。(月刊・無料)それから劇場などに置いてあるフリーペーパー「公演情報カン」も小劇場までだいたいふついているし写真も少し入っているの、アタリがつく。また街角のポスターをじっと眺めながら、というの大切なこと。ポスターのセンスがいろいろと芝居のセンスもよかつたりする。ピンとくるポスターがあったらメモして、情報誌で確認。

ステップ③ 劇場まではどうやって？

大劇場ならば問題ない。地図にものっているし、みんな知っている。新しい小劇場の場合が困る。ここ2年ほどの間にソウルでは小劇場がずいぶん分ふえた。観光客の地下の案内カウチャーに行こう。きれいな日本語を話すきれいなお嬢様がいていいおしえてくれる。電話で問い合わせもしてくれる。さて、ちなみに料金は前売二千五百ウォン、当日三千ウォン(六百円)が相場。

●金徳洙(サムルノリ・リーダー)



韓国人には歴史的に反日意識があります。今の僕たちは、それをそのまま子供たちの世代に伝えるのではなく、地球人としての意識を伝えなくてはなりません。たとえば、文化

の流れというものは、一方的にアジア中央からやって来て半島を経由して日本へ伝わったのではなく、逆の流れも、同時に発生したのもあります。だから、日本の古い民俗芸能を見ると、韓国に今残されているものと比べて、何が本当に韓国的なのかわかっています。今、僕はそんな意味で、とても日本に関心があります。

●姜駿赫(小劇場空間劇団ディレクター)

——例えば西洋ではトータルシアターの動きが盛んですが、それはギリシア文化へのコンプレックスからきているのです。しかし、東洋では本来どこにでもあったわけで、韓国だったらクックとかタルチュム(仮面劇)とか、自然な複合芸術があるんです。私たちの活動もまたそのような複合芸術を目指しているといえます。

空間社 1965年に設立。当初の目的は、伝統的な民俗芸術の振興とこしと現代アートの紹介という二つにあったが、しだいに人々のつながりから民俗芸術と現代アートをジョイントさせたメタアート(韓国ならばさしずめビビンパアート)が徐々に展開されるようになった。姜氏はその仕掛け人。8月いっぱいまで閉鎖の予定となっており、求活動が

話題の人・ インタビュー

大高 洋夫

その 2

○大高さんも一時、役者をやめてた時があるそうですね。

カタギになってました。まあカタギといっても、日本テレビの「酒井広うわさのスタジオ」って、あるでしょう。あれの下請けの取材スタッフで、芸能人の追っかけをやってたんです。

○追っかけというのはテレビに写らないで？
写らない。でもまちがって出演してしまったことはあったけど(笑)。カメラマンに怒られた。

○それをやめて、また役者になったのは？
そういうスターの取材をしていると、ばくも目立ちたいほうですからね、やっぱりくやしいわけですよ。

○追いかけてみたいですか？

追いかけてみたいですね。

○スキャンダルでどうですか？

ちょっと困る(笑)。

○真面目そうに見えますね。

ぜんぜん真面目じゃない。そういうふうに見られがちですけどね。ぜんぜん。

○重い役というか、真面目な役が多いですね。

わりと鴻上のテーマをしょって舞台に出ますね。

○剣道二段の腕前だとか。

中学・高校と剣道をずっとやってたから。

○スポーツ少年だったんですか？

そうですね。何でも一応やった、野球とか。小学校の時なんかバドミントンにこつてた。やっぱり何だか暗い(笑)。



メモ

剣道をやっていたのなら、時代劇なんか出たいですか、と聞いたら、ハハハと笑いとばされてしまった。

メモのおまけ

鴻上氏は大学二年まで役者をしていたが、旗上げと同時に作・演出に専念している。しかし、大高さんのヨミでは、まだ、したたかに狙っている。ただ、たまーに身体訓練に参加しては、すぐに疲れてしまうという事実もあるようだ。



大野一雄

た。一つにはショーアップされた所があつて全体に流暢さを欠いたことだという。しかし、その後の二日はその部分を訂正して成功したと聞いている。

大野一雄に関しては、今さらなにを言い上げる程のこともない。三日間の公演は札止めになるほど、もっとも他の舞踏も舞台の開くまえから売り切れだったのが今回は昨年、日本での舞踏フェスティバルで初演した「死海」をヨーロッパでは最初の披露だったことが耳目を集め、パリやアムステルダムからも多くのプロや批評家がみに来ていた。楽日を飾った「ラ・アルヘンティナ」にアンコールの声高く、大野一雄も三回に渡ってアンコールに応じたくらいだった。この老年の芸術家に対する畏敬の念は深い。こうして、ベルリン舞踏フェスは終え夜更けのおそい空はまだ蒼さを少し残しつつ次第に闇につつまれて行った。

恵路幾代が見せた力量は、昨今の東京の舞踏では忘れ去られていた動きであつた。小刻みな動き、柔軟な速さと壮絶さは「四季」の頃の芦川羊子を想起させるに充分であつた。ダンス・ラブ・マシーンは賛否が明確だった。賛はベルリンの一般観客で手放しの喝采だった。しかし、批評家の間では初日に色々取沙汰され

ベルリンの夏は緑濃く、薫風爽やかで森を渡る鳥の声も清涼でさえる。初夏の陽光にドイツ女性の肌をまぶしい程に映えさせた頃ベルリンでは初めての舞踏フェスティバルが行われ、その一環として写真個展を開きに出掛けて来た。舞踏フェスも、日本から大野一雄、石井満隆、田中浪、ダンス・ラブ・マシーン。そしてパリから恵路幾代が参加して行われたが舞踏の、この約二十年間に出来つつあるフォルムを表出して来ている非常に興味ぶかいフェスティバルであつた。



ダンス・ラブ・マシーン



恵路幾代



石井満隆



ベタニアン芸術家会館での写真展会場



ブランデンブルグ門(向うは東ベルリン)



田中浪のワークショップ



田中浪



今年で4分の1世紀たったベルリンの壁

ベルリン舞踏フェスティバル実況報告

写真と文 羽永光利

場所は西ベルリンでも東との壁に接しているクロイツベルク地区のマリアンヌプラッツ中央にあるクンストラーハウス・ベタニアン。日本流にはベタニアン芸術家会館、というところか？

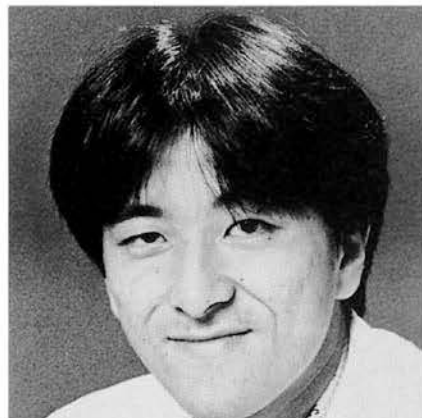
今回の公演を順から云うと、田中浪彼は再三のヨーロッパ、アメリカ公演で大野一雄、山海塾とともに海外では知られているし、彼の主宰する「舞塾」にみる海外からの塾生が帰国して欧米に散ってそのクチコミも大きい。初日にすでに入場できなかった観客がホールの外で騒ぎだてるほどであつた。舞台半ばでホールを躍りながら屋外へ出て蛇行しながら夜の公園を隅まで辿って終演にするところは観客をエキサイトさせて充分であつた。石井満隆は公演の前日主催者によるパーティー会場終盤で演説を打つというハプニングを演じて主催側を慌てさせたが、後の石井の説明によると総て計算をしていたうえでのことだったそうで、その辺の深慮遠謀は計り知れない。舞踏セラピーや野草等の自然料理など舞踏フィロソフィーを目差す石井は、舞台だけでなく「私の全体を見て評価して欲しい」というのだが、そうなる一度や二度では理解されるのは難解だろう。

話題の人・インタビュー

大高 洋夫

その 3

○ずっと自炊しているとか。
高校卒業して、東京に来てからずっと一人暮らしですからね。
○料理は嫌いじゃない?
けっこうやりますね。家が商売していたから、おふくろが店に出ると途中ではったらかしになるでしょう。あとを手伝ったり、見様見まねで覚えましたが。でも洗いものはたまらないとやらない(笑)。
○好きな女性のタイプとか聞いていいですか?
テンションの高い人が好きなんです。つまり、ささいなことでも泣いたり笑ったり、怒ったりするという人がいい。



○中島みゆきファンということですけど、彼女にもそういうものを感じる?

どっかありますね。オールナイトニッポンなんか非常にテンション高い。でもラジオの彼女は歌手中島みゆきを出さない。パッパパーでやってる。どちらが本物か分からないというのが、戦略として成功してますね。
○コンサートに行きたいそうですね。

2回も抽選に落ちました。でも演劇ぶっくの創刊号に載ったのを見て、チケットがあるって、いったん来た子がいましたよ。あれにはびっくりした。

○第三舞台って若い女性客が多いですよね。あの子達が今、世界を動かしているんじゃないですか。中学生、高校生が。この間制作サイドが調べたら、今の平均年齢が20歳ぐらいだそうです。昔は23歳ぐらいだったけど。○どんどん下がってるわけですか?

新陳代謝してますね。だから旗上げから見てる人なんて、1公演で2、3人になっちゃいましたね。

メモ
8月12日に「ごちそうさま」に出た大高さんは、大高ライスというハヤシライスにコンニャクの入ったものを作っていた。とても手際がよかった。(インタビュー・榊原和子)

公演
「夏」 演出・栗山民也
9月13日(土)~21日(日)
青山円形劇場
☎03-319-8881
フェニックス・プロデュース・オフィス

Photo Hirokuni Ochiai



●劇団内というより、個人として組っているセンというの?
「今、結局どんな役がいいとか具体的に言えないんですよ。昔はこう、若い時には憧れるものがあるでしょう、カッコイイとか、そういうもの、今、なくなってきたんですよ。でも、何でも、つていうとこあります。でも、こうやって働いて、こういうのって苦手かな。」



「イヤ、ウチではそうなんです。ウチは偶然若い十代の子とか多いでしょ。どうしても土になっちゃうんです。だから高取さんにも言ってますけど、『なんで私より大きい人がいないんでしょう?』ってね。正直な話、入ったばかり、この間の旗揚げの時ですけど、その時びっくりしましたものね。若くて、かわいい子ちゃん路線ですよ。見たかんじ。どうして入れてくれたんだらうって実際思いましたから。」



Photo 青木 司

とか思っちゃいますけど、でも何十年もやって来たわけじゃないですからね。固まるわけはないです。これからのやつ、なんか始まるってかんじですね。
●あ、写真、写されるのは嫌い。舞台平気なんです。信じてるから?
●そうじゃないです。たぶんかまえてるんですよ。カメラ向けられると、芝居はセリフとかね、役をやってるわけだから。
●観客は束でかかれた方が楽だってゆづのか?
「そうかもしれないですね。観客は平気ですね。写真でいつシャッター押すのかとか、なにかしなきゃいけないでしょ。結局、よく写ったためしがないですね(笑)。」

月蝕歌劇団公演予定
月蝕歌劇団 黙示録
10月9日(木)~10月14日(火)
高円寺明石スタジオ
作・演出 高取英
☎03-419-7455

月蝕歌劇団第二回公演

作・演出——高取 英

帝國人形病院

●月蝕歌劇団 インタビュー

インタビューアー 大島みどり 落合星文



●この芝居ってわりと映像的でしょ、そういう高取さんの演出って好きですか。
「はい、あと二、三年したらもつとさびしくなっていくんじゃないですか(笑)。」
●高取さんで顔でかいと思う?

●「うん」というか。映画には勝てないけど、もつとお芝居で、良い影響を、つてい、そう、そういうやうい、つて、芝居でしか見れないものを。」
●反対に言う、麻山さん自身、映画ファンなの。
「いや、私は、あんまり見ない。お金払って見るほど好きじゃないし、ビデオを借りて見るくらい。」

●麻山 まゆみ
●今回の芝居見て、仮面ライダーっぽいノリだと思ってたんだけど。
「キティン」でしょ。お友達を見て、斬新なアイデアだつて笑われた。『ロボイド?』とか言つて(笑)笑つちやつたとか言われた。ああいうのつて難しいですよ。映画とかには、やっぱり勝てないところがある。ロボイドもああいう仮面をつけて直接出てくるっていうのは、もう仕掛が全部見えちゃう。映画だつたらそれなりにごまかしがきくけど、今日みたいなつて、ああいうやり方じゃなくて、もつと他のやり方だね。」
●でも、そういうのつて芝居を否定しちゃつてる部分が多いでしょう。そこは見えないことつていう、了解があつて成立つというものだし。
●「うん」というか。映画には勝てないけど、もつとお芝居で、良い影響を、つてい、そう、そういうやうい、つて、芝居でしか見れないものを。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」
●それは、みんな一丸となつて?

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」



●「やつてる人(たち)も出来上がるまで分らないんじゃないかな、まっ、高取さんよく分つてないみたい。」
●作ってる本人も分つてない?
「分つてないみたいですよ。」
●月蝕のアイドル押しなのものにギャップを感じますか。
「うん、それを超えなければいけない。話題として、商売というか、それはあるけど、役者がそれを超えなければいけないと思ってますけど。」

東北から裸体まで



Photo 羽永光利

舞踏の種

土方 元々汚いものがね。美しいものを作るんだということ。これは、私、相当深い意味を持つているんだと思う。この小汚い命の助けを借りないで、どんな美しさが出来たのかと、キリストから全部、一回調べてみる必要がある。

山口 きれいになった時には、舞踏というものは、成り立たないですか。

土方 きれいなものだからこそ、この小汚い命の助けを借りないと、物は出来ないという証拠は在るわけです。俺達が「美」と呼んでいるものがそうですよ。

根本的に汚れたものほど美しいものを作るというのはね。あらゆる民族舞踊の中にあるんです。実際に、言語、美術品、建築、王位継承、宗教、そういうものが、全部根こそぎ奪つても、踊りの種だけは残していつている。ダツタン人、フン族でも、それは種ですよ。

種。小汚い種がね。美しいものを作る。人間だけのことではないです。いつでも、汚い種

を播いてやらなければならない。だから、舞踏とか演劇とかの成り上がりかね。簡単に天下をとったような気になっちゃういけないんですよ。命の探究に向かっているんですよ。舞踏という道具を使つてね。

山口 それは、種を探し出そうということですか。

土方 種探しというのは、相当重要でしょうね。これは、舞踏に限らないんじゃないですか。あらゆるジャンルで、種の問題が大騒ぎされていると思う。舞踏の種というのは、あらゆる脱落の後に、バラ播いていったものですよ。一種の混血です。それが色んな民族舞踊になつている。京都には、京都の土俗がある。そういう形の土俗であるんだよ。だから、その文化の一つずつ、虫眼鏡で見えさ。お前のところの種、枯れてるんじゃないか、じゃ、取り替えよう。身体現象学というのは、ラーメン屋の身体現象学もあるし、下駄屋の身体現象学もあるし、六本木の現象学もある。一つに限らないことです。

俺達は、まだ人間じゃないんだ。丸ごとの人間じゃありませんよ。そう思えばね。その問題は、解決するんじゃないやしませんか。人間としてだなんて、踊りながら踊れないかと思うんですよ。まして、舞踏家としてなんてね。僕は、それを手放さない。土方さん、あんた人間でしょう。人間として」なんて言つても、俺はトンチンカンだ。

山口 丸ごと人間じゃない。他の部分を探すのが、踊りだということですか。

土方 そういう部分もあるね。唐十郎だつて、そうじゃないの。観念の影じゃ、とても適わないと思つたから、獣になつたんじゃない。喘ぎですよ。喘ぎ、ハッハッて、僕が言う。犬が、炎天下に喉を潤らしていく。太陽だつて、喉潤らして、水飲んでるじゃない。時々、遠慮してくれて、言いたい位。今、砂漠は皆そうじゃない。エチオピア難民も。飲みすぎだよ。太陽が水を。動物を、皆殺しちゃつて。だけど、それを人工的にやろうとしているからね。記号という奴。

山口 記号は、土方さん、嫌いでしょ。土方 記号は、すぐ体制の側にくっつくように生きている。

俺は、丸ごと人間です」という奴、見たいね。まあ、動物は悩まないからね。苦悩がないから。だけど、舞台上立つた時、苦悩したつてさ。誰が見る。それは、手品でしょう。「私は苦悩してます」なんて、表現の道具だよ。難儀するんだよ。できないから。もつと言え、遭難しているんだよ。既知の事実と。未知じゃないんですよ。イメージだとか、そういうものに肉体が遭難しているんじゃないか。ね。難儀しているだけ。デッカイ苦悩で踊りが出来るなんて、とんでもない話。それは、動物と人間を分けようという、座つて考えている奴ですよ。ただ、難儀している。

宮沢賢治と土方巽の青空

土方 東北の美しいマリアね。吉本隆明が、福島までマリアがいるといったね。ところが、福島から向こうに行くと、マリアなのか、何

島平野があるでしょう。夕焼けが、気流の関係もあって、真っ赤に焼けるんですよ。それを体で表現する時は、自転車漕ぐんですよ。夕焼けが残つてね。

それが、秋田平野だとね。ちょっと、曇ると駄目なんだよ。真っ暗になったりね。それで、明瞭に出るんですよ。だから、姉文化は福島からあつち。福島からこっちは、妹文化。妹文化はヤクザ文化なんです。ところが、姉文化は女郎だからさ。柳田国男も「妹の力」を書いてたけど、姉文化というのは、身売りなんだよ。焼き付いたような、素晴らしいモデルの研究がある、ということは、僕は余り固守しないけど。

山口 宮沢賢治は、どうなんですか。土方 あれは、国境がない。岩手県、彼が東京に来ると、吉原あたりで、そうだな、島木健作あたりと、鎌倉辺りで飲んで歩いて、駄目だったんですよ。あの風土は、書いたから彼は保護された。

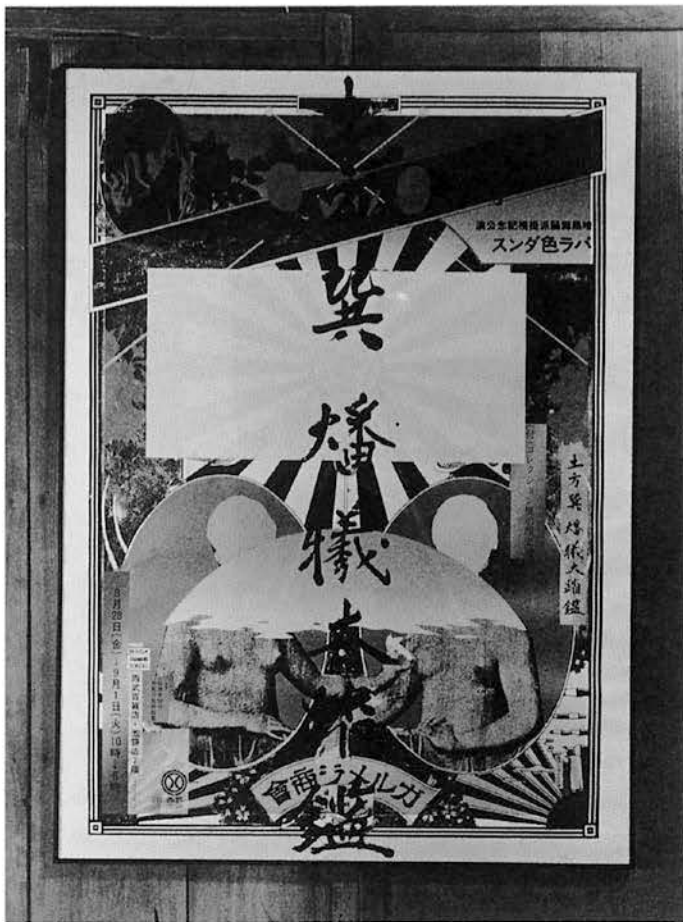
山口 僕は、宮城県ですけど、秋田県との間

土方巽を偲ぶポスター展は6月21日から7月6日までアスベスト館にて開かれました。

- 9月28日NHK芸術劇場「土方巽と舞踏」が放映されます。
- 9月末に「アスベスト館通信」が発行されます。
- 10月25日～11月9日細江英公「鎌鼬による土方巽追想写真展」がアスベスト館で開かれます。巷談細江英公。



「バラ色ダンス」ポスター：デザイン横尾忠則（中西夏之のフォンテンブロー派の絵「二人のヴィーナス」の翻案を元にする）



西武の公演の直前に三島由紀夫が土方の踊りを「燐機大踏鑑」と名付け、題字を書いたものです。



「四季のための二十七晩」ポスター

吹けよ東風!!俺はアジアの自閉症!! その2

蜷川幸雄の世界戦略

インタビュー●山口猛

●右手にバイロイト 左手にブロードウェイ

蜷川 お前もそこいね、これで2回分に分けておいていうんだから、笑っちゃうよ。
山口 そりや、前は喫茶店で30分だけ、今度はホテルで1時間ですからね。
蜷川 電話でホテルにしませんかっていうんだもの。ひっくり返ったよ。家のカミさんなんか、口の中に入っていた飯吹き出したよ。それでね、絶対迷うって。
山口 下から上からなかった。
蜷川 下って言っただろう。道から来たところから来たって。
山口 店は二つあるし。
蜷川 地下道から来たんだろ。
山口 いや一応下りて来たんですけど、まあ、無事に着いて新宿から世界に目を向けると、蜷川さんの芝居、だいたい評判いいでしょ。



photo・宮内謙

蜷川 評判いいよ。おれは英語もフランス語も読めないから分からないけど。アムステルダムでなんか、あのペレイマンのシエイクスピアより上なて書かれたんだから、だけど、おれがいつも中根に怒られてるのは、すぐ空港の地べたへ座ってんだよ。ほら、帰りになると、くたびれるから柱のところに地べたに腰かけているわけだ。と、「みつともないからやめて下さい。昨日新聞に出たんですよ。」かなんか言ってる。だけど、おれは着いた日から、日本に帰りたいって帰りたいって言うが、いんだから。そんな時は「ペレイマンが地べたに座るか」なんて、開き直って座ってるけどね。とにかく「マクベス」なんかやると、一挙に8ヶ国ぐらい、いろんな申し込みが中根のところへくるわけだ。たとえばパリのオペラの演出を頼まれたんだよね。
山口 蜷川さんが!?
蜷川 そう、テアトル・ド・シャンゼリゼって

ところがあったね、そこで Hoffman スタールの台本、リヒャルト・シュトラウス作曲、「エレクトラ」の演出を頼まれたんだよ。ほら、オペラって価値が上なんだって、芝居の演出より、「絶対やつといた方がいい」って中根に言われたからさ、するとヨーロッパでも、オペラの演出が増えくると、最後は、ワグナーのバイロイトかな。
山口 バイロイトでワグナーだったら「ニーベルングの指輪」とかですね。
蜷川 いいんじゃないかと思っただけだね、おれも。それとか、来年アメリカやイギリスで、演出家を中心としたフェスティバルがあるんだよ。で、イギリスがビクター・ホールだろ。フランスがムスイシキンだろ、ドイツがペーター・シュタイン、イタリアがストレーネル、日本はおれね、ソビエトは……。
ウエイトレス…あの、蜷川さん、中根さんから電話です。
蜷川 嘘だろう。
山口 そりや、嘘ですよ。
（蜷川氏は5分の中座）
蜷川 中根にハッキリ決まらないうちに喋りすぎるっていわれたよ。まあ、それはそうとして展望をいうと、ブロードウェイはね、価値がとかんとかじゃなくてね、金がいっぱいもうからないかなあって思ってたんだよね。そうしたら誰か日本なんか帰ってくるかって（笑）。お金ザクザクしたなら、おれはセントラルパークを見下ろすところにマンションかなんか借りて、アパートか、ああいうの買ってブラブラしてるっていうの。
山口 それでも、部屋の中でウォークマンじやね。
蜷川 だから戦略としてはですね。まあヨーロッパはオペラによって風穴を開ける。ブロードウェイはシエイクスピアでもうけると。というふうな思ってたんだけど、いらないかね、そういうふうな。（笑）それで、おれはちゃんとテレビに出て、ベニサンもちゃんとやるわけ。そうしてね、蓮司たちの芝居も見に行きやね、ふつうの生活は送ってるわけ、バイ

クでさ、「山口だったらホテルに憧れるけど、ぼくにとっては赤ちゃんながいがいいね。何か言ってるさ（笑）。何しろおれは芸能人やってるんだ（笑）。昨日チエックカーズ（ソング・オブ・USA）のロケーションへ行ってきたんだ（笑）。午前中ロケーションへ行ってる、NGだしてよ、またロケツちゃってよ。バカにされてさ、蜷川さんがロケルからも一回行こうか。スタンバイのときに、エレベーターから浅野温子と一緒に出てくんだ。で、スタンバイしてるんだ。だけど、扉が開いて、閉めるほうの押しててちっとも開かないのね。浅野さんなんか後ろでゲラゲラ笑ってる。で、扉の開けるって方を押して、開いて出てくると、もうセリフがメタメタになってるわけだ。大変だよ、タレントも（笑）。

●俺は日本のアルマジロ

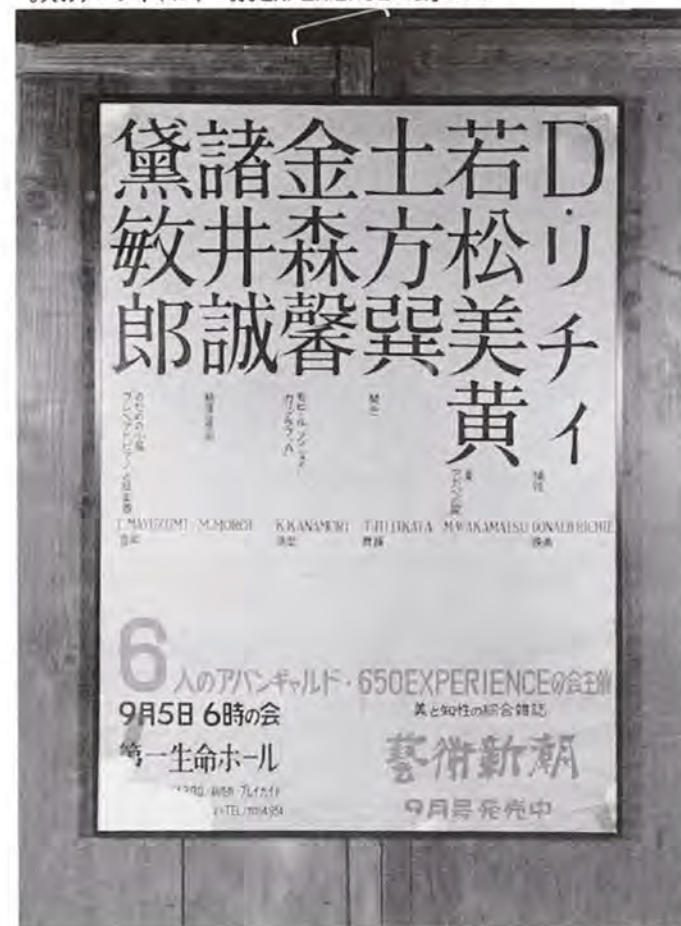
山口 でも聞いてみると、向うへ行つて評判とかどういうふうな受け入れられるかっていうことはあるけれども、それ以上に文化のショックを受けるっていうのは、蜷川さんあんまりないみたいですよ。

蜷川 あ、ないよ、それはもう全然ないんじゃない。日本でいいと思ってるやつ、くやしいに、誰もほめてくれないからさ、くやしいから、外国へ行って、「サマミロ、バカヤロ」って、その一瞬のいい気持ち味わいたいのね。浅野さんなんか後ろでゲラゲラ笑ってる。で、扉の開けるって方を押して、開いて出てくると、もうセリフがメタメタになってるわけだ。大変だよ、タレントも（笑）。

山口 でも色々なものを見て、ショック受け



「6人のアバンギャルド-650 EXPERIENCEの会」ポスター



土方 真つ青だよ。
山口 それは、ギリシャの空であり、西脇順三郎の空です。
土方 あるね。僕は、ギリシャあるね。要するに、空があんまり青いんで、井戸の底から見たいことがあんだよ。更に、青さを深めるためにね。空井戸の中に降りていって、ザアアアと、空見たりね。それは、バシエールなんてもんじゃありませんよ。もつともつと真つ青な、真空パックは大きいんだよ。何でも出来るということですよ。
山口 賢治は、野原で見上げれば、青空が見えるけれども、土方さんは、野原では見えないから、井戸の底に降りるといふことですか。土方 そうそう、そういうこと。だから、賢治というのは、一つのハローモニーだね。見事な室内楽を作っているんです。一番いい例が小岩井農場。あれは、あのままの言葉と音楽に置き換えると、ザッザッザと音楽が出来る。

(つづく)

「四季のための二十七晩」ポスター

には、奥羽山脈が走っているでしょう。秋田は、夕日を海の中に見ることが出来る。でも、賢治や僕は見えないわけです。山があるし、とすると、同じ青空にしても、グスコブドリの青空と、土方さんの青空とは、全然違うんじゃないですか。
土方 違いますね。賢治、賢治、というけど、世界で一番痛の死亡率が少ないのは岩手県。何故か、痛というのは大きな問題ですよ。そういう見地から、彼の地質学を見なければいけないし、それから、風ですね。風、まるつきり違うよ。彼はね。水なんか飲まなくてもいいですよ。湿った空気をビヤッと絞って、人

工的に抱えはいい。空からビヤッと、水を飲んで、そして落ちてくる。気流の関係ですね。気流も、何か歴史を持ってるんですよ。気流が、こう、喋った。それを賢治は、写し取って。その気流の道だよ。青森なんか、見ればよく分かる。風上的な問題じゃないか。地形の問題じゃないか。思想の問題じゃないか。そういうのが、沢山出てますよ。
山口 さっきの、気流ですけど、土方さんの気流は吹き飛ばさないんですか。
土方 そうだね。
山口 だけど、賢治は気流を掻き分けることが出来る。

土方 だから、空気がボシヤンと沈んだり、小岩井農場があったり。要するに、岩手っていうのは、非常に貧しいけれども、小さい山がボコボコあってね。盆地がある。気流の関係でボコボコ育ったね。外国風の匂いがあったりする。秋田は、ただ、ただ包丁の上を渡る風だよ。青森には、気流がある。三味線の音です。音を鳴らすんだ。人間の声じやかなわな。だから、やたらにビヤッと作ったりね。秋田は唄うんだ。民謡王国。それが、岩手に行く、勉強家がいるんだよ。福島は駄目ですよ。野口英世しかいないからね。考えようがない。あそこは、脳味噌が悪い。だから、知性とか、脳味噌は、周りの色々な光を遮っている分析率ですよ。それで、ドロインと育つてしまふ。これが、岩手です。だから、医者になる。すぐ救済に走るんだ。秋田は、唄にちやう。酒にちやう。やり切れないからですよ。青森は港があるでしょう。

土方 宮城は、ありや、不良だよ。伊達正宗だろう。やつぱり、映画の封切りも、東京と同時だしね。だから、外来文化をいつでも吸収出来る地の利を占めているわけ。だけど、秋田では、江戸が出来てからの酒田港とか、米の間屋は、凄く栄えているけれども、仙台のように、巨視的な目で見てないからね。けれども、芸術愛好家ではあるんだ。だから、仁丹の広告ね。あれは、秋田県人です。秋田では、オートバイに最初に乗った人とか、飛行機に三番目に乗った人とか、記録を持ってる。それは、百姓のボンボンですよ。土地は後れているけど、金はある。何かハイカラなことをしたい。だから賢治のように、青い顔をしてみたね。
山口 そういえば、土方さんの舞台も青いですね。

土方 真つ青だよ。



photo・宮内勝

ると言ったら、そういうものでもないしね。蜷川 そりや、別にな。それで映画見ようとしたってよ。外国へ行つて映画見たって言葉わかんないわけだろ。チンパンカンパンじゃない。人ともしゃべれないだろ。じつとしてるだろ。そもそも日本でも一人でメシ食えないんだよ。恥ずかしくて。だから食わないんだ。そういう時は、がまんしてるんだよ。大阪なんか行くじゃない、舞台稽古あるでしょ。演出助手なんか先に勝手にメシ食っちゃうんだよ。で、おれだけ、なんか打ち合わせをしたりしてると、残されちゃう時があるわけ。で、「メシ食いに行こう」っていうと、「行きました」って。で、「どこへ行つた」っていうと、「あそこ前の横つちのレストランへ行く」とカウスターあるから、蜷川さんでも食べられますよ」っていうから、行ってみるんだけど、どうしても、そのドアが押せないんだよ。ね(笑)。おれは戻つて来てさ、「メシ食えなかつたから腹が減る」っていうのは、外国でも日本でも同じなんだよ。そうかといつて、つる

んで歩きたいってわけじゃないからさ、たまにたまに……。山口 タイミングが合わないで大変なわけですね。蜷川 メシ食わないわけだ。そうすると我慢して夜食わないで、寝ちゃうわけだ。大阪あたりだ。山口 まるで日本のアルマジロですね。蜷川 そう、外国へ行つても、一人じゃメシ食えねえし。じつとしてるんだよ。だからこのころはさ、「おい誘つてくれ、誘つてくれ」って言ってるわけね。山口 もう悲惨だよ(笑)。もう。蜷川 悲惨だよ(笑)。もう。いつもシティ・ホテルを利、ルームサービスが用いている宮内カメラマン。るじゃないですか。蜷川 そういえばそうだなあ。そうか、そういうのがあったなあ。

●最後の牙城は病原菌のアジアよ

山口 そういう面でもヨーロッパ、アメリカは駄目でしょう。でも、戦略というより、自分をゆるがすようなショックは何かないと、辛くないじゃないですか。蜷川 アジアが残ってるね、きつと。一番凄かったのは、ラウルビンジってとこさ、ヒマラヤの、パキスタン。あれはね、初めてギリシア悲劇を演出するときに、ギリシアへ行つたんだ。だまされてよ、「ギリシアには冬はありません」なんて、広告見てよ。行ったら寒くて、寒くて、「何がギリシアだ」かんなか言つてさ。で、「ギリシア悲劇の役に立つ」とこへ、中根 連れてって「なんて歩きたんびに言つて、中根はアクロポリスかなんかに行つて「蜷川さん、ここはギリシアなんだから」っていうんだけど、「これはギリシアじゃねえ。これはギリシアじゃねえ」っておれは言ってるわけだ。で、帰りに飛行機に乗つたら、変なところへ不時着しちゃったんだよ。ラウルビンジへ降りちゃったんだよ、飛行機が。「なんだ、なんだ、ここは」って(笑)。外へ出てみた。

山口 空港の。蜷川 空港だけなんだよ。でもな、手すりにパキスタン人がカラスみたいにこう腰かけて、飛行機が着くのを無感動にながめてんだ。夕方だったの。で、陽が沈むと、イスラム教徒みたいなのが、こうやって。あれはもう、すごい文化的ショックだったな。でね、「これだ、これがクロスだ」って。オイディプスはそれでやったの。山口 ラウンピンジはまだ程度がいい。ダツカなんてとこ行くと、行った時なんか、空港にワチャツと人がいるわけね、なんで集まっているのかっていうと、客が降りるでしょ、降るやつから金ふんどくろうと思ってる。あれはすごかった。蜷川 おれは語学できないからなあ。山口 いや、だれだってできないから。その時に入つてゆくかどうかは、性格ですね、それは。蜷川 勇気はないね。おれは、やっぱり(笑)。部屋にいな。山口 ただ、一人で市場ブラブラとかはしないんだ。蜷川 しないよ、体が拒否するんだ(笑)。山口 潔べきな日本人になっちゃうんだ。蜷川 保守的なんだよ。自分の周りの空気が変わらなくないわけだ。だからホテルなんだよ。山口 だけでもしかしたら、そういうのって破つてほしいって、ほら処女が犯されたいっていう願望と同じところがあるでしょ。破れるんなら、決定的な時に破られた方がいいの。蜷川 そう、だからそれは大事なことだね。もう一回転期が来るだろうと思うのね。にっちもさつちもいかない、おれの。そういう時には、このころのどろどろとある。時々思っているんだよ、一人で、黄色い服着てる坊さんが多いところ、ビルマか。ああいうところ行ってみようかなって思うの。だから、処女破りじゃないけど。このままだとみたくないから、もうちょっと騒がせてやろう

って。面白いことをね。それで大事にとってあるんだと思うんだよ、本能的にね。山口 そういふふうに見えるけどよくよくわかりますね。蜷川 もう、ショック受けるし。おれは、きつたないものだからなんだから、状況劇場じゃないから。お前平気だろ、おれはだめなんだ。ドロコン足を考えてだけでも、足の裏が気持ち悪くつちゃう。虫つかめないんだから、カブト虫。山口 そうなんですか。蜷川 家の木にカブト虫が上がつて、子供たちが「とつて、とつて」って言う、「手袋、手袋」大騒ぎして「一枚するんだよ。それでこう、ようやつつかまえて、「ワーツ」って。だから年の割には、今の人風にひ弱だね。川で泳がないんだから。気持ち悪くて。山口 ばい菌があるから? 蜷川 それから、足がぶくぶくつてのがね、なんかヒルが吸つくんじやないかとかな。沼とか。ああいうの大っ嫌い。山口 ばくとまかつた正反對ですね。蜷川 うん、海は海で足ひつぱられるんじゃないかって思うよ。岩場に寝ころがってりや、この辺虫がゴロゴロ通るなとか「あーつきたきた」とか。子供の頃、よくゴカイをとりさ、「ミミズみたいの、ああいうのを兄弟で行くわけだ。おれは絶対に入らないの。で、ちぎれないんだ、ミミズを。山口 なんか、育ちのいいお坊ちゃまつていう感じ(笑)。蜷川 お坊ちやまじやないけど、洋服屋のせがれだから。おれ、どうも釣りができないの。針でこう、ああいうのが駄目なの、それだけ病気になる。あとはもう……。山口 でも、半分逆にそういうことを潜在的にやりたいっていうのは、あるんでしょね。蜷川 あるんだろ。きつと。山口 衝撃を受けるってことは要するに受けたくないから……。蜷川 受けたくないから、日常こうガードしてるでしょ、そりや、やっぱりドカーッとく

るから、ワーツと受けちゃうでしょう。東南アジアへ行つてごらんよ。おれは人格変わつて帰ってくるよ、「山口、やつたか、あれ」とかね(笑)。ほんとに、ミミズかなんか食っちゃうんだよね。変わっちゃって、おれは(笑)。極端に。山口 きつと、蜷川さんも、変な、こうマゾ願望みたいなのあるね(笑)。蜷川 それはね。お前の中の尺度がSMだからだよ(笑)。山口 そういふところで大団円ですが、冬の芝居、もう発表しちゃいましたね。蜷川 何が大団円か分からないけどな。今年の最後は大芸能で、あれはもう、大エンターテイメントで、もう久しぶりの大活劇といつかね。あの、遊びながらやろうと思ってるのね。そうするとさ、おれの中では雑誌でいえば、バラエティのページもあるし、朝日ジャーナルのページもあるし、週刊女性もありますよ(笑)。ってそういう感じだね。一通りやると、全部おれなんだからね。誰も位置づけられないんだよ。で、本当にあの孫悟空のフツてやつたら、パパパツて飛んで沢山の孫悟空がいたみたいに、俺は勝手に遊んでるんだよ。冬の芝居でいえば、ジュリーとルリ子さんっていうのは二人そろってね、両方がパツとなるのね。両方でキラキラキラってね。それだけでさ、もうすごいんだよ。オイディプスの後は、おれは芸能色が強い方がいいと思つたから、中根と二人で「間あけんの、よそう、よそう」ってさ。すぐに、ジュリーとルリ子さんを発表しちゃおうって。山口 もう前からジュリーは決まってるんだ。蜷川 決まってる。もう四か月ぐらい前から決まってる。そうやって、「エッ」なんていわせるのが、うれしくて(笑)。ザマミロ。

十中根 このシリーズの陰の出演者である東宝のプロデューサー。いつか表に出ることがありそうだが、詳しく知りたければ、バックナンバーの全てを求めるべし。



■GEKISHA NINAGAWA STUDIO

NINAGAWA少年少女鼓笛隊による 血の婚礼

作——清水邦夫 演出——蜷川幸雄
7月15日→27日 東京 ペニサン・ピット

photo・太田晋博



Main Dish

京都にある前衛劇の拠点 『アートスペース無門館』 今年の上演は、能法劇団「海へ駆りゆく人々」

photo. 福島 要
協力. 三井写真事務所



●演出 カレン・シーバー ニューヨーク市出身。インディアナ大学図書館学専攻。作家、演出家、女優。これまでにベケットの「行ったりきたり」「足音」を演出している。



●息子 ジョン・デービス ニューヨーク市出身。ハーバード大学心理学及び社会相互関係専攻。『RED MOLE THEATRE』の創始者。最近「オイディプス王」を演出し自ら踊った。

●娘 リンダ・ハメット ニューヨーク市出身。ハーバード大学心理学及び社会相互関係専攻。ニューヨーク市「ハメットダンス」の創始者兼演出家。

●娘 ディードラ・ラマーズ ニューヨーク市出身。コロンビア大学で演劇の博士課程在学中。観世流能・歌舞伎をジェームズ・プラントンと尾上菊信に学ぶ。ベケット作「夜と夢」を演出。

●女(母) カレン・デ・モーロ ニューヨーク市出身。ボストン大学芸術学部卒業。合気道、太極拳を学ぶ。ニューヨーク市「アクティングセンター」の演出家。オフブロードウェイのショーもいくつか手がけている。

京都にある前衛劇の拠点「アートスペース無門館」。ここに毎年夏になると多勢の外人がやってくる。T. T. T (TRADITIONAL THEATRE TRAINING) のメンバーたちである。

T. T. T は日本の伝統芸術である能、狂言、日本舞踊を学ぼうと開かれたもので今年で4年目。6週間に及ぶ集中講座に参加しているのはアメリカ・カナダの演出家、俳優、学者など約30人。ブロードウェイで活躍している人もいる。

このT. T. T のメンバーでつくられたのが「能法劇団」。ニューヨークでは組めないメ

ンバーだと言う事で結成された。もちろん学んだ能の成果を披露しようという意図もある。今年の上演はアイルランドのシングという人が1902年に書いた「海へ駆りゆく人々」。原題は「RIDERS TO THE SEA」もちろん英語で演じられる。ストーリーは夫の父、夫、三人の息子の計5人を海で死なせた女が、今また一人だけ残っている息子の死に立会ってしまうという悲惨な話で、克服し難い状況が設定されている。舞台になるアイルランドのアラン島にはキリスト教の国としては信じ難いけれど、日本のお盆のような、死者と交わる習慣が残されて

いるという。海は決して豊饒な海ではなく、抗い難くすい込まれてしまう死の世界の象徴のようでもある。カレン・デ・モーロ扮する女だけが死へと駆りゆくものの真実を知っているようだ。

今世紀の初めに能を研究した劇作家イーツとシングは友人でもあったらしい。

ともあれ、日本(東洋)と西洋の接点にある芝居が8月末にアートスペース無門館で上演される。演出カレン・シーバー。

報告 梅本承平

Main Dish

生きているとろくなことがない…。 と、言っても面白いこと3つ。—上杉清文 これでもかの田口智朗おどろおどろ、え。

盃蘭盆の迎え火を合図に、先を争って家路を急がれる先祖の霊のみなさん、お元気ですか 暑中御見舞申し上げます。

夏が来てから面白いものを3つばかり見物させてもらった。まったく生きているとろくなことがないが、生きていてよかったような気がする原爆記念日にはある。

まず、1つめは「発見の会」の公演『河内音頭・堀川波鼓』である。近松の原作よりも、佐々木守さんの脚色のほうが面白かったし、アナーキーなドタバタの得意な「発見の会」が妙に上品で芸術的な舞台をみせてくれたのもオドロキだった。

2つめは、「白虎社」の『ひばりと寝ジャカ』である。これは有楽町のマリオンで上演したもののダイジェスト版で、蛭田早苗さんによれば、白虎社のプロモーション・ビデオのようなものだ、ということである。蛭田さんとの雑談の折に、わたしが台本のようなものを書く、という話が出たが、あれは冗談だったのか 月の終りに

京都へ出向き、たしかめてみようと思っている。

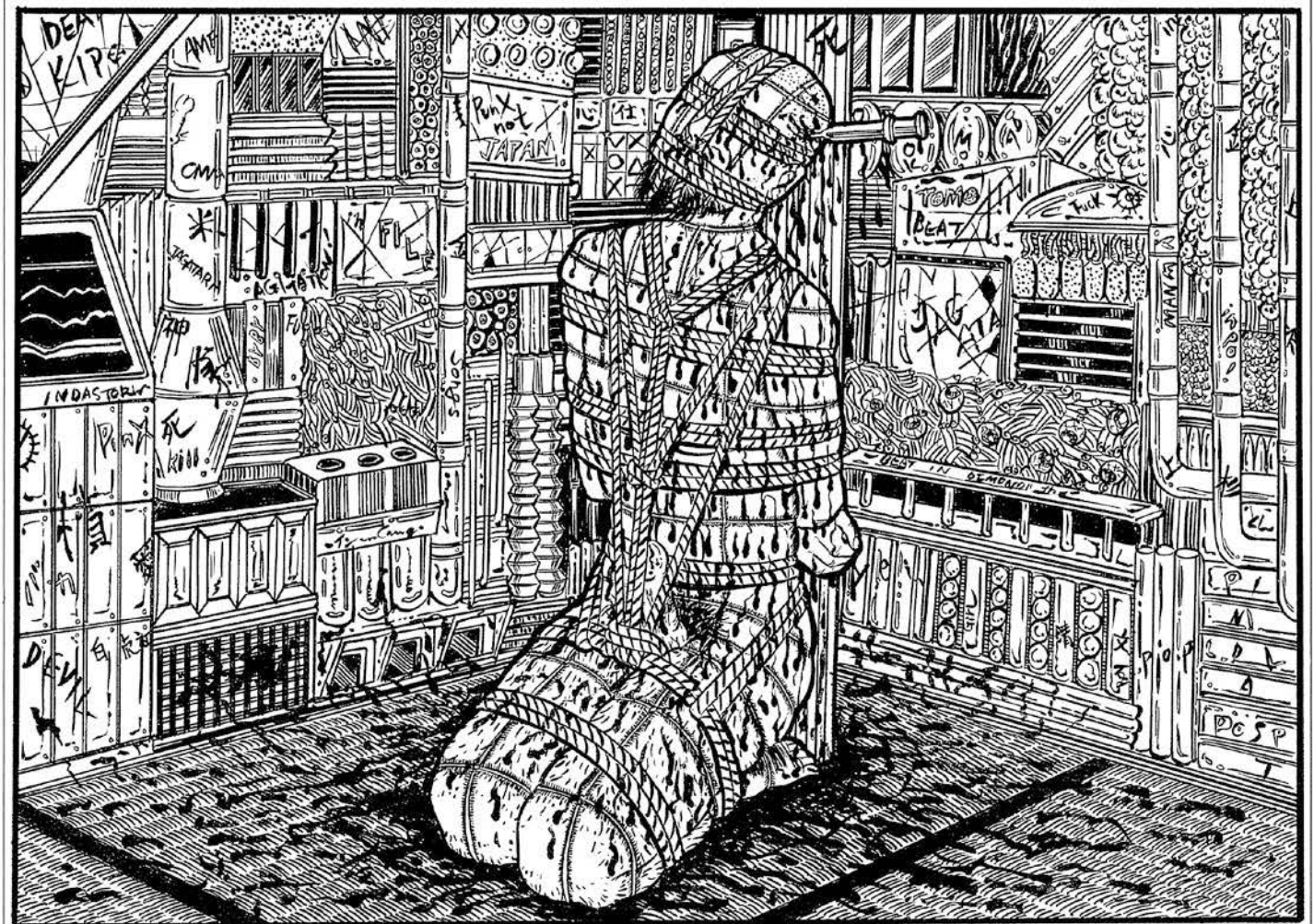
3つめは、『写真時代ジュニア』という雑誌で連載がはじまった「とけこむタキモト」である。これは、4コマ写真漫画などで人気のカメラマン・滝本淳助くんが、文字どおり森羅万象の中に溶けこんでしまうという、オソロシイような企画である。パフォーマンスもついにここまで来たか、と思わせる前衛的でバカらしいような、スゴイ誌上芸術である。そういえば、滝本くんとはサンカの社会について話をしたことがあったが、あれがナンラカのインスピレーションを与えたのだとしたなら、わたしも幸甚がうれしかったりするのである。わたしはそのとき、サンカのみなさんがたは一般社会にとけこむ、といういいかたをするらしい、といったのである。滝本くんがさらに過激に、奇妙な世界の中に溶けこんでしまうことを、わたしは本心から熱望する。常日頃から虹をつかむ男を演じている天性のオトボケ役者の滝本くんなら、たぶん朝飯前のシワザであろう。

さて、発見の会・白虎社・タキモト、ときたらつぎは宣伝である。このところ鳴りを静めていた「高級藝術協会」が沈黙を破り、

温泉混浴バンドというものを結成し、8月31日(日)に「つかしんホール」でライブを行なうことになった。詳細は、『ぶがじゃ』8月号を御覧いただきたい。坂田明オーケストラ、優歌団と同じ舞台上立つのである。オソレを知らないというか、ハジ知らずというか、イイカゲンなものである。メンバーは総勢15名、ほとんどがシロート同然のミュージシャンであるが、わざとクロート同然のプロも4名混ぜてあるの、いざというときには安心である。ちなみにわたしは、サックス(bs, ts, ss)のほかに、横笛やひちりきも吹くつもりだ。しかし、なんといっても一番ウマイのはやはりホラを吹くことであらうな んちゃって。

合掌

上杉清文



すでに定着化(!?)した感のある 『自殺パフォーマンス』 その象徴性を妄想すると…。山崎 哲



え・さいり まるこ

7月21日未明、名古屋の男子高校生2人がビルから飛び降り自殺した。そのビルの屋上に、チョークのようなもので「有希子さんの所へ行く。〇〇さん、大好き！元気だね。また会おうね」といった走り書きが遺されているところから、さる4月8日に飛び降り自殺したアイドル歌手、岡田有希子の後を追ったものではないかと推察されている。

彼女の死からすでに3ヶ月が過ぎているにもかかわらず、こうした後追い自殺が絶えないのは、彼女の死が子供たちのなかで強烈に象徴性を獲得していることや、死が彼らのなかで浮遊している常態を想像させる。それは文字通り「浮遊」するものであるから、いつでもどこでも、そして、どんなささいな動機でもすぐに手をとりあって、自殺に至る。大人のがわはいつも「なぜ自殺を……」などと、ただ呆然とするばかりで、わたしたちのこの市民社会がうって死を囲い、死を外側に追放した背景に思っていることもない。

死が追放されるとどうなるか。わたしたちの身体は限りなく「離人症」に親和していくよりほかはない。生きていくということは、この世界にあって絶えずわたしたちが動きや変化を感じているということであり、それは、ひとが有限の死ぬべき存在であるということの反映である。そこから、ひとは「こと」的な存在であることを広松渉が示したわけだが、死つまり時間が失われるということは、そのままわたしたちが自己を失い、存在感を失ってしまうことを意味する。

そういう離人症親和的な身体にひどく過敏な、ひとりの少年がいたことを思い出す。「ひとり／ただくずれざるのを／まつだけ」という詩を遺し、小平市の団地からやはり飛び降り自殺した岡真史くんである。75年7月17日のことだった。おそらく彼は、ひどく不確かな自分、自分が「ある」ということの崩壊感覚に身をゆだねることを、それこそ自分が身を賭けて拒絶しようとしたのだとおもう。死ぬということ、自分の存在を生きいきとしたものとして取りもどそうと試みたのだ、といってもよい。はなはだ倒錯した論理のようにおもえる。が、そう思えることすれば、それはわたしたちが無意識に生のがわに加担し、生を死よりも優位なもの、価値あるものとして意義づけていることを反映しているにすぎない。そうした考えは自殺者をつねに「弱者」とみる、それじしん強者の論理をうんでいるわけだが、岡田有希子シンドロームともいわれる彼らの自殺は、死をむしろ意味あるものとして積極的にたぐりよせようとしているのだ、と考える。「有希子さんの所へ行く。〇〇さん大好き！元気だね。また会おうね」という走り書きにもあらわれているように、自殺に赴く彼らがなにやら妙にほがらかで、喜々とした表情をみせていることがそのことをなにより明らかにしている。

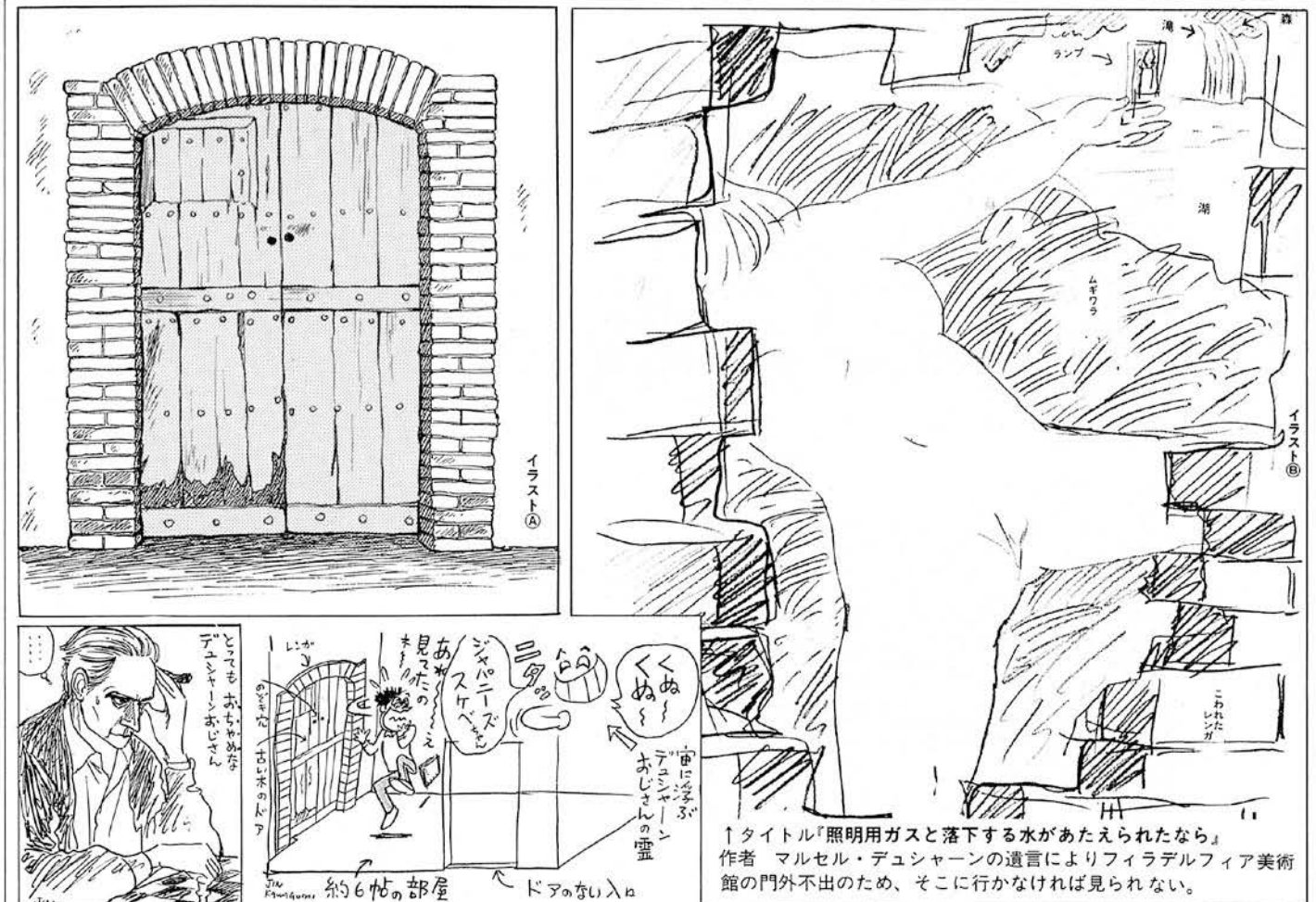
精神病理学づいたついでにいうと、てんかん患者のなかにはアウラ体験をするひとがいるそうだ。意識を失う直前に、一瞬のあいだ意識の強烈な変容を経験するわけである。その意識のかなたで触れた光景は、たとえばドストエフスキーが『白痴』のな

かでムイシュキン公爵に語らせた、つぎのような光景に酷似しているのだという。「その金色の屋根の頂きが明らかな日光に輝いていたそうです。彼はおそろしいほど執拗にこの屋根と、屋根に反射して輝く日光をながめていて、その光線から目を離すことができなかったと申します。この光線こそ自分の新しい自然である。いま幾分かたったら、なんらかの方法でこの光線と融合してしまうのだ、という気持ちがしたそうです」

木村敏によれば、こうした光景は、死の直前の生から死への参入の体験というより、死の世界へ一歩足を踏み入れた人間が「死の側から生を見ている」体験だという。子供たちが岡田有希子の死にみた内部光景はこれに似たものではないか、とひそかにわたしは想像している。発作中の時間は日常内部での時間とまったく異質であり、発作を目撃する人間の時間感覚をもそこへ引きずりこんでしまうそうだが、彼らは岡田有希子の死という「てんかん」発作に立ちあうなかで、金色の光線を浴びたのではない。それこそ自分の「新しい自然」に触れるような変容感を味わったのではない。彼らの遺書がまた時に「再生」の期待や喜びにあふれているのも、その内部体験に裏づけられているからではないか。岡田有希子が獲得した象徴性とはそうしたものでないか、などと、わたしはしきりに妄想している始末である。

文・山崎 哲

フィラデルフィア美術館内にある 『元祖のぞき部屋』で河口 仁は ひとり芝居してしまったのであった。



↑タイトル『照明用ガスと落下する水があたえられたなら』
作者 マルセル・デュシャーンの遺言によりフィラデルフィア美術館の門外不出のため、そこに行かなければ見られない。

『元祖のぞき部屋』をのぞかねばならぬ！のぞかなければ男じゃない！と、固い決意を胸にフィラデルフィア美術館に飛び込んだ河口仁であった。[ニューヨークから南へ車で約3時間]

日本で流行しだしたのは1980年頃だと思うが、1968年に元祖は存在していたのだ。美術館だからトーゼン世界中の名画が沢山展示してある。私の好きなピカソのマチスだのゴーガンだのピカソの絵を鑑賞しながら奥へ奥へと進む。そして一番奥の6帖くらいの部屋が、なにをかくそう『元祖のぞき部屋』なのだヨキミ！その部屋にはドアがなく、中へ入ると奥の壁が古い木のドアになっている。何も知らない人は「行きどまりか」と、その部屋を出て行ってしまうのである。ところが、その木のドアに、二つ穴があいていてちょうど両目でのぞけるようになっている。[イラストA]一度にお一人様まで。

さて、まわりに他の客はいない。ガードマンもアッチへ行ってる。その部屋に入ると、同時に木のドアに向かって目を血走らせて走って行きたいのをわざとゆっくり歩いて行く私であった。

穴をのぞくと、麦ワラの上に女の裸体が大大マ開いて横たわっている。

オワ~~~~ッ!! すてき~~~~!! マブシ~~~~!! である。

生ツバごっくんである。神様に感謝！である。その女の人には絵ではなく石膏でつくってあり、裸体の向うは森と湖。滝が流れている。しばらくのぞいてみると、他の展示部屋の方で2、3人の話声がする。あわてて小走りにその部屋を出ようとする私。つまり、のぞきをやっている自分が恥ずかしくて、あわててシランプリをしようとしたのだ。だが、その部屋の出口近くで足を止めて耳をすました。話声はまだ遠くて、スグにはここへ来ない！という判断を下すと、も一度小走りに木のドアへ向かい穴をのぞいた。のぞきながら遠くで聞こえる話声を気にしている。ドキドキ、オロオロ、マジマジである。話声の主達が隣の部屋までやって来て、展示してあるものを鑑賞し始めたとき、なにげない顔をしてもその部屋の美術品を鑑賞していたのであった。[すばやいなー]これは正真正銘ののぞき犯の動きだな、と我ながら感心するやら恥ずかしいやら、であった。声の主は学生風のグループで、しばらく展示物を観ながら、あーだこーだと話していた。私はというと、展示物の流れにそって次の部屋へ歩いて行き、さっき観たピカソの絵をもう一度、親指をアゴにあてたりしながらジックリ観ていた。しかし頭の中は、のぞき穴の中の裸体でいっぱいであった。

20世紀最大の画家といわれるピカソの偉大な芸術を鑑賞する心よりも、スケベ心のほうが勝っちゃったのである。そのとき私

はワイに大発見をしちゃったのである。つまり、20世紀最大の芸術家に勝っちゃったということは、こののぞき部屋をつくった

マルセル・デュシャーン

こそ20世紀最大の芸術家といえるのではないだろうか？ということである。う~~~~む、我ながらいいところに気がついたもんだ。などと考えているうちに先ほどの学生風グループは私のそばを通り過ぎて他の部屋へ流れていった。だれもいなくなったアノ部屋へ体が自然にUターンし、もう一度のぞくと同時に持っていたスケッチブックに、ほんの数秒間で熱い思い(?)を素早くスケッチしたのであった。[イラストB]

デュシャーンの言葉に、『人が見る[見る]のを見ることが出来る。』というのがある。デュシャーンは1968年に死去している。ということは、この部屋に来てのぞく人々の反応をデュシャーンの霊が部屋のナナム上あたりでニヤニヤしながら見て楽しんでいるのに違いないゾ。私はのぞき穴から目をはずすと、部屋のナナム上の空間に向って苦笑した。そして、「デュシャーンおじさんの

いちわる！

」とつぶやいた。

え・ぶん 河口 仁

ギリヤーク尼ヶ崎

舞踏公演

8月8、9、10日
photo 中平光二



ギリヤークさんは昭和5年生まれ、芸能の原点に帰って、そこから自分の芸や人間的な生き方をみつめようと昭和43年から街頭で踊り始めた。以来、大道芸だけで生計を立てている。大道芸による年間の収入は大卒初任給の2ヶ月分ぐらいとか。想像を絶する。大阪で演ると投げ銭やカンパが東京よりずっといいという。これも不思議の一つだ。

■ギリヤーク尼ヶ崎（絵屋）

昭和5年…北海道函館に生れる

28年…邦正美術研究所に学ぶ。

43年…初めて街頭公演を行う。

53年…渡米。

リサイタル、ワークショップ

および街頭公演を行う。

55年…自叙伝『鬼の踊り』大道芸人の記録』を出版する。

以後、日本各地、ヨーロッパで街頭公演を行う。

■デフ・パベット・シアター ひとみ

ロミオとジュリエット

原作—シェイクスピア 演出—森元勝人



〈台本〉

恋ひ恋ひて邂逅に逢て
寝たる夜の夢は如何見る
さしきしとたくとこそみれ。
(梁塵秘抄より)

■プロジェクト・ナビ公演

想稿・銀河鉄道の夜

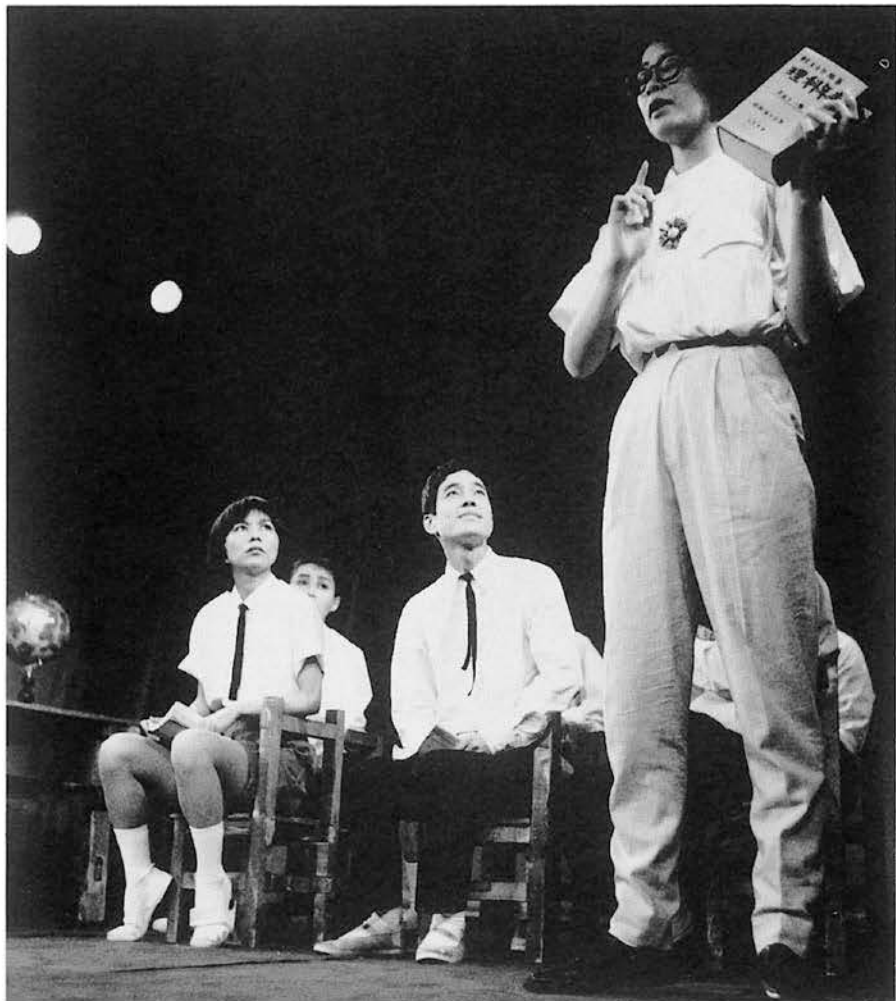
——世界でいちばん最後に幸せになる人のために——

作・演出—北村想

7月1日—6日
下北沢ザ・スズナリ

プロジェクト・ナビ公演予定
想稿・銀河鉄道の夜
11月19日—24日
札幌・本多劇場

少年の名はジョバンニとカムパネルラ。
二人は、何か巨大なものを見上げながら微笑んでいる。
よくみるとカムパネルラは飛行服を着ている。
二人が見上げているものは宇宙船なのかもしれない。
やがて金色の光はますます眩しく、ついに私たちは二人の少年を見失ってしまう。とともに、私たちは純い爆発音を耳にする。
そうすると、辺りは真っ暗になり、やがてその静寂（しじま）の中に子供たちの騒がしい声がしてくる。
次第に明るさをとりもどす世界に、私たちはおそろくずっと昔の、懐かしい小学校を見るだろう。
あの木造の、あの風に鳴る窓ガラスの教室を。
(上演台本より)



Photo・塩坂芳樹

(rændəm ækses)



Photo・黒田康夫

河をわたる

劇団E公演
作・演出——菅間 勇
7月16日・22日
T2スタジオ

男3 アッチは、どうです？
男1 (自分たちの集団へ)
アッチは、どうだった？
男8 アッチは、アッチです。
☆既存の集団『もうですか？』
男4 でも、やっぱし、アッチは、面白いですか？
男1 (自分たちの集団へ)
やっぱしアッチは、面白い？
男8 あの、コッチは、面白いですか？
☆既存の集団『もうですか？』
☆新しい集団 男1達の集団へ、それぞれ何か渡す。
既存の集団 ボカン？
※稽古場にて、女6・9の楽しい台詞を作りましょう。
男7 これからでしょうか？使って下さい。
男1 あの、ちよと。
☆既存の集団 協議し、新しい集団へそれぞれ何かお返しする。
男7 じゃ

12月初旬
下北沢ザ・スズナリ
新作上演の予定です
☎895-6273劇団事務所

エックス・アン・プロバンスのインターナショナルダンスフェスティバルは、1977年に、アメリカ人のモダンバレエ家スーザン・バージによって始められ毎年、夏に行われているものでフェスティバルの主旨は、ダンスの空間・場を、日常のあるいは、自然のその中に拡大しようというもので、公共の建物、街頭、広場を使っているパフォーマンスも企画されている。唯一の劇場は、大学の

中庭に特設された野外劇場。勅使川原三郎の「青ざめた少年」は、ミストラル吹きつける、星空のその舞台で行われた。この作品は、「水」「ガラス」「風」の3つのパートから成っているが、このようなプリミティブなテーマは、自然が多く干渉するこの舞台とうまく調和して、絵巻物の世界のような、時間の無い異次元的な宇宙を想わせる美しい舞台を現出させ、両氏の観客を魅了した。(さとうまいみ)



Photo 上野尚美

勅使川原三郎公演予定
11月ポルドー
シグマコンテンポラリー
アートフェスティバル

青ざめた少年

ダンス・ア・エックス勅使川原三郎公演

(rændəm ækses)

はみだし劇場公演 かなかぬち

作・監修——中上健次
演出——外波山文明
7月18日19日20日21日22日
8月1日2日3日4日5日6日7日
大阪・宝生堂ホール



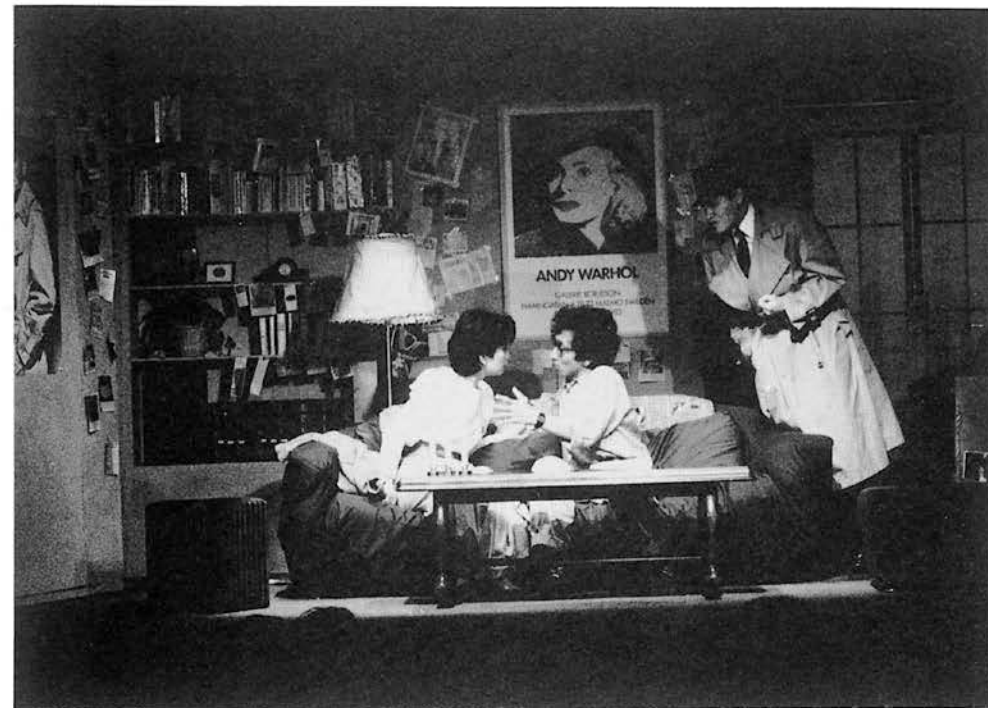
夏の夕暮れはいい。まして海からの風だ。が、そこは山中である。西が暗い。遠雷。
紀州熊野の猿蓑法師集団の如く廻った、外波山文明とその一党は、横浜本牧の造成地を熊野山中へと通底させるべく疾走した。
熊野。そこは死者達の魂のさまよう場だ。逆立ちする歴史。海の涯の普陀落。
遠い海辺の記憶を語る女が居る。万葉の昔、漂泊の芸能集団。乞食。も海辺の住人であった。彼等は荒々しいエネルギーを持ち、定着民・農耕民の前に登場する。差別と恐怖は鬼や獅子を生み出したのではなかったか。
火。秘められた世界へと記憶は向う。終演近く、雲は切れ星が光る。
『はみだし劇場』には野外が良く似合う。(小松麟太郎)

9月2日
ETV8(NHK)で放映
『隠国の野外劇—かなかぬち奥熊野公演—』
こもり

第7回パーキーン・シアター劇団とばこまち公演 ボギー！俺も男だ

作——ウディ・アレン
演出——丸山啓吾
7月20日・27日
大阪・宝生堂ホール

資生堂パーキーンシアターは、関西の演劇の育成・活性化を目的に、昭和59年9月に始まり、年間3回から4回公演を行い、第7回を数えている。
女性のための演劇をコンセプトに、基本的にはオリジナル脚本。今回は、勅使川原三郎とも言われる京都大学の劇団『とばこまち』。作品は映画でもおなじみの『ボギー！俺も男だ』。
これは単なる映画のコピーにとどまらず、とばこまち流に脚本を改訂、知的でシャープなセリフまわし、軽いコメディタッチで60年代後半のニューヨークの生活ぶりをイキ／＼と演じてくれた。
新船洋子
(イベント・プロデューサー)

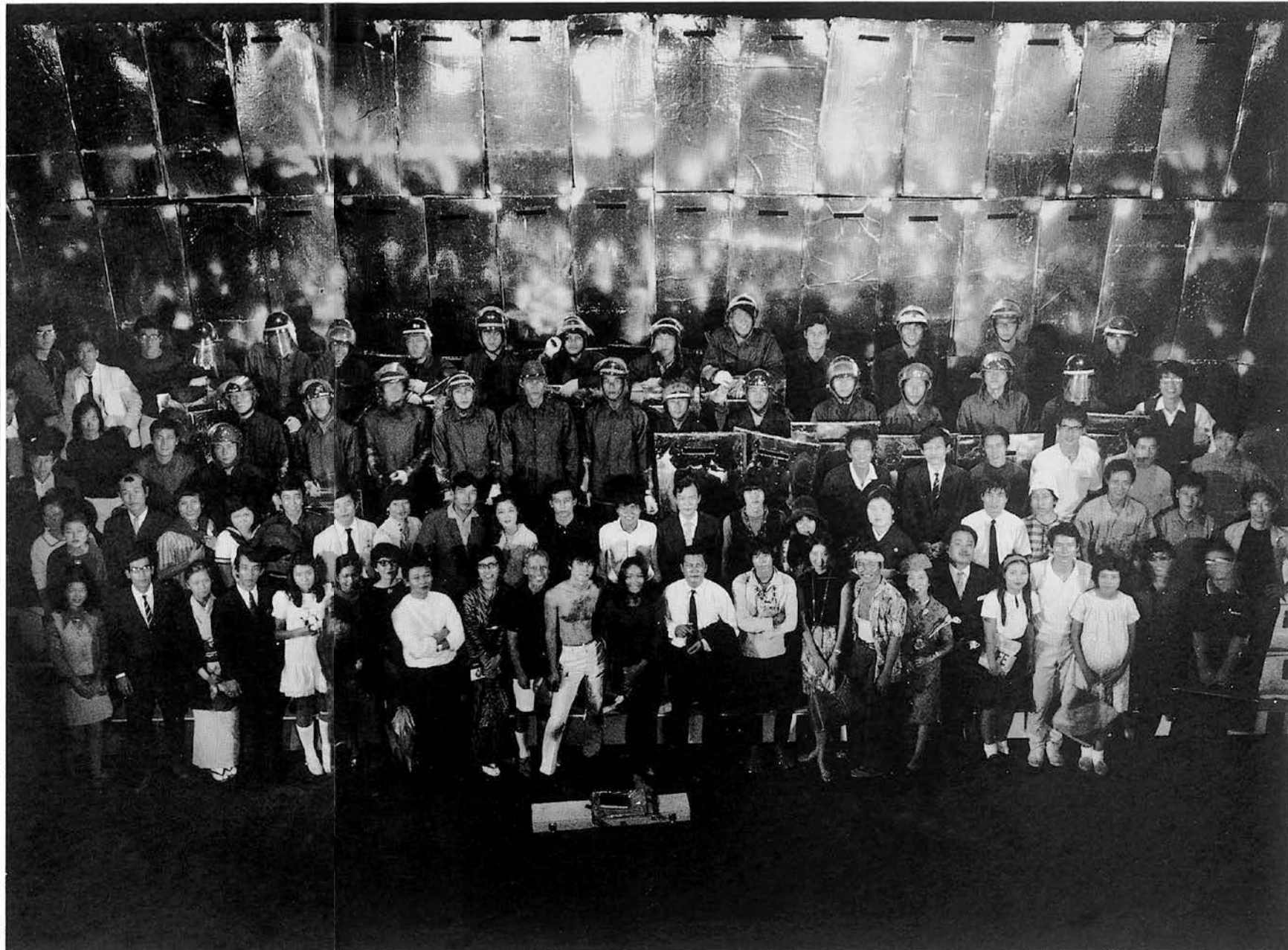


次回のパーキーン・シアター
劇団『新感線』
12月中旬
☎06-314-2054
パーキーンシアター事務局

境界を超えたラディカリズム

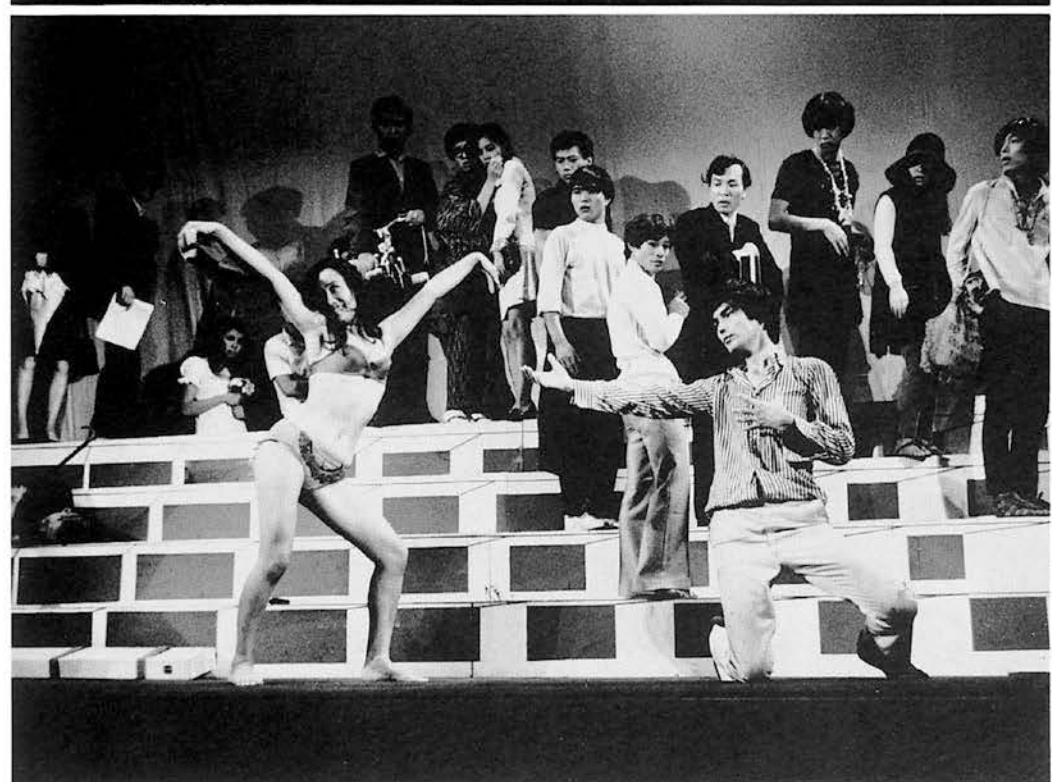
扇田昭彦

連載



A 舞台上に勢ぞろいした現代人劇場公演「真情あふるる軽薄さ」のスタッフ、キャストたち。過激派の爆弾事件に連座した俳優梶原譲二も出演していた＝アートシアター新宿文化で。(スタッフ・テス撮影)
B 「真情あふるる軽薄さ」で岡田英次(前中央)が演じた不気味な中年男は体制的なものを体現していた。蜷川幸雄演出特有の「階段」が早くも、小規模に姿を見せているのも注目される＝アートシアター新宿文化で。(スタッフ・テス撮影)
C 蜷川幸雄演出の現代人劇場公演「真情あふるる軽薄さ」で、行列する小市民たちを挑発する男女を演じる真山知子(前左)と蟹江敬三(前右)＝1969年9月、アートシアター新宿文化で。(スタッフ・テス撮影)

現代人劇場



一九六九年(昭和四十四年)には、状況劇場早稲田小劇場、天井桟敷、あるいは東京キッドブラザースといった集団ばかりが「衝撃」だったわけではない。政治的なラディカリズムという点で、境界線を超えていたいくつかの集団や舞台についても語らなければならない。

ことに鮮烈な印象を刻んだのは、劇団現代人劇場がこの年の九月にアートシアター新宿文化で上演した清水邦夫作、蜷川幸雄演出「真情あふるる軽薄さ」だった。

清水邦夫のこの戯曲は、その前年の六八年に執筆され、当時蜷川幸雄らが在籍していた劇団青俳で上演されるはずだった。ところが、イデオロギーの問題もからんで、この戯曲は青俳では受け入れられず、上演は宙に浮いてしまった。これを不満とした蜷川幸雄、真山知子、石橋蓮司、蟹江敬三、岡田英治ら十九人が青俳を脱退して六八年七月に結成したのが劇団現代人劇場である。つまり「真情あふるる軽薄さ」は、初演される前にすでに大量脱退と新しい劇団の誕生をもたらしたいくつきの作品だったのだ。

映画上映後の夜九時半から始まる「真情あふるる軽薄さ」を見るために、私たち観客はアートシアター新宿文化をとり巻いて長い行列をつくったが、場内に入りますと驚いたのは、客席内の通路から舞台にかけて、市民に

扮した俳優たちの長い行列ができていたことだった。つまり、おとなしく順番を待っていたさっきまでの私たちとそっくりの、相似形の行列が、劇場内の虚構として、いわば入れ子型に再現されていたのである。

ドラマは、この行列という名の強固な秩序体制と、それを解体せようと挑発する「真情あふるる軽薄さ」な若い男女(蟹江、真山)とのからみあいとして展開したが、現実と虚構を相似形にして重ねあわせた冒頭の趣向は、やがてラストシーンでも衝撃的な形で反復された。

つまり、「行列を乱すな! 乱す奴は容赦なくたたき殺せ!」という不気味な中年男(岡田英次)の叫びとともに、劇場内の扉はすべて、警棒と盾、乱闘服に身をかためた多くの機動隊員がいの「整理員」たちによって封鎖されてしまったのだ。劇はもう明らかに終わっている。しかし、立ち上がる「整理員」たちを押しつけて外に出ようとする時、芝居と知りつつ私たちが一瞬覚える恐怖は、私たち自身が「行列」の一員にはかならないことをしたかと思ひ知らせずにはいなかった。さらに劇場から外に出れば、一九六九年の東京の街のあちこちで警備を固める機動隊員たちの姿を私たちは見たはずである。ここでも虚構と現実はいれ子をなしてひたりと重ね合わされていた。芝居は芝居のままで完結せず、私たちは否応なしに、この舞台の問いかけを手にして、現実のうちに引きもどされた。

『真情あふるる軽薄さ』の鮮やかな舞台づく

G

演劇センター68/69



G 68/69連続公演の第三弾、斎藤信作「トラストD.E」は活力あふれる舞台だった。中央に立っているのは樋浦勉と新井純＝1969年12月、アンダーグラウンド自由劇場で。
H 68/69連続公演の一作として上演された佐藤信作・演出「鼠小僧次郎吉」シリーズの二の巻「浮世混浴(うきよぶろ)鼠小僧次郎吉」＝1970年1月、西麻布のアンダーグラウンド自由劇場で。
I 「演劇センター68/69」(のちの68/71)の計画発表の記者会見。佐藤信(立っている)、津野海太郎、斎藤信、D・グッドマン、観世栄夫、林光、佐伯隆幸らの姿が見える＝1969年9月、東京・六本木の自由劇場で。[扇田昭彦撮影]
J 設営される68/69の黒色テント。初日は不慣れなため、テントを建てるのに二時間もかかった。



D 68/70の黒色テント第一作、ミュージカル「翼を燃やす天使たちの舞踏」のダイナミックな舞台＝1969年10月5日、宇都宮市での初日。[扇田昭彦撮影]
E 黒色テントでの「翼を燃やす天使たちの舞踏」で歌う朝日奈尚行(手前)
F 68/69の連続公演第一作、山元清多作「パーティー・パーティー」の舞台(左は草野大悟、右端は金子研三)＝1969年10月、西麻布のアンダーグラウンド自由劇場で。

F

「拠点劇場」は、西麻布の自由劇場を舞台に、同年十月から翌七〇年六月まで、山元清多作、佐伯隆幸演出「パーティー・パーティー」、佐藤信作・演出「鼠小僧次郎吉」、斎藤信作、観世栄夫演出「トラストD.E」の新作三本を、長期間にわたって交互上演する形で実現した。続いて、七〇年十月からスタートしたのが黒色テントでの上演活動である。

冷たい秋雨の降る十月五日、宇都宮市旭町の空地で初日をあげた黒色テント第一作、「翼を燃やす天使たちの舞踏」(佐藤信・山元清多・斎藤信・加藤直の共作、佐藤信演出)には、私も東京から駆けつけた。

ベーター・ヴァイスの「マラー/サド」を下敷きに、吉田日出子、草野大悟、清水紘治、串田和美、斎藤晴彦、新井純ら二十三人が出演したこの祝祭的な「革命劇」は、この集団の初期を代表するじつに力動感にあふれる舞台だった。

劇団員たちと同じように、テント内の寝袋で寝泊まりし、トラックに同乗しながら、私は宇都宮から鹿沼市、足利市へと旅した。同行しながら私がおもしろいと思ったのは、同じテントの旅でも、その前年に私が体験した状況劇場の旅公演との大きな違いだった。

ひと言でいえば、一日二食、きわめて質素で軍隊的な状況劇場に比べ、68/69のそれは民主主義的で都会的だった。同じ自炊スタイルでも、ドンブリ飯一杯に魚の煮込みといった当時の状況劇場の食事に対して、68/69の初日の翌朝の食事は、フランスパンに鳥のモモ肉、牛乳、そしてリンゴだった。

彼らが六月に発表した行動計画「コミュニケーション計画・第一巻」は、その気宇壮大な総合性、多面性で私たちを驚かせた。この計画は、「演劇が全体的・革命的な計画としてもちうるはずの掘りに、まず具体的な計画(プロジェクト)という形をあたえる」ことをめざし、拠点劇場、移動劇場、壁面劇場、教育・出版という「四本の柱」を掲げた。合言葉は「演劇をつくり、演劇をこわせろ」。つまり、「演劇としての(新劇)と機構としての(新劇)」とを破壊し、そこに、「(新劇)ではない(新劇)現代演劇を具体的に出現させよう」(当時のチラシから)としたのである。

当時の彼らの記者会見(同年九月)の写真に、中心メンバーたちの若き日の姿を見ることが出来る。佐藤信、津野海太郎、斎藤信、佐伯隆幸、観世栄夫、林光、デイヴィッド・グッドマン……。

りて、蜷川幸雄と現代人劇場は、演劇の第一線に躍り出た。以後、「想い出の日本一(萬年)(70年)」、「鴉よ、おれたちは弾丸をこめる」(71年)、「ぼくらが非情の大河を下る時」(72年)……と、彼らはラディカルな若者たちの闘いと敗走の姿を、党派的イデオロギーにはよらず、むしろ情念的伴走者として描き続けることになる。現代人劇場の情念型疾走に比べて、演劇における「運動」の意識を強調し、その運動を大がかりな「計画」のもとに展開しようとしたのは、劇団自由劇場、六月劇場のメンバーを中心に、一九六九年六月に発足した「演劇センター68/69」(のちの黒色テント68/71)だった。

670-3825 風の旅団まで。

from READERS

■前回、アンケートはがきをつけたいか、たくさんのおたよりいただきました。ほんの一部しか紹介できないのが残念です。今回も大募集しています。最近見た芝居の感想なども、ドシドシください。それに今回はプレゼントもあるから……。しほいけと！



（練馬区 大笠雅子 23）
■こんどはもっと面白いおちゃめなイラストを描くこと／＼（笑）（※）

□2号が出ましたね。私はとってもうれしです。だって創刊号には次号の発売日があつたんですもの……。なもので私、「これって創刊号だけで終わっちゃうんじゃないのーか……」などという心配をしつつ、毎日本屋をのぞいてたわけなんです。ともあれ、創刊号よりさらにパワーアップした2号が登場し、私は本当にホッとしています。（杉並区 高月 環 15）

□創刊号のちらしを見ただけでうれしくてたまりませんでした。芝居の写真なんてめったに手に入らないし、今までつまらないのがまさんして（写真がのっている）買っていた高い値段の「新劇」や「テアトロ」も買わずにすむし、でも、少し不満を言わせてもらえば、ミラーな私としては、こひいきの第三舞台とか第三エロチカの舞台写真をもっとのせてほしいし、その写真も、「ここが見せ場だ」というようなシーンにしてほしいものです。ほとんどの芝

居はみえています、もっと良いシーンがたくさんあると思うのです。（横浜 市 すぎやまめぐみ 27）

□演劇の雑誌ってなかなかメジャーっぽいのではないですか。この演劇ぶっくは演劇ファン期待どおりで感じ、写真がたかさんのつるし、今、1劇団2ページぐらいでしよ、もっとあってもいい感じ、なんかの足りない感じがするんです。これからのいろいろな劇団のステージ・フォトを含め、素顔の部分など、紹介していただきたいと思います。（新宿区 酒井三菜子 23）

□私は演劇をほとんどしらない。2月に第三舞台の「デジャ・ヴー86」になんにも知らずにいって頭がぶつとんだ。のめりこんだら危いと思ったけど、結局「スワンソング」が聴こえる場所」に行ってしまった。そのうえ、6月30日なんてお金がまったくない時に「演劇ぶっく」を有り金全部はたいて買ってしまった。おかげで一文なし。全然知らない劇団の写真を見ながら、危い危いと思いつつ、うーん、ふみこんでしまった自分を感じている。まったく感想になっていない。意見なんてとくにない。「アイは何乗してもアイである。」数学の教科書は時には人生を説く。がんばってね。（新宿区 海老原麻美 17）

□演劇なんて全々無縁だった私は、バルコスベース3での根津さんの演劇をいっしょに見てしまっから変わってしまった。演劇ってスゴイですね。それにしても根津基八さんには、まいったい。やっぱ、スゴイですね。（草加市 高橋美子 15）

□定価500円について、隔月刊で500円と言うと、2ヶ月で500円の出費で、たいそう得をした様な気がします。が、500円でこれだけのページ

数だと思つたら、少タムツとしたりする。それでも、ミスタードーナツでチョコファッションとチョコレートとフレンチクルーラーとオールドファッションと牛乳を500円で買って、夜中に口いっぱいほおばって、しばしの喜びと永遠のゼニクを一度に手にする悪夢を思えば、この本の500円はとっても良いと思う。（大阪市 伊藤三和子 24）

□表紙を何とかしてほしい。特にタイトル「演劇」の字が気味悪くて夜、表紙を見れない。（相模原市 星貴久 22）

□私はこの本を見ると興奮します。動揺します。残酷なものが欲しくなります。血がたぎります。吐き出したいものがたまつて欲求不満になります。誰かに殺してほしくなります。でも、好きです。だからこれからもずっと買いつづけます。まとまった金はないから、本屋で買います。発売日お待ちください。（相模原市 久木崎真理 16）

□写真で見ると実際の舞台より、とてもきれいで広く見えるんですね。もきれいで広く見えるんですね。（印旛郡 内田玉美 15）

□かつてない演劇思い入れ雑誌のようなので、おもしろい今後も期待していますが、いまも同じ人読みたいで、「サイゼ」の感がぐくまません。もう少しセンスアップしてほしいです。写真で演じるウィジュアルマガジンにしては写真もあんまり好きじゃなかった。インタビューの内容など、おもしろいものが多いのだから、もう一息のフントウを。（ナマイキ言つてごめんなさい。）（世田谷区 坂本あすこ 25）

■ナマイキなとんでもありません。こういうおはがきが一番ありがたいのです。（足立区 福田恵 19）

from EDITORS

◎高校野球も開幕すると、さすがに演劇の公演も少なく、編集部一同本作りに邁進しています。先日、我が社の野球チーム「ボーテールズ」が中野区軟式野球大会に出場しました。結果、佐々木投手の健闘も空しく、8対7、時間切れで惜敗。で、出場費全員ボーナスで。

猿之助さんの「伊達の十役」を観にゆきました。外国人の団体客が来ている、田舎りがはじまる、大いにはい「FANTASTIC」を連発。さて、演劇ぶっく3号は、「FANTASTIC」か、全員ボーナスか。（田島 記）

Present

●本紙掲載の写真とキャプション、何ページのどれぞ、とはつきり明記して下さい。ものによってはない場合があるの、第2希望……

●「スワンソング」コースに取り上げた「演劇ぶっく」の劇団の公演に、又々名義御招待。地方公演の場合もあるから注意してね。

●本紙ライター山崎哲氏と歌院ルポライター朝倉昌司氏の対談本「犯罪の向う側へ」。80年代を代表する事件を読む、5名様に。

●月神歌劇団「帝国人形病院」のポスター、全面、本くに子さんのかわいイラスト入り／＼名義

かならず アンケートに答えること／＼次に、ほしものをのつて書いて、このページにのせ、ついでに切手もはりつけて、ポストに入れてしまおう！しほいけと楽しみなね。ウフフ……

B N

No. 1 巻頭インタビュー 橋川幸雄・遠藤三子□□劇団第三舞台「デジャ・ヴー86」俳優優介・堀上尚史インタビュー劇団300・千の眼のカテナツア「渡辺の子」インタビュー劇団青い鳥「クラウド」制作ノート第三エロチカ・転形劇場・夢の遊眠社□□アンダーソン・市川猿之助。月神歌劇団。東京ランギンギョル。他

No. 2 巻頭インタビュー 根津基八遠藤三子□□×鶴川幸雄「オマセー・1986」破産大地真央・カフカの夢。第二舞台「スワンソング」聴こえる場所」夢の遊眠社「石原台星七変化3部作」第三エロチカ俳優優介・「ラストフライングタイタン」制作ノート68／71黒アト。白虎社。劇団青い鳥。状況劇場。中村橋之助。フリの目発団。自転車キンクリート。他



池袋、西武ブックセンター（ワイスフル）で、「演劇ぶっく」のフェアを開催中です！

演劇ぶっく 第三号第一巻通巻三一九八六年九月一日発行
編集人 坂口真人
発行所 南演劇ぶっく社
〒164東京都中野区中野5-67-6
03-(222)2545代
印刷所 樹文化印刷

次号（第4号）10月30日発売！

●定期購読申し込みのおすすめ

本誌を毎回確実に入手していただくために、定期購読をご利用ください。

購読料金（500円+送料100円）×6回=3,600円 ハガキか電話でお申し込み下さい。本誌といっしょに郵便振替用紙をお送りします。

演劇ぶっく STAFF…編集：秋吉三鈴 梅本承平 大島みどり 榎原かずこ 白鳥皓 飯田孝男 日吉真仁 増田孝光 山口猛 横田直秀 木村益夫 カメラ：青木司 神村光洋 高橋理 羽永光利 デザイン：装文社（黒沢恭子 市川緑） 落合星文 手塚一弘 題字：櫻澤一美 営業：赤堀智見 八田宏一郎 藤野和樹 佐々木秀隆 山田正満 山河薫 玉城満

